

**富山市**  
**子どもの生活実態調査結果報告書**  
**【概要版】**

**令和6年3月**  
**富山県 富山市**

## 目次

目次.....	1
第1章 調査の概要.....	2
1 調査の目的.....	2
2 調査対象者.....	2
3 調査期間.....	2
4 調査方法.....	2
5 調査票の配布数・回収率.....	2
6 調査結果に関する注意点.....	2
7 クロス集計.....	3
第2章 調査の結果（概要）.....	5
1 保護者の生活状況.....	5
（1）世帯収入の状況.....	5
（2）現在の暮らしの状況についての認識.....	7
（3）食料が買えなかった経験.....	10
（4）子どもの進学段階に関する希望・展望.....	13
（5）進学先を「高校まで」と考える理由.....	16
（6）支援制度の利用状況.....	21
（7）支援制度を利用していない理由.....	31
（8）子育てを楽しいと感じることが多いか.....	39
2 子どもの生活状況.....	42
（1）ふだん（学校がある日の1日）の勉強時間.....	42
（2）クラスの中での成績.....	45
（3）朝食の状況.....	48
（4）進学したいと思う教育段階.....	51
（5）進学先を「高校まで」と考える理由.....	54
（6）生活満足度.....	59
（7）家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）.....	62
（8）兄弟・姉妹の世話.....	65
（9）親や祖父母など大人の家族の世話.....	68
（10）家事などの活動に感じる大変さ.....	71
（11）あなたは学校が終わってからどこで過ごすことが多いですか.....	75
（12）あなたがホッとできる居場所はどこですか.....	78

## 第1章 調査の概要

### 1 調査の目的

富山市における子どもや家庭の生活等について、富山県の調査結果と比較しながら、実態を把握し、今後の本市における子ども・子育てに係る施策に反映する。

### 2 調査対象者

小学5年生 3,159人（富山市立小学校 64校）とその保護者

中学2年生 3,296人（富山市立中学校 25校）とその保護者

### 3 調査期間

令和5年12月5日～令和5年12月22日

### 4 調査方法

各小中学校を通じて、小学5年生及び中学2年生とその保護者に調査票を配布・回収した。

### 5 調査票の配布数・回収率

各調査票の配布数および回収数・回収率を以下に示す。

表 1.1. 小学5年生・保護者への調査票配布数等

調査対象者	小学5年生児童と保護者		
区分	配布数（人）	回収数（人）	回収率（%）
児童	3,159	2,920	92.4
保護者	3,159	2,926	92.6

表 1.2. 中学2年生・保護者への調査票配布数等

調査対象者	中学2年生児童と保護者		
区分	配布数（人）	回収数（人）	回収率（%）
児童	3,296	2,800	85.0
保護者	3,296	2,786	84.5

### 6 調査結果に関する注意点

- 調査結果の数値については、小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%にならない場合がある。
- 複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合がある。
- 調査結果の基数となる実数は「n」として標記し、各グラフ内での比率は「n」を母数とした割合を示す。
- グラフのうち、黒枠で囲まれているものは本調査結果を示しており、黒枠で囲まれていないもので、タイトルに[県調査結果]と記載されたものや、グラフ又は表の各項目に(県)と標記しているものについては、富山県令和4年度こどもの生活状況調査の結果を示す。
- 原則として、単純集計は「不明・無回答」を含んで集計し、クロス集計は「不明・無回答」は除いて集計を行っている。

## 7 クロス集計

全国調査（※）の結果分析に準じて、以下の方法により分類を行った。

### （1）所得累計

- ① 家族構成に関する設問と世帯年間収入に関する設問に対する回答に基づき、家族人数による差を調整するため、当該世帯の収入を同居している家族人数の平方根で除した金額を算出（世帯年間収入 $\div\sqrt{\text{家族人数}}$ ）した。
- ② ①で算出した金額（等価世帯収入）を高い順に並べ、その中央値を算出した。
- ③ ②で算出した中央値の2分の1の金額未満を算出し、「中央値以上」、「中低位の水準の世帯」（中央値の2分の1以上中央値未満）、「もっとも収入の水準が低い世帯」（中央値の2分の1未満）に分類した。
- ④ ③のうち、「中低位の水準の世帯」と「もっとも収入の水準が低い世帯」を合わせて、「収入の水準が低い世帯」とした。

表 1.3 年間世帯収入の中央値等

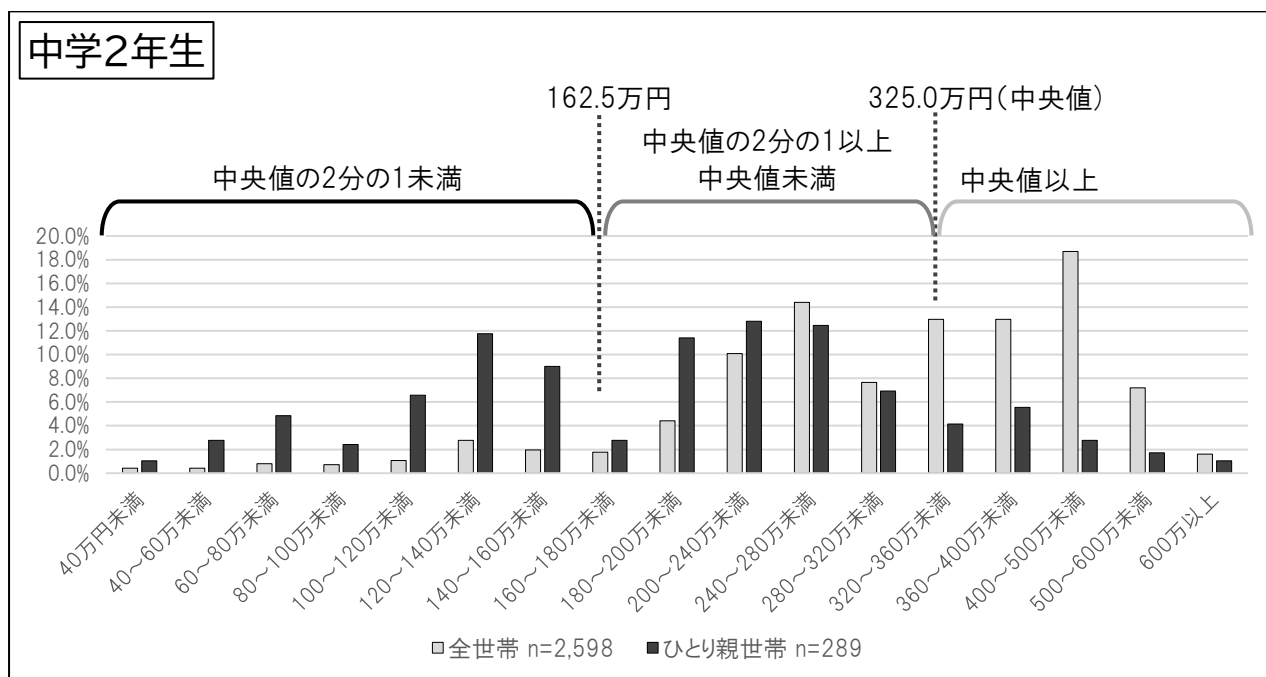
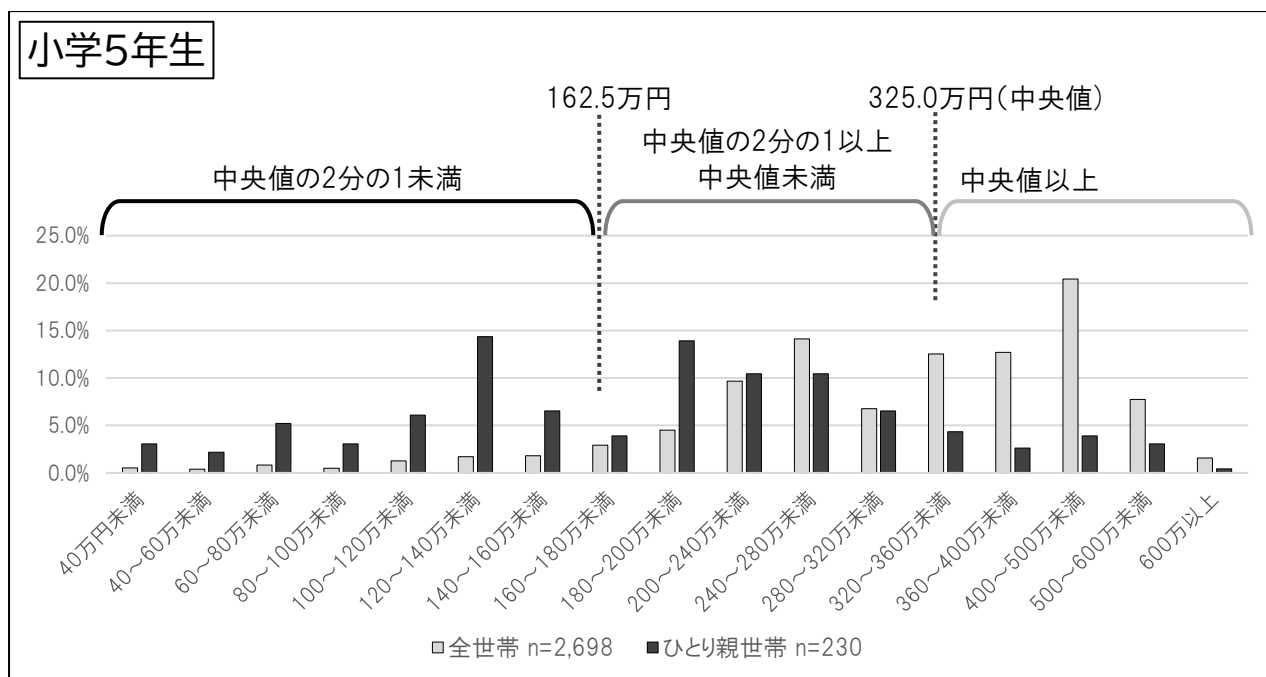
区分	等価世帯収入の中央値	中央値の2分の1
市小学生	325.0万円	162.5万円
市中学生	325.0万円	162.5万円
県小学生	325.0万円	162.5万円
県中学生	325.0万円	162.5万円

### （2）世帯類型

親の婚姻状況に関する設問において、「離婚」、「死別」、「未婚」と回答した世帯を「ひとり親世帯」、ひとり親世帯以外の世帯を「ふたり親世帯」、それらを合わせて「全体」と分類した。

※ 全国調査とは、令和2年度に内閣府が実施した「令和3年 子供の生活状況調査の分析」（中学2年生とその保護者を対象）

図表1. 所得類型による割合

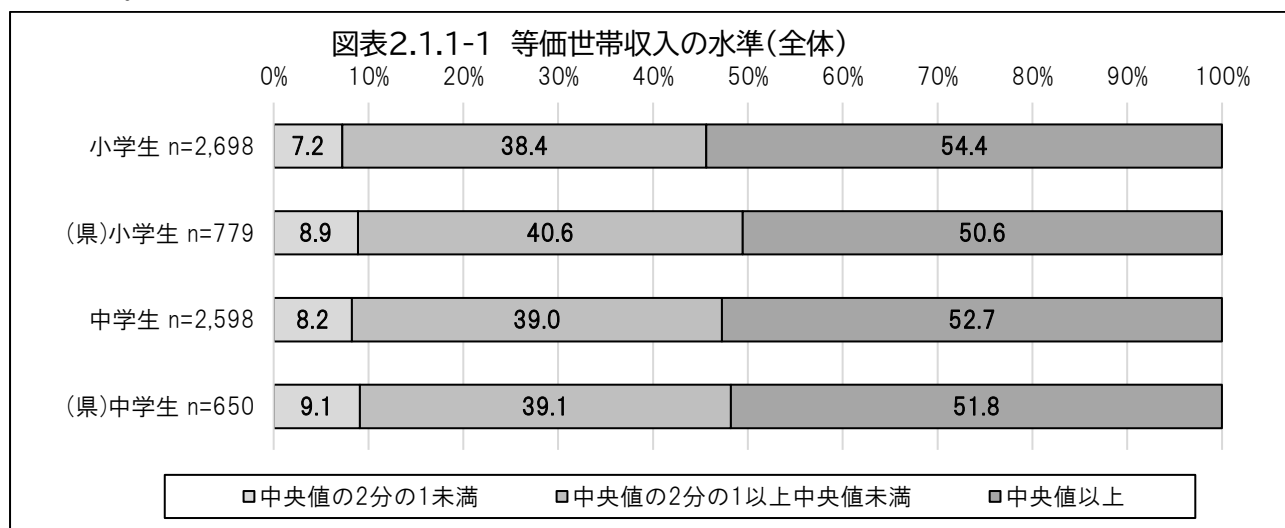


## 第2章 調査の結果（概要）

### 1 保護者の生活状況

#### （1-1）世帯収入の状況（等価世帯収入別）

○世帯収入の状況については、小学生、中学生ともに県の調査結果と大きな違いはありませんでした。

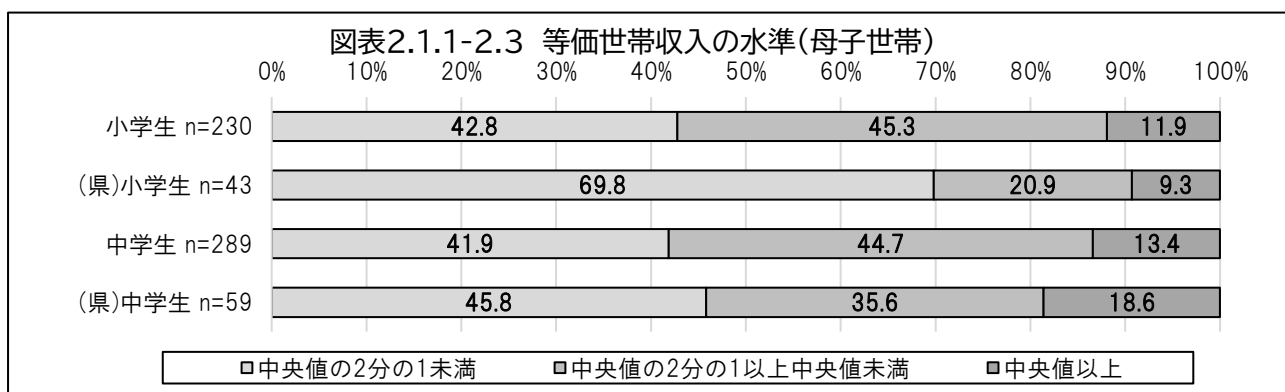
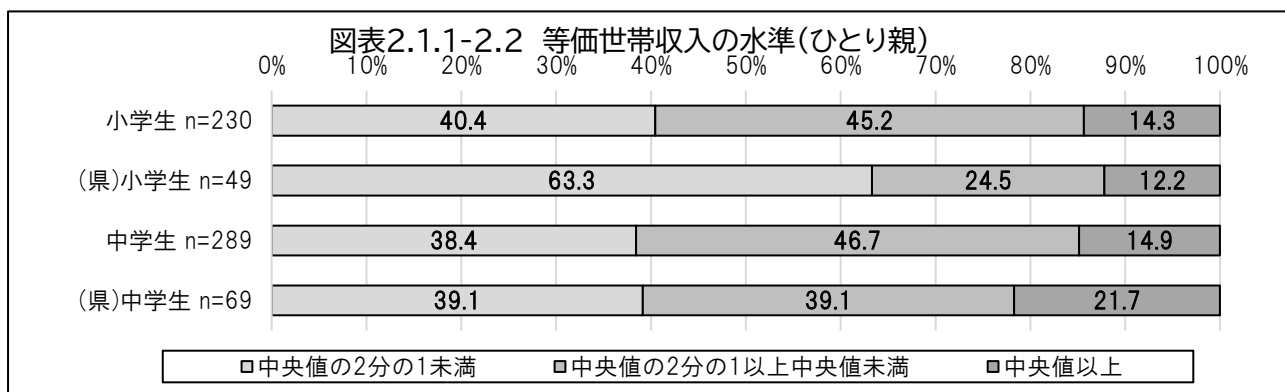
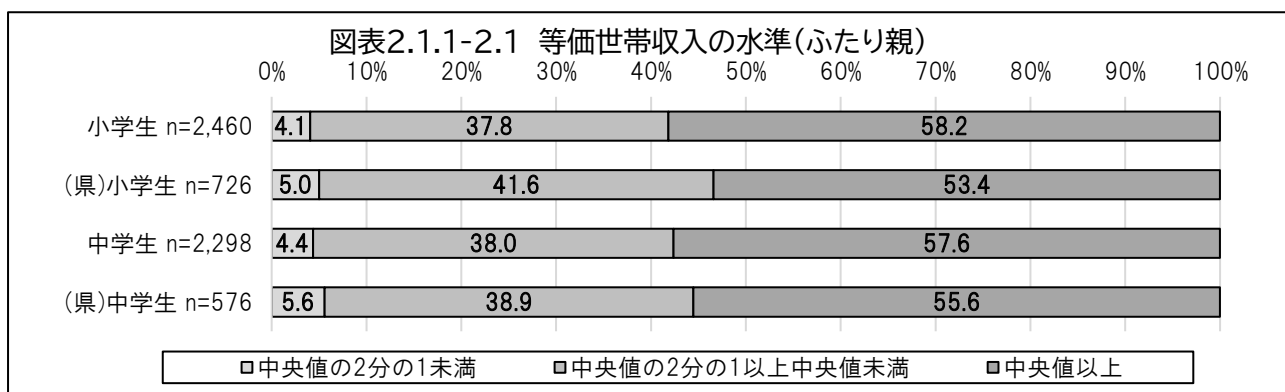


(1-2) 世帯収入の状況(世帯別)

○ふたり親の「もっとも収入の水準が低い世帯(中央値の2分の1未満)」は、小学生が4.1%で、県調査(5.0%)と比較して0.9%低く、中学生が4.4%で、県調査(5.6%)と比較して1.2%低くなっています。

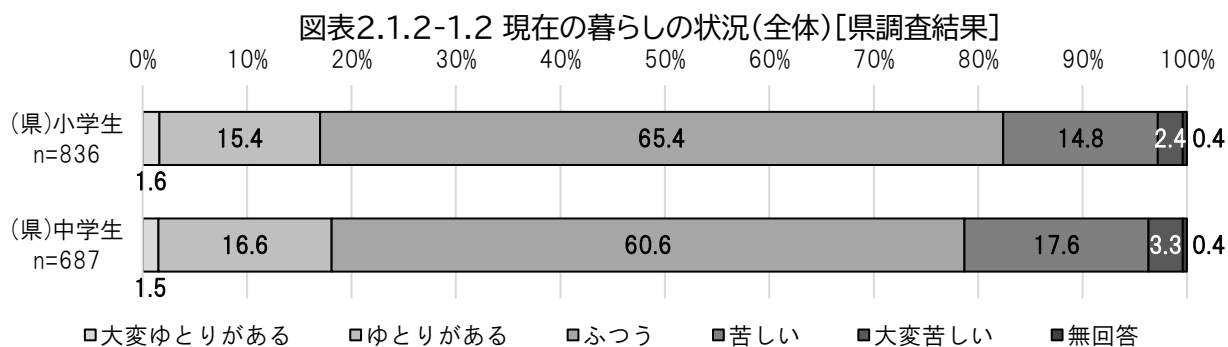
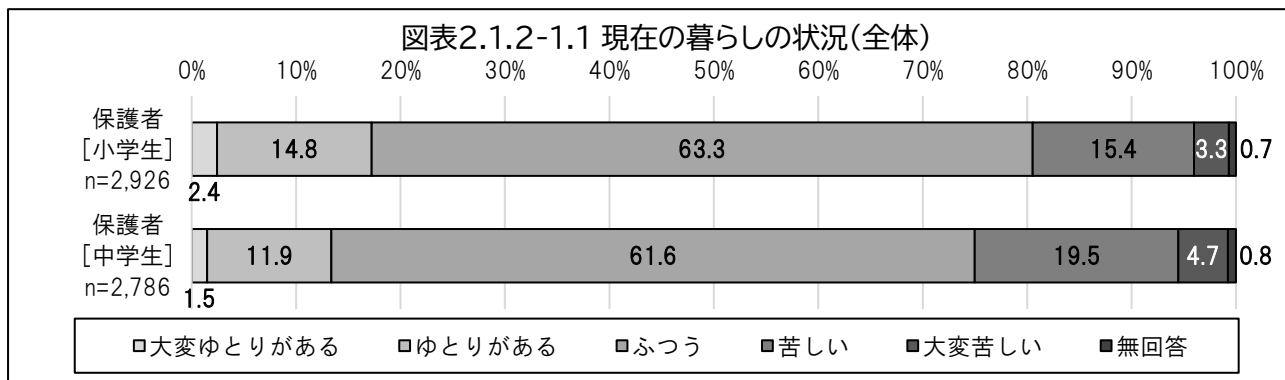
○ひとり親の小学生(40.4%)では、県調査(63.3%)と比較して22.9%低くなっています。中学生(38.4%)は、県調査(39.1%)と比較して0.7%低くなっています。

○母子世帯の小学生(42.8%)では、県調査(69.8%)と比較して27.0%低くなっています。中学生(41.9%)は、県調査(45.8%)と比較して3.9%低くなっています。



(2-1) 現在の暮らしの状況についての認識 (全体)

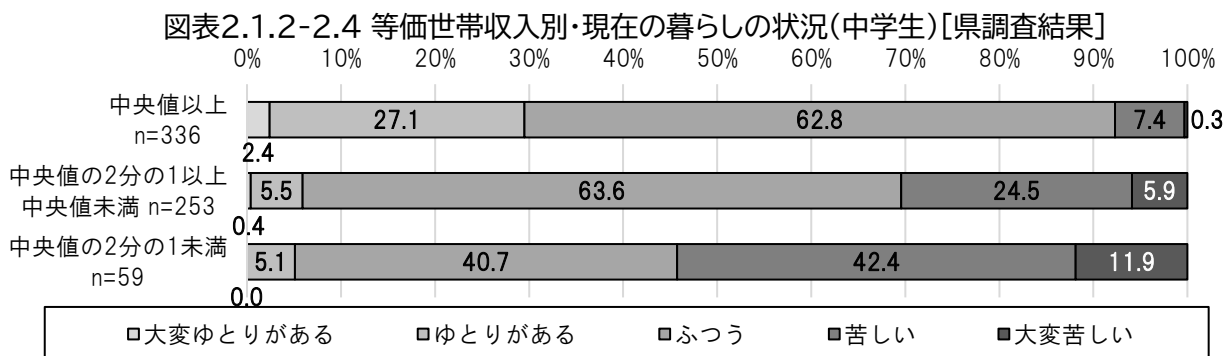
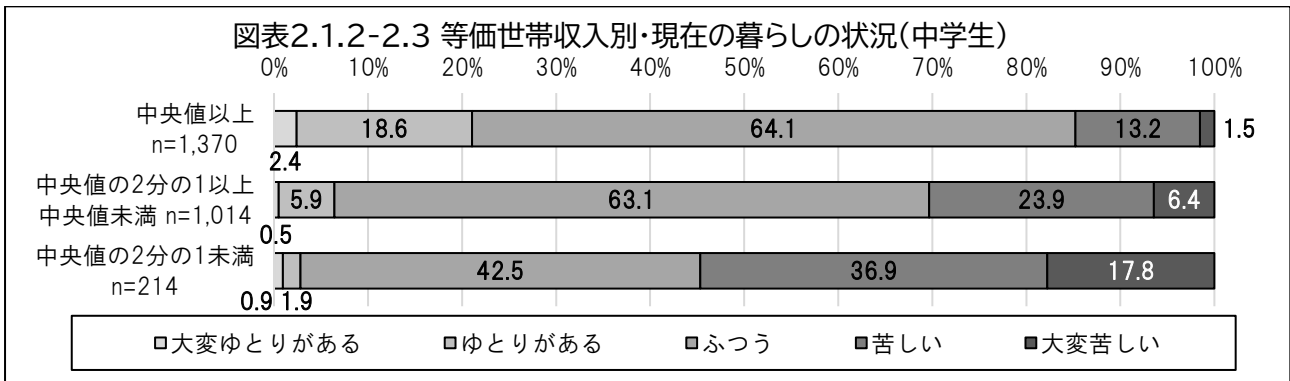
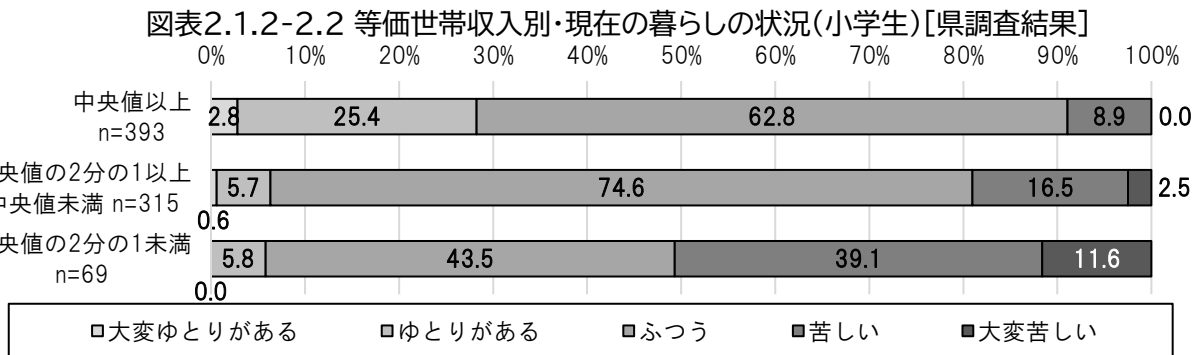
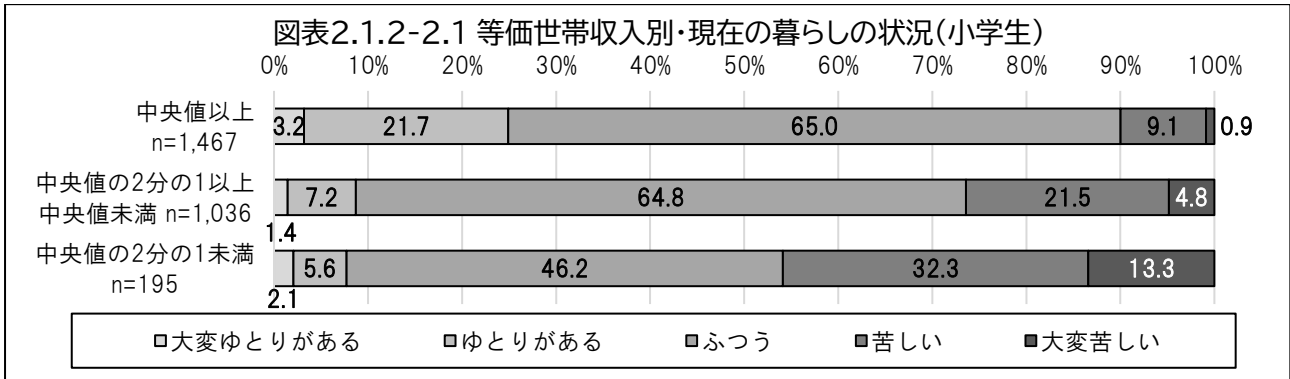
○現在の暮らしの状況をどのように感じているかについて、「大変ゆとりがある」又は「ゆとりがある」と回答した割合が、小学生が17.2%、中学生が13.4%となっています。一方、「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、小学生が18.7%、中学生が24.2%となっています。





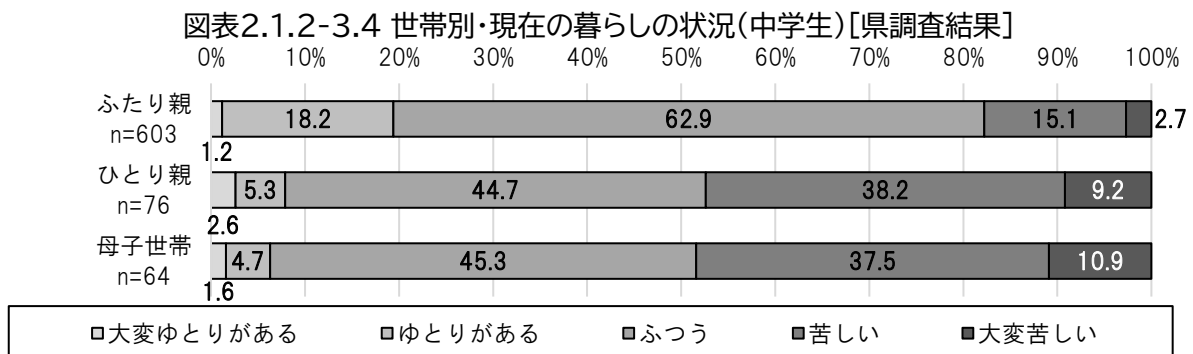
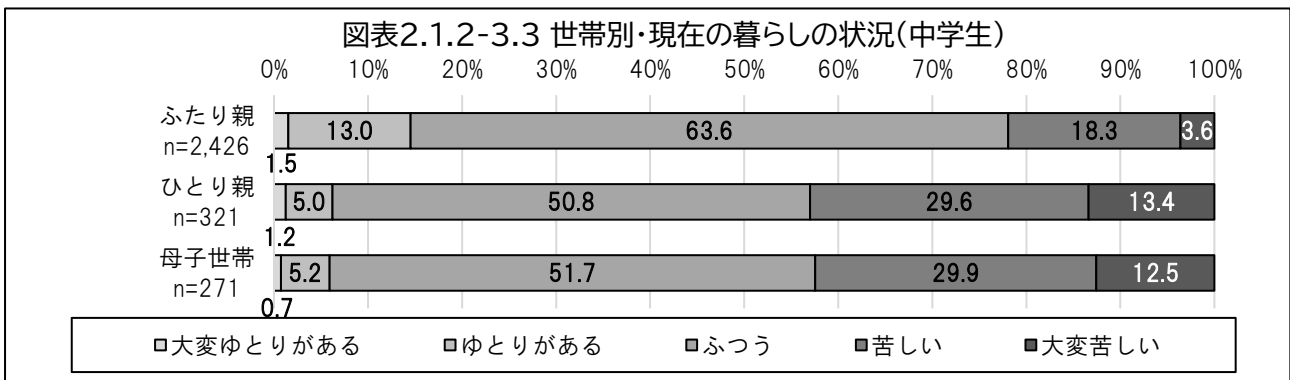
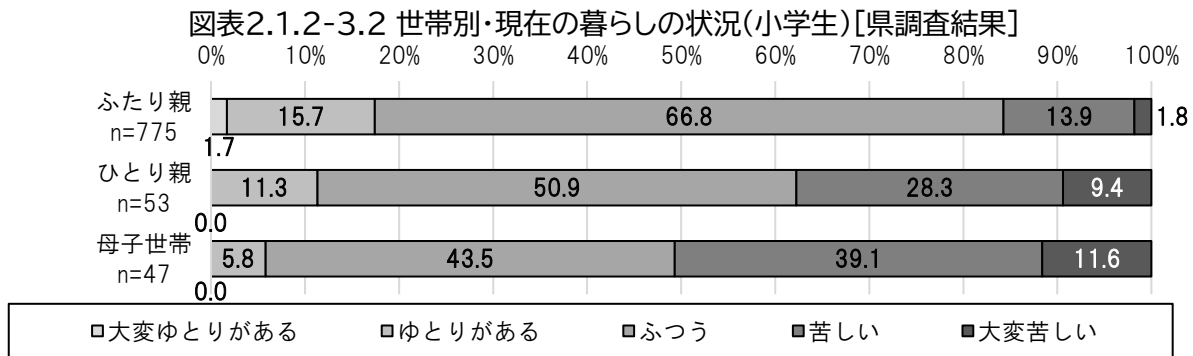
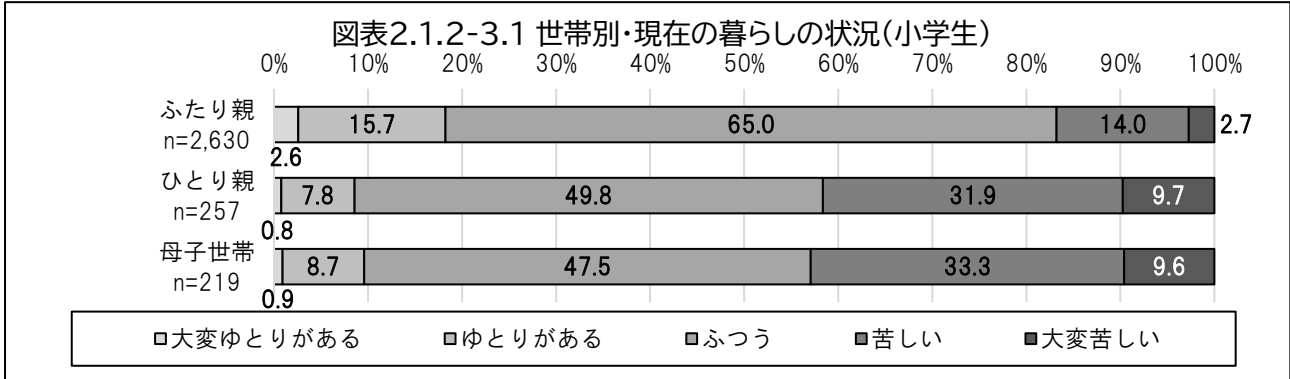
(2-2) 現在の暮らしの状況についての認識（等価世帯収入別）

○現在の暮らしの状況をどのように感じているかについて、「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では、小学生が45.6%で、全体（18.7%）と比較して26.9ポイント、中学生が54.7%で、全体（24.2%）と比較して30.5ポイント高くなっています。



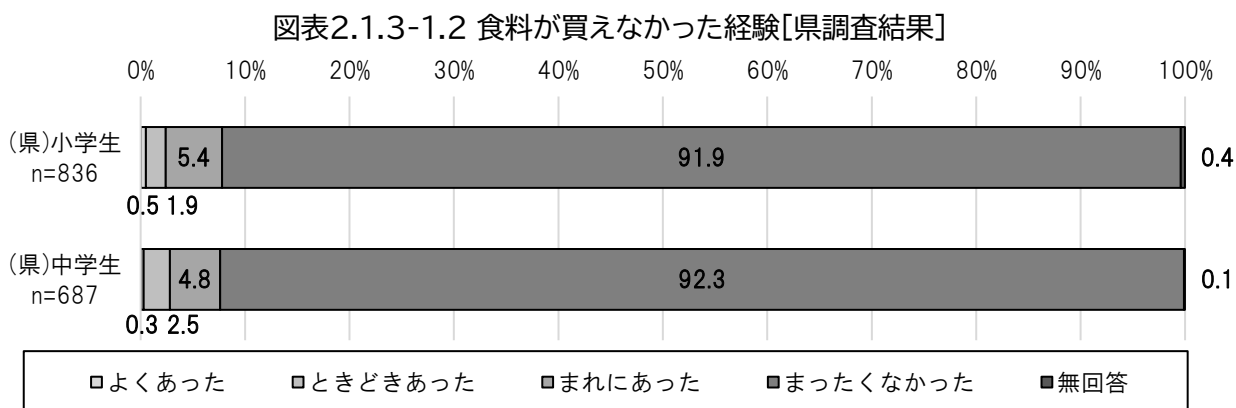
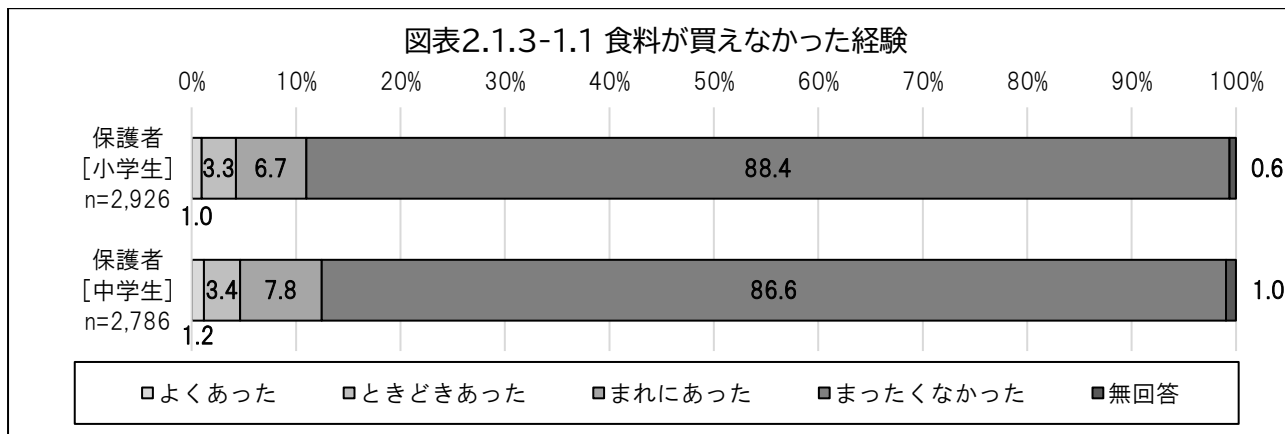
(2-3) 現在の暮らしの状況についての認識（世帯別）

○現在の暮らしの状況をどのように感じているかについて、「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、ひとり親世帯の小学生が41.6%で、全体（18.7%）と比較して22.9<sup>※1</sup>、中学生が43.0%で、全体（24.2%）と比較して18.8<sup>※1</sup>高くなっています。



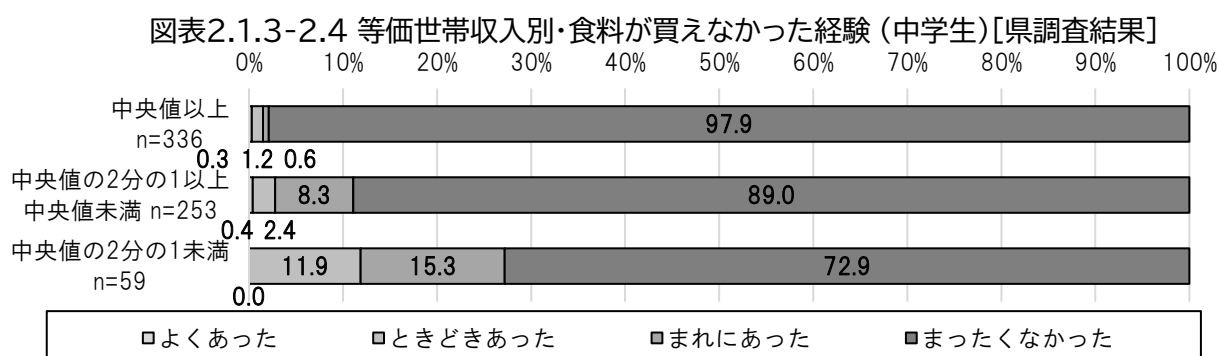
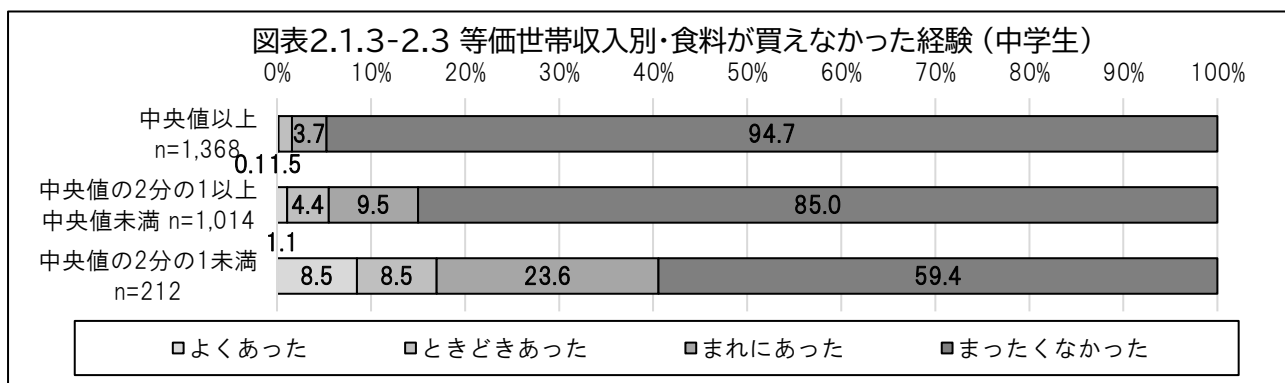
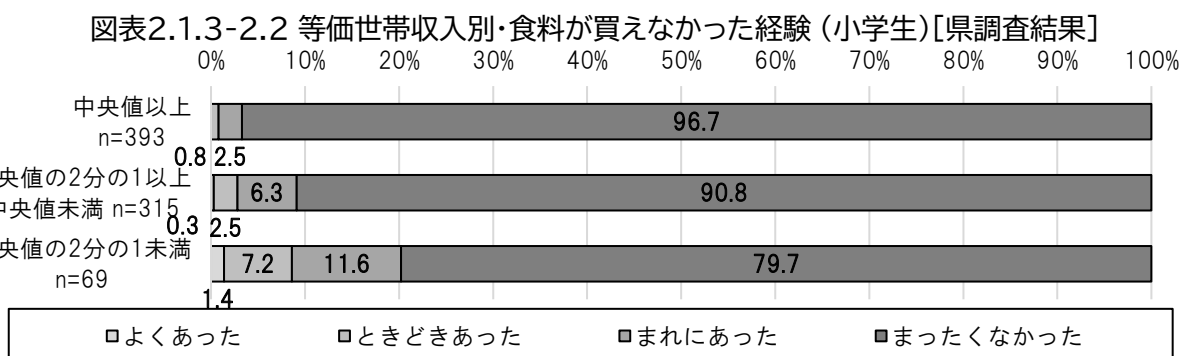
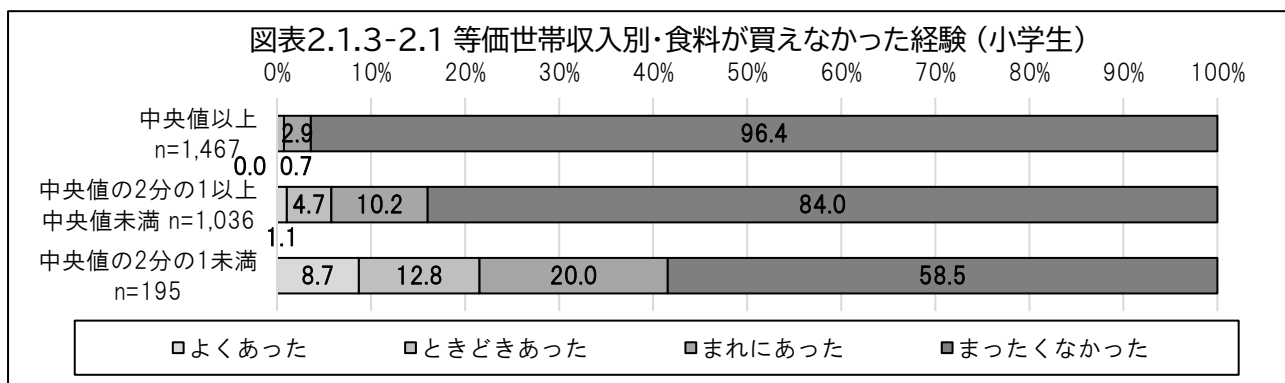
(3-1) 食料が買えなかった経験（全体）

○食料が買えないことがあったかについて、「あった」と回答した割合（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）は、小学生が11.0%、中学生が12.4%となっています。また小学生（11.0%）、中学生（12.4%）ともに、県調査（7.8%、7.6%）と比較して高くなっています。



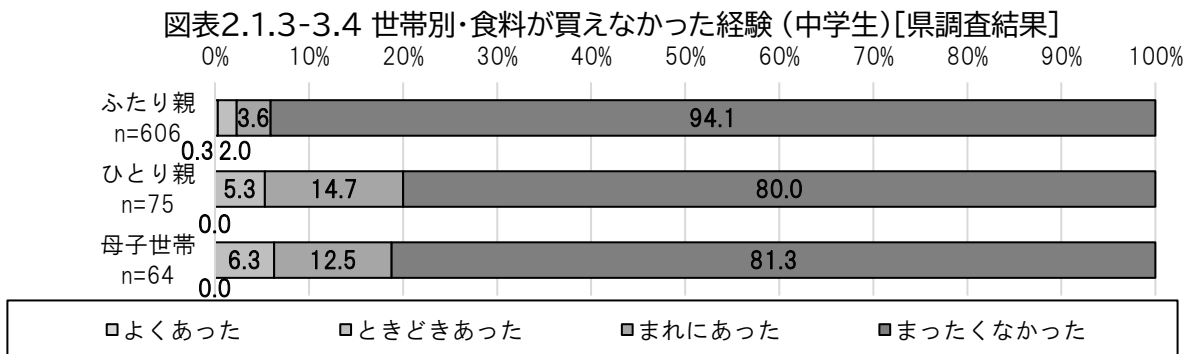
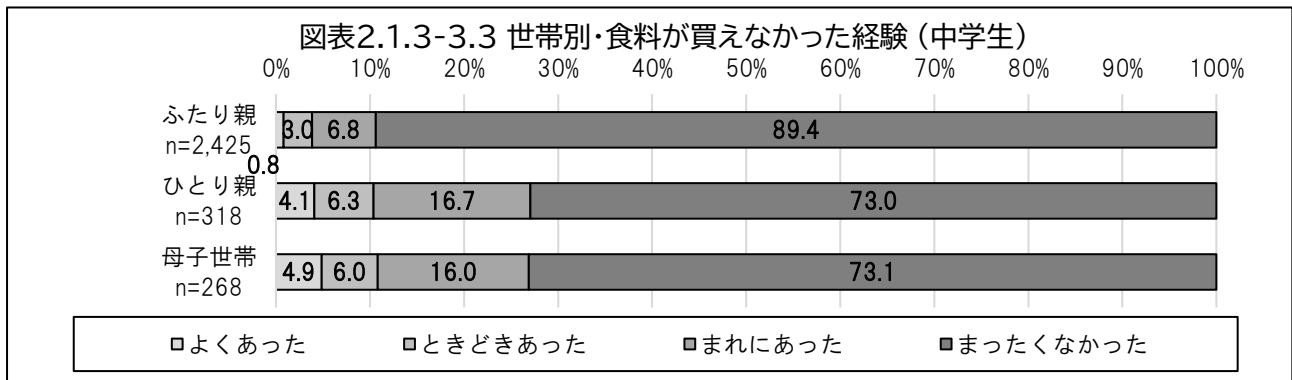
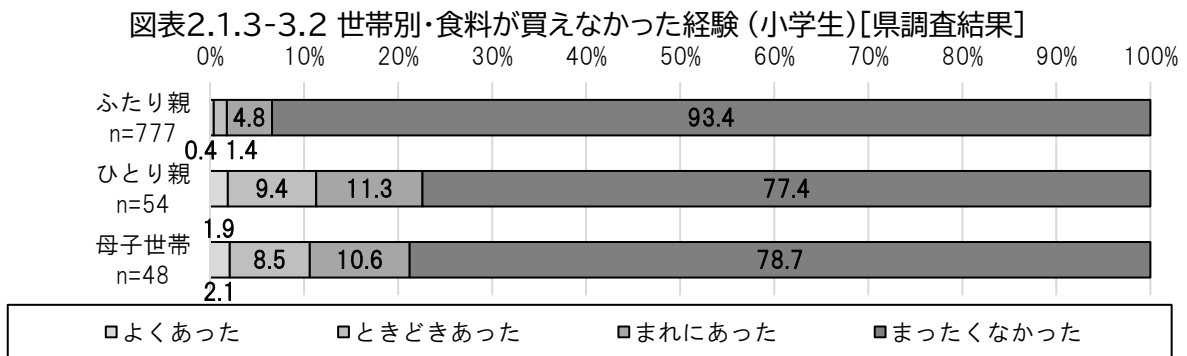
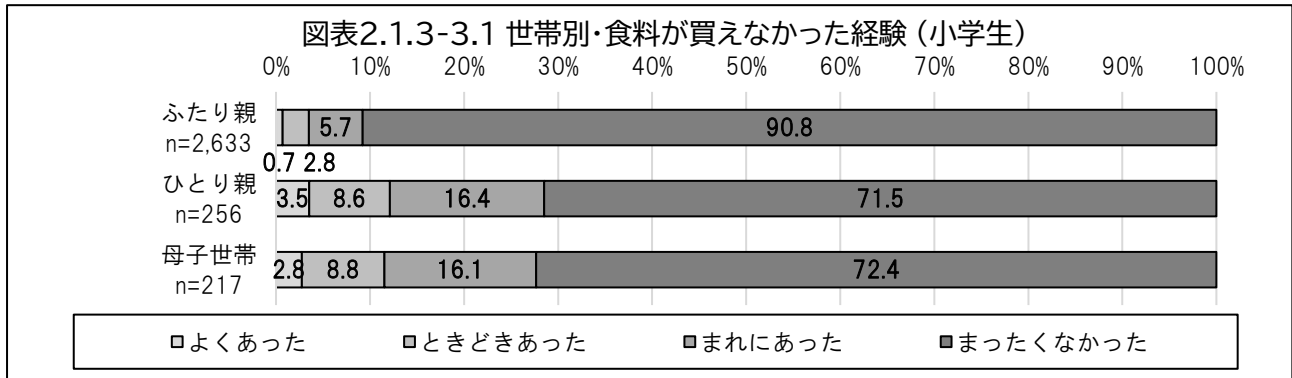
(3-2) 食料が買えなかった経験（等価世帯収入別）

○「あった」と回答する割合（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）は、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では、小学生が41.5%で、全体（11.0%）と比較して30.5%<sup>※</sup>、中学生が40.6%で、全体（12.4%）と比較して28.2%<sup>※</sup>高くなっています。また小学生、中学生ともに、県調査（20.2%、27.2%）と比較して高くなっています。



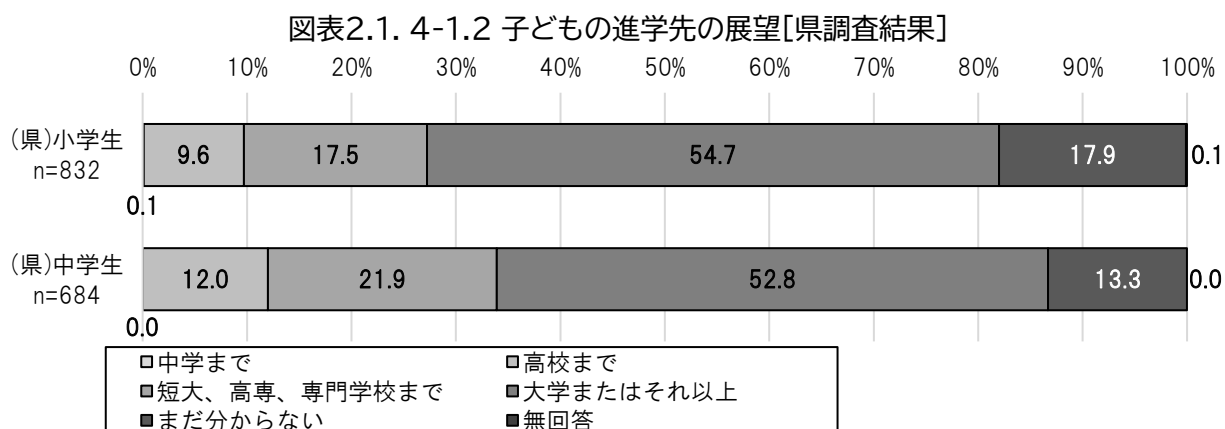
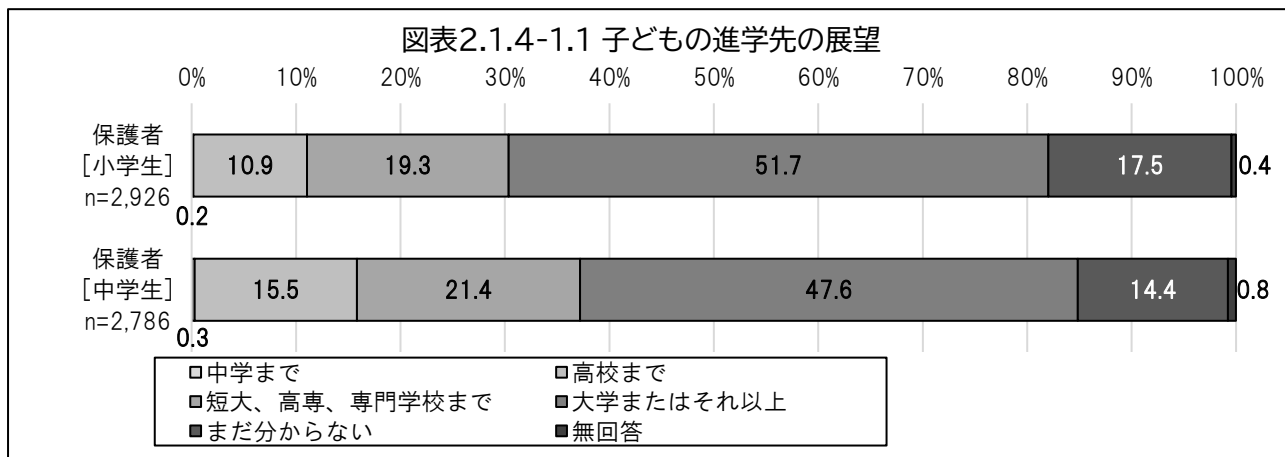
(3-3) 食料が買えなかった経験（世帯別）

○「あった」と回答する割合（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）は、「ひとり親」では、小学生が28.5%で、全体（11.0%）と比較して17.5%、中学生が27.1%で、全体（12.4%）と比較して14.7%高くなっています。また小学生、中学生ともに、県調査（22.6%、20.0%）と比較して高くなっています。



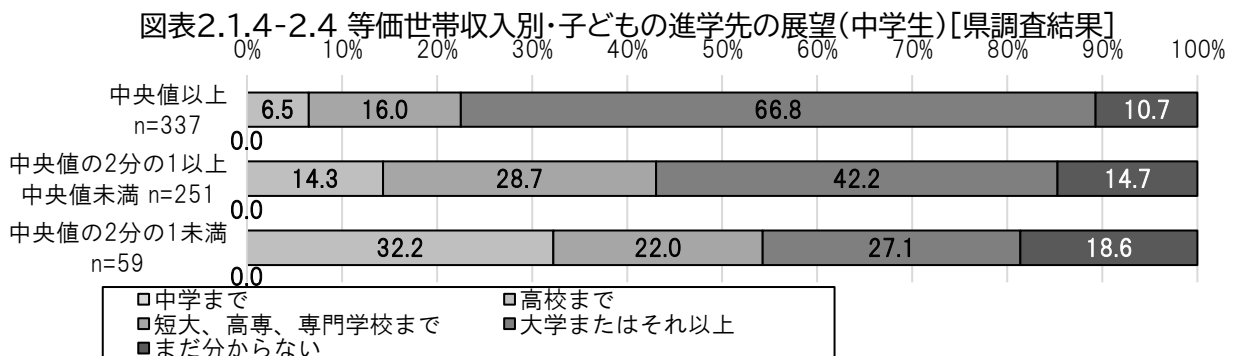
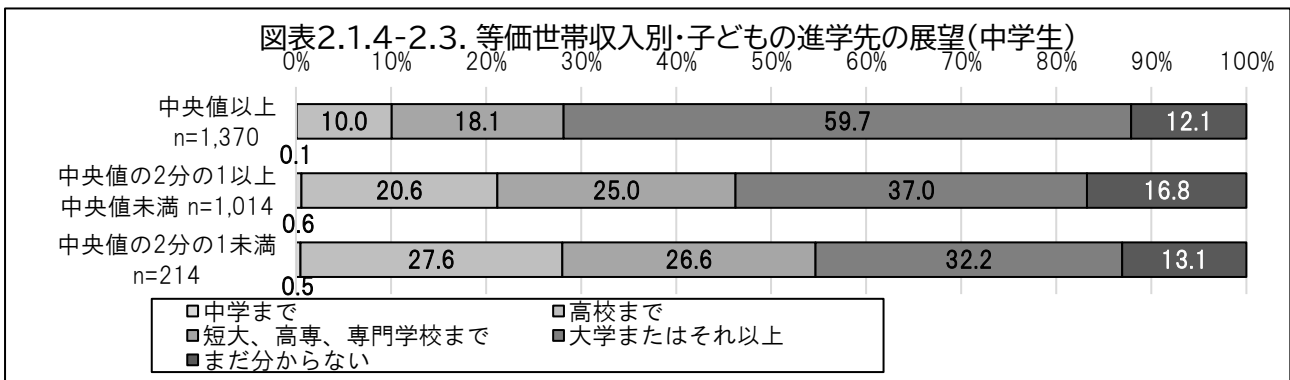
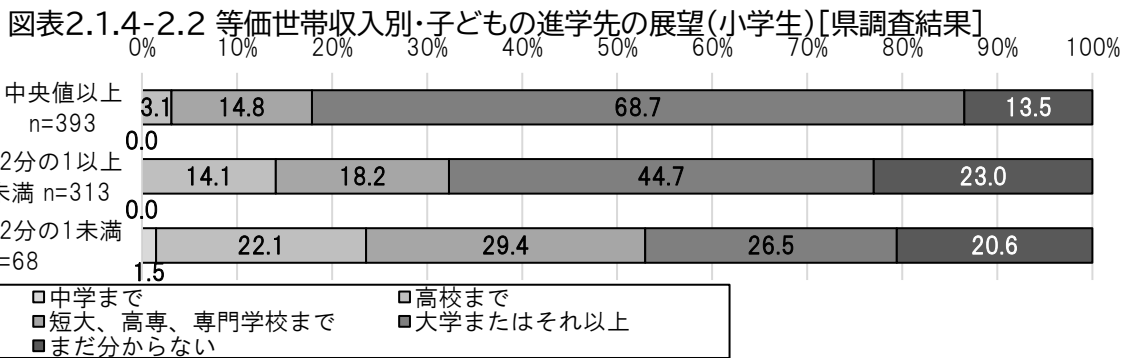
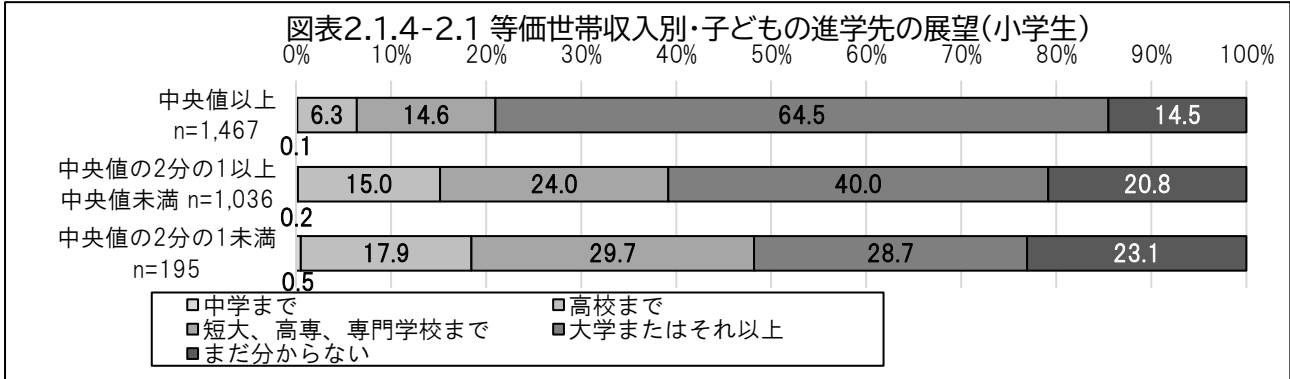
(4-1) 子どもの進学段階に関する希望・展望（全体）

○保護者が考える「子どもの進学先の展望」については、「大学またはそれ以上」が、小学生で51.7%、中学生で47.6%と最も高くなっています。次いで、「短大、高専、専門学校まで」が小学生で19.3%、中学生で21.4%と高くなっています。



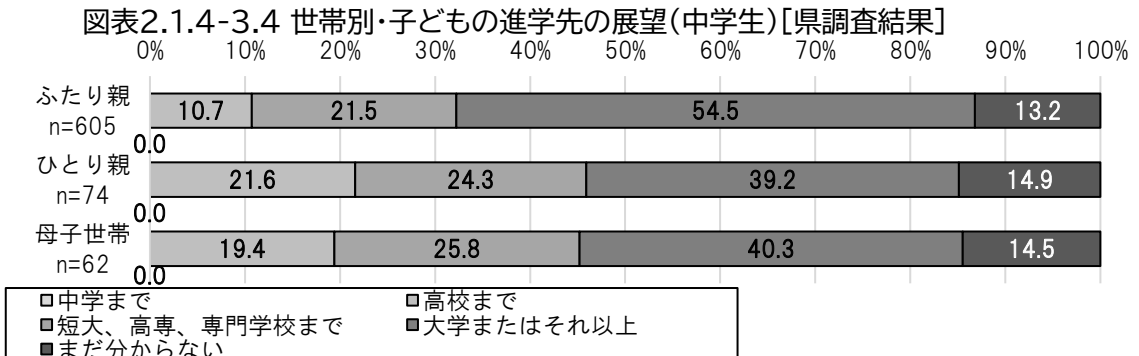
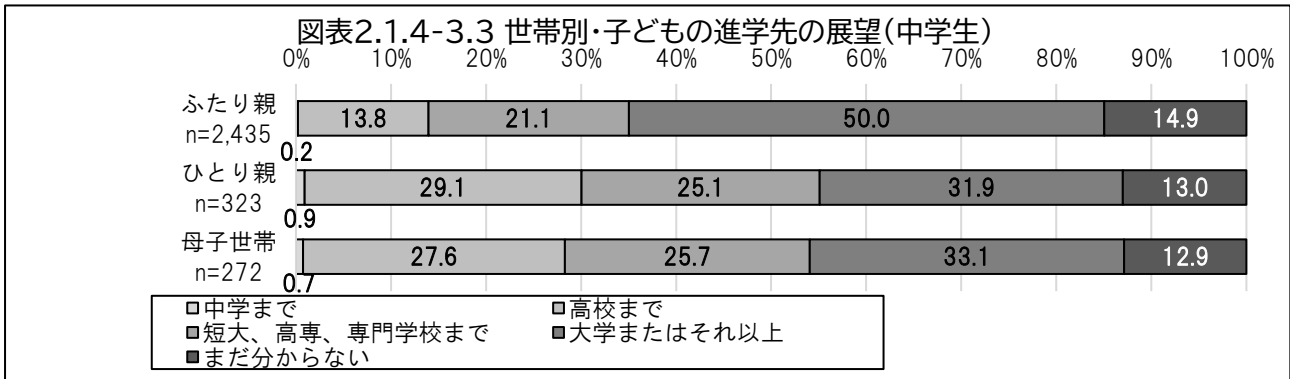
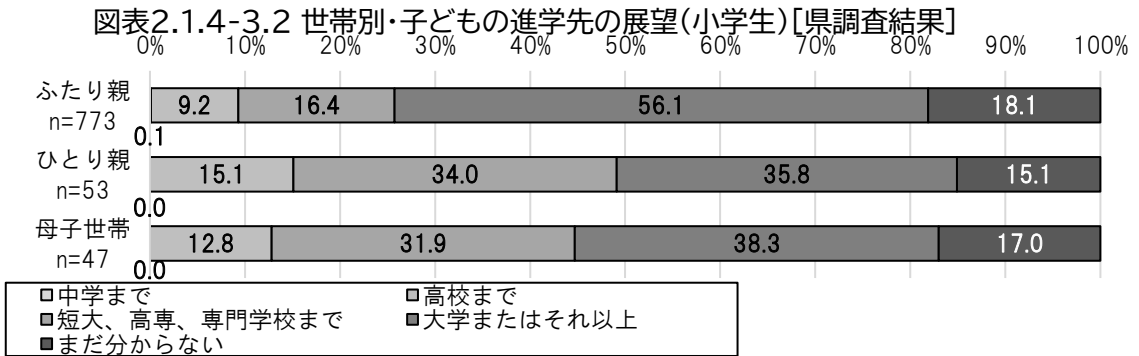
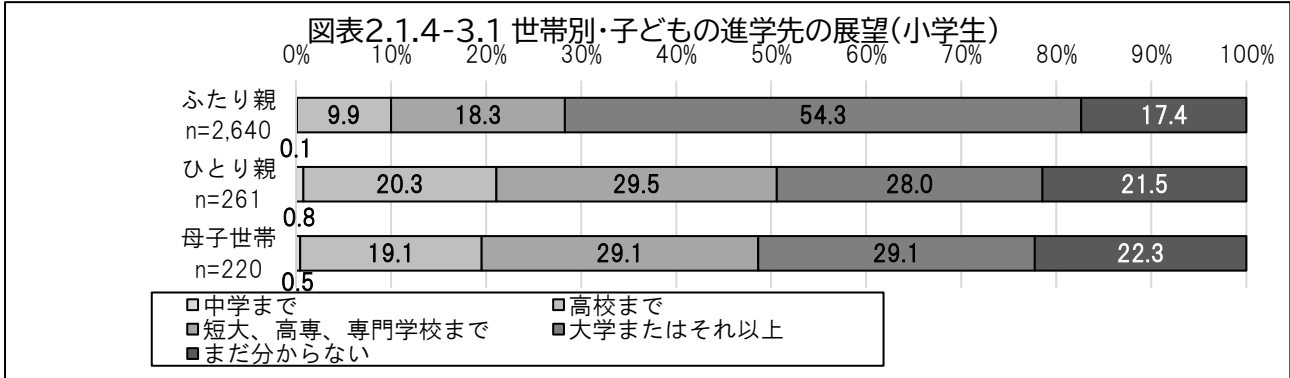
(4-2) 子どもの進学段階に関する希望・展望（等価世帯収入別）

○「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では小学生が51.7%、中学生が47.6%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯(中央値の2分の1未満)」では、小学生が28.7%、中学生が32.2%と低くなっています。



(4-3) 子どもの進学段階に関する希望・展望（世帯別）

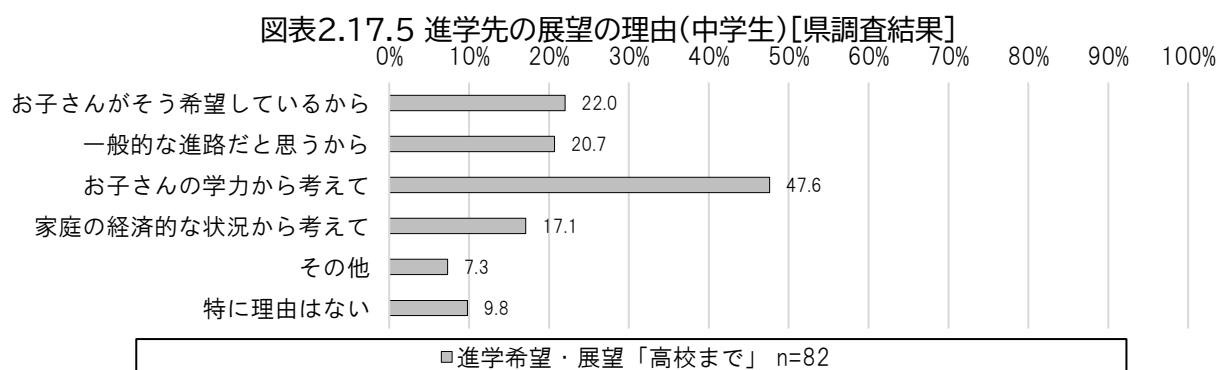
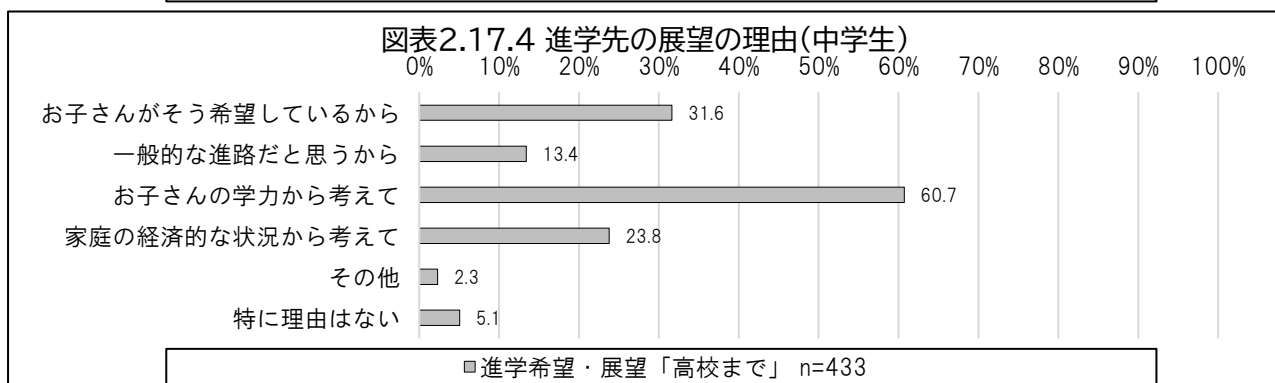
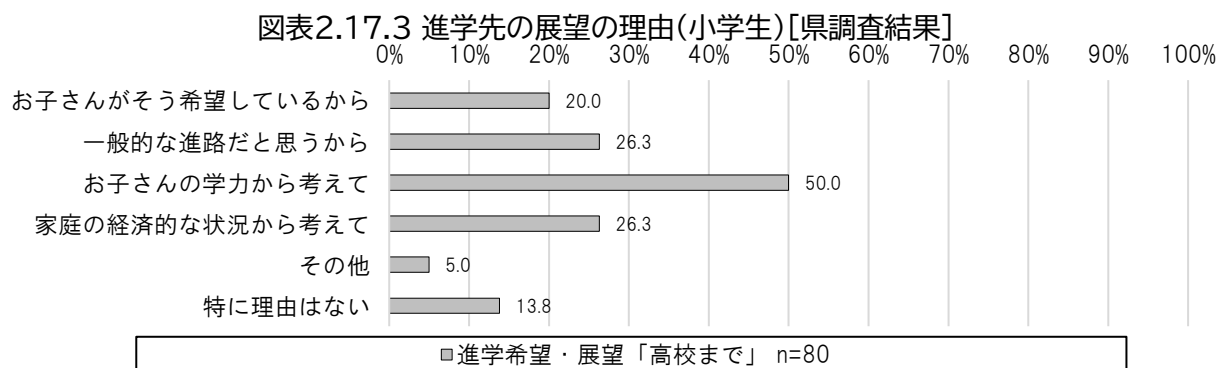
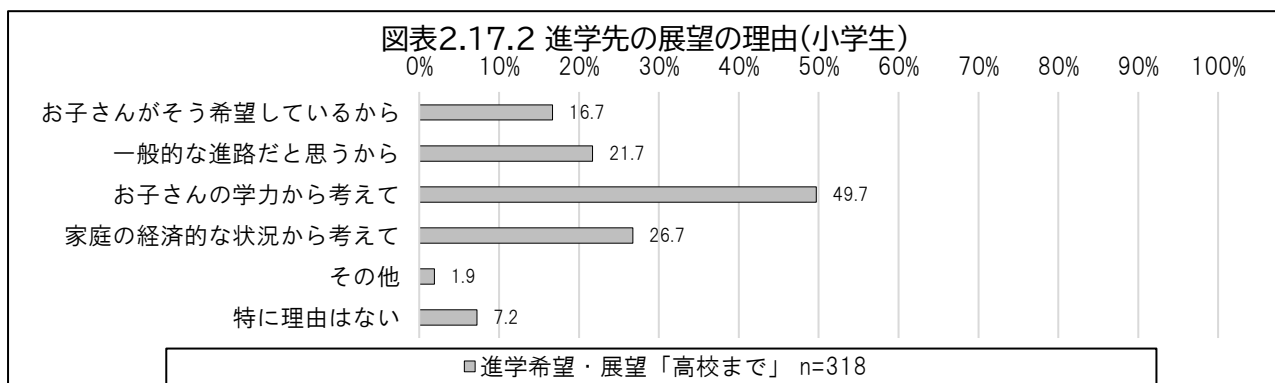
○「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では小学生が51.7%、中学生が47.6%であったのに対し、ひとり親世帯では、小学生が28.0%、中学生が31.9%と低くなっています。





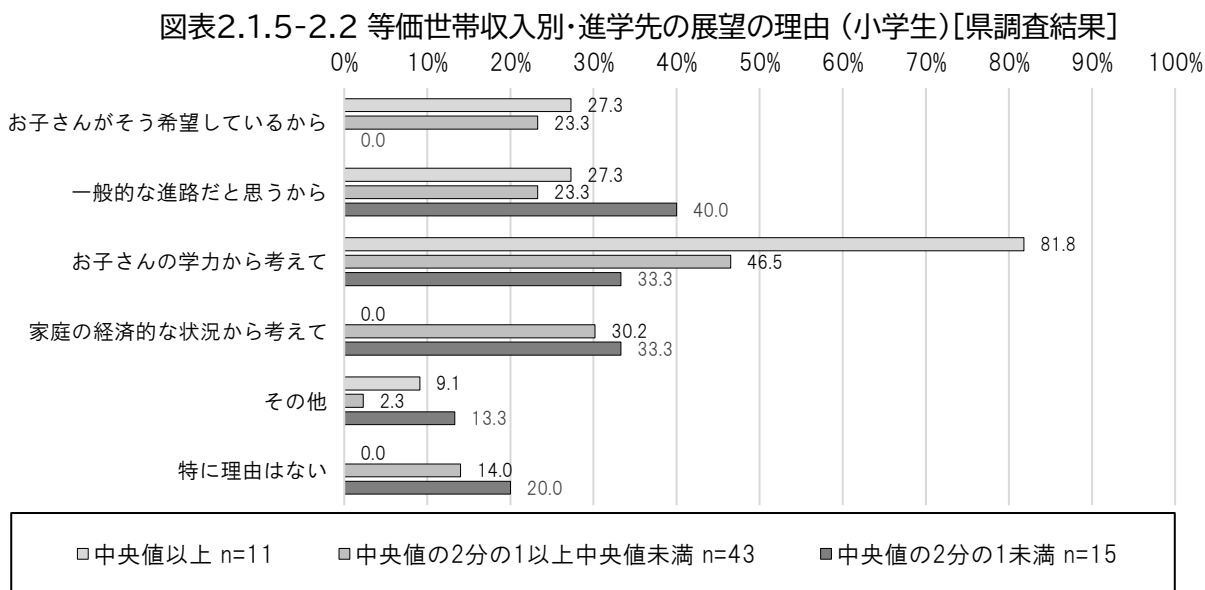
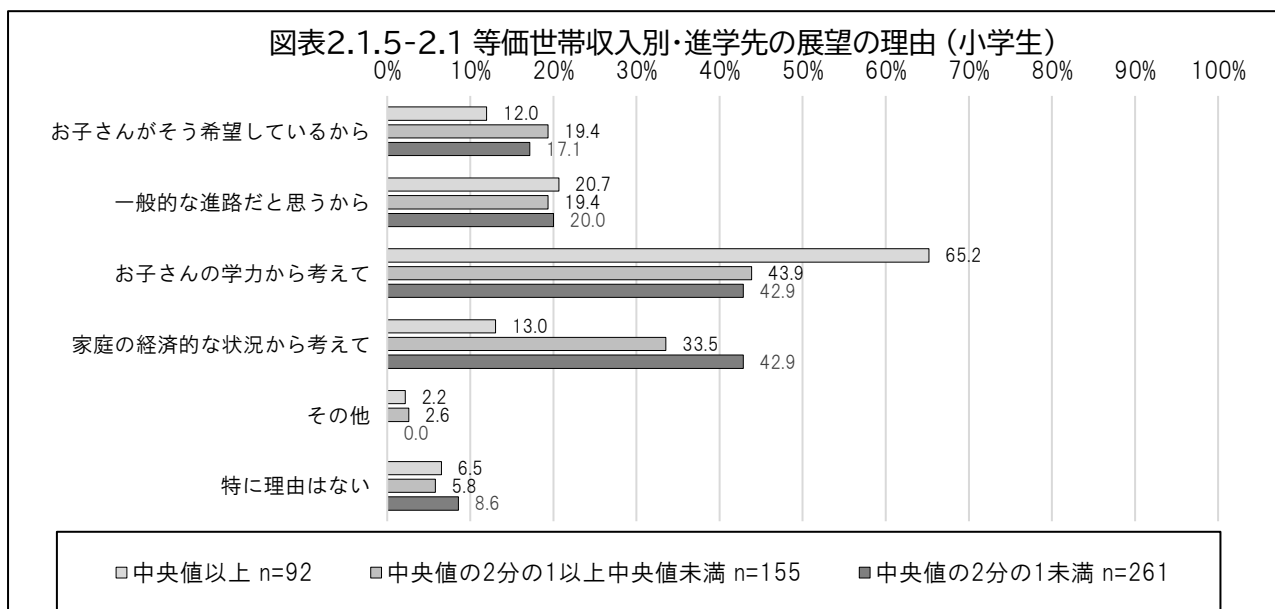
(5-1) 進学先を「高校まで」と考える理由(全体)

○進学先を「高校まで」と考える理由は、小学生では「お子さんの学力から考えて」が49.7%と最も高く、次いで「家庭の経済的な状況から考えて」が26.7%、「一般的な進路だと思うから」が21.7%となっています。中学生では、「お子さんの学力から考えて」が60.7%と最も高く、次いで「お子さんがそう希望しているから」が31.6%、「家庭の経済的な状況から考えて」が23.8%となっています。

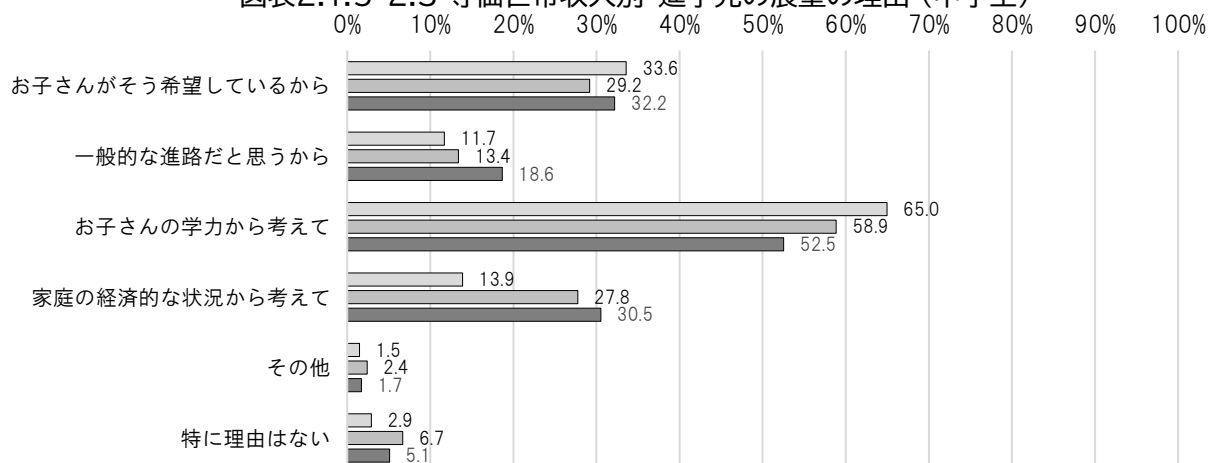


(5-2) 進学先を「高校まで」と考える理由（等価世帯収入別）

○「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合は、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では、小学生が42.9%で、全体（26.7%）と比較して16.2%、中学生が30.5%で、全体（23.8%）と比較して、6.7%高くなっています。また、小学生、中学生ともに、県調査（33.3%、0.0%）と比較して高くなっています。

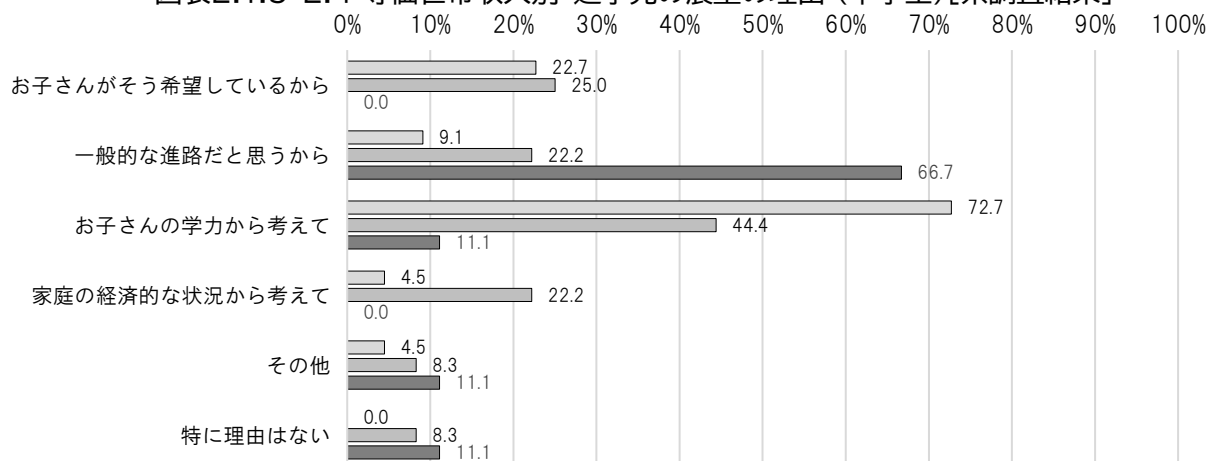


図表2.1.5-2.3 等価世帯収入別・進学先の展望の理由（中学生）



□中央値以上 n=137    ▨中央値の2分の1以上中央値未満 n=209    ■中央値の2分の1未満 n=59

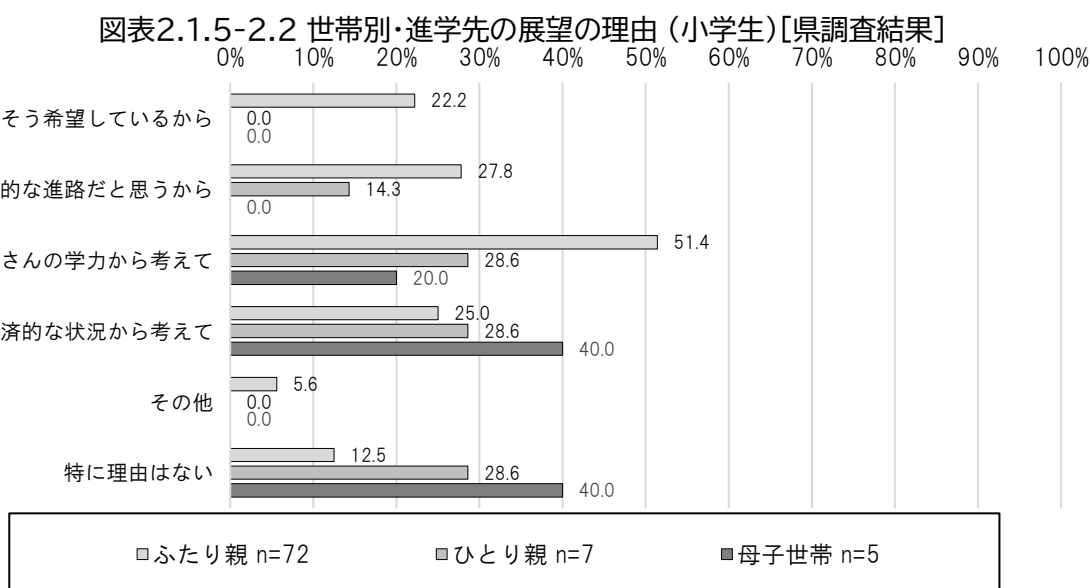
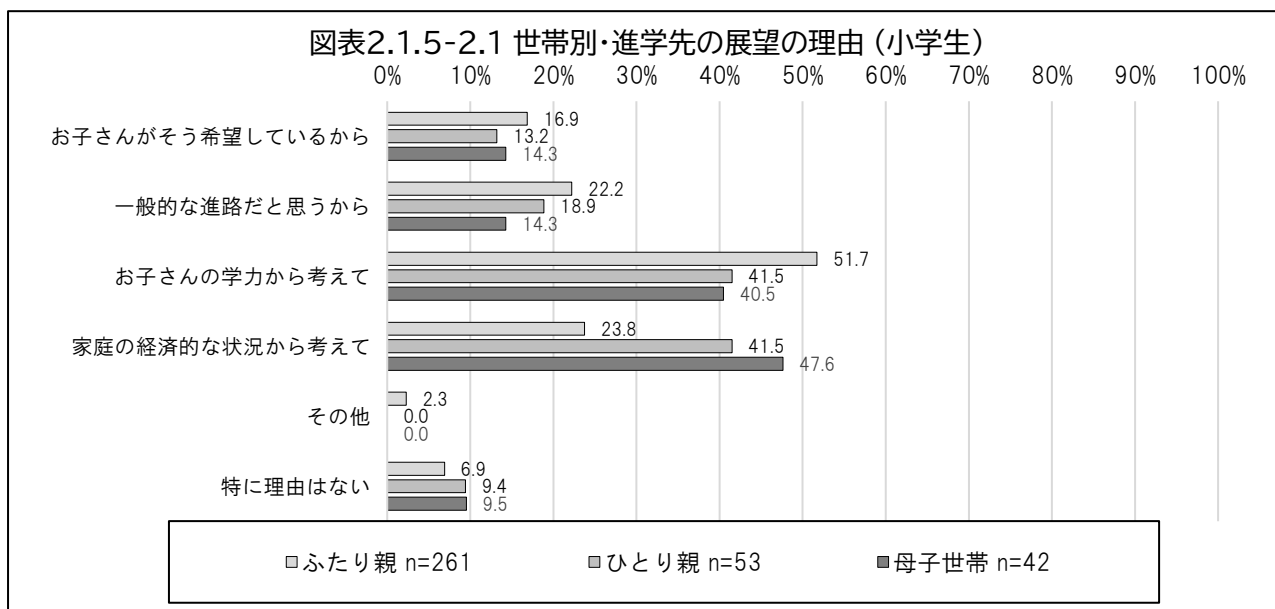
図表2.1.5-2.4 等価世帯収入別・進学先の展望の理由（中学生）[県調査結果]



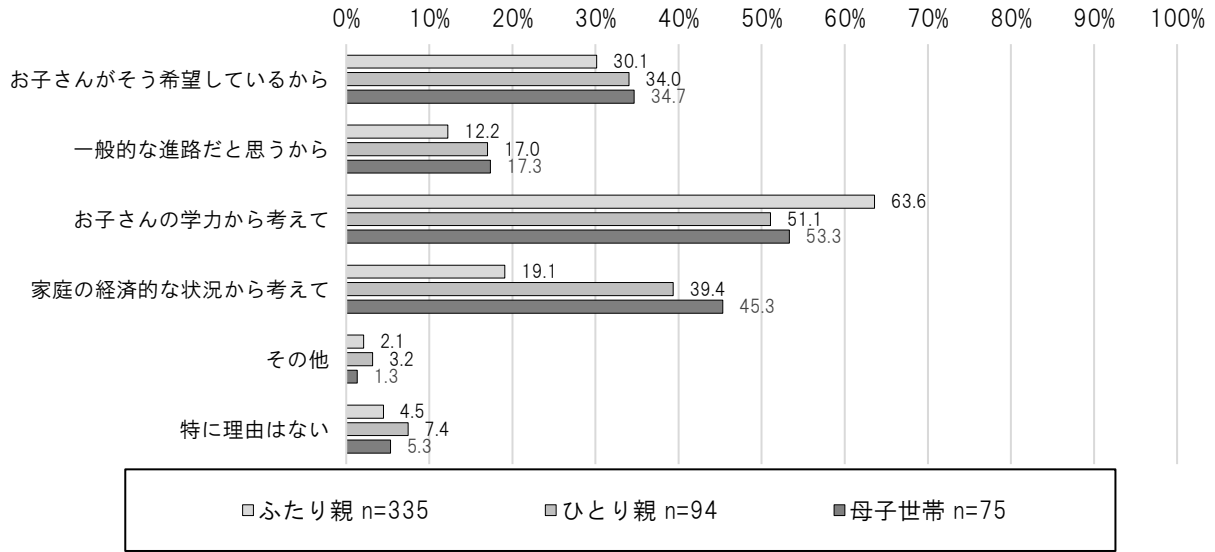
□中央値以上 n=22    ▨中央値の2分の1以上中央値未満 n=36    ■中央値の2分の1未満 n=9

(5-3) 進学先を「高校まで」と考える理由（世帯別）

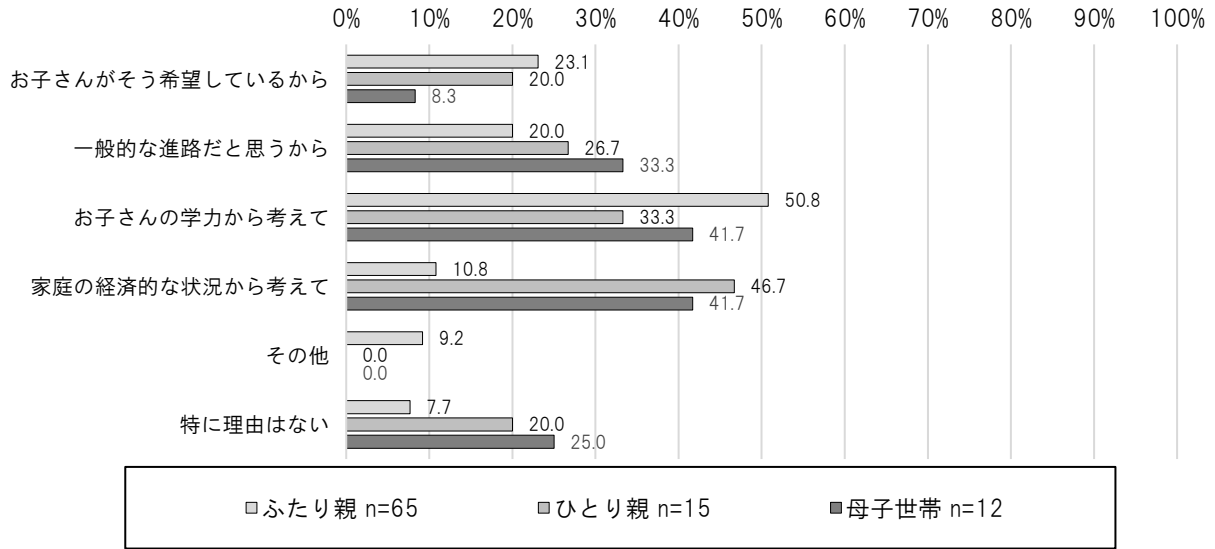
○「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合は、ひとり親世帯では、小学生が41.5%で、全体（26.7%）と比較して14.8<sup>ポイント</sup>、中学生が39.4%で、全体（23.8%）と比較して、15.6<sup>ポイント</sup>高くなっています。また、小学生は県調査（28.6%）と比較して高くなっている一方、中学生は県調査（46.7%）と比較して低くなっています。



図表2.1.5-2.3 世帯別・進学先の展望の理由(中学生)

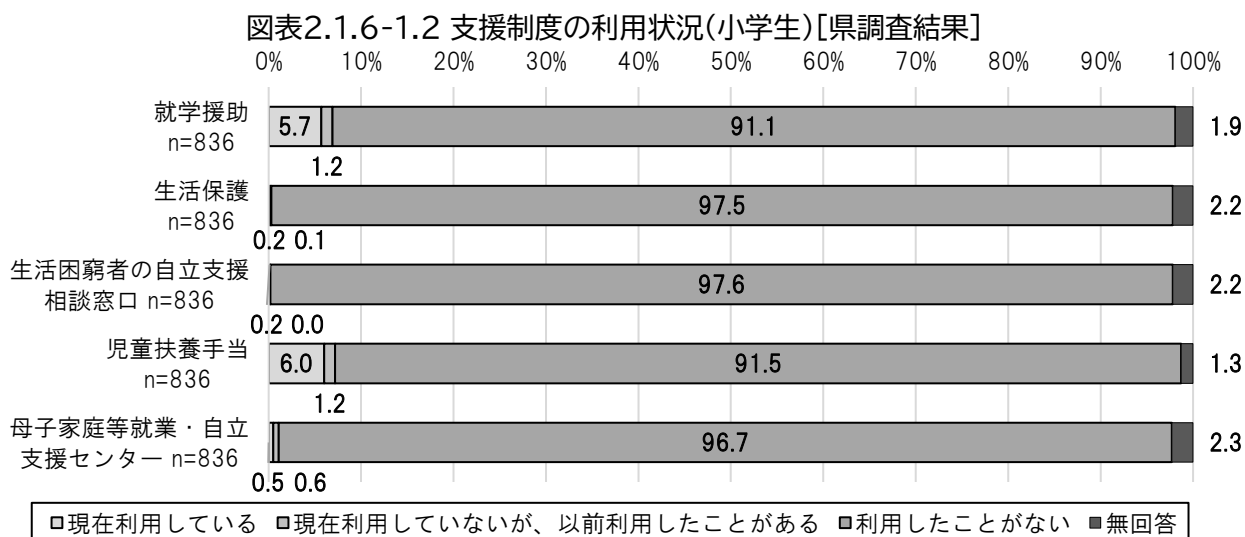
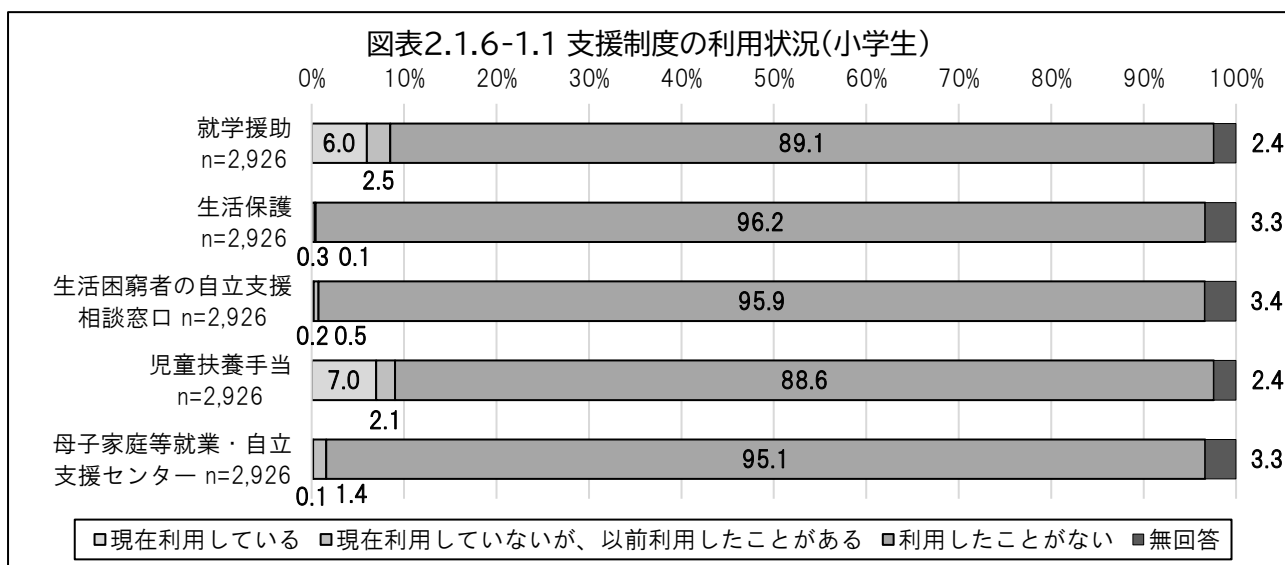


図表2.1.5-2.4 世帯別・進学先の展望の理由(中学生)[県調査結果]

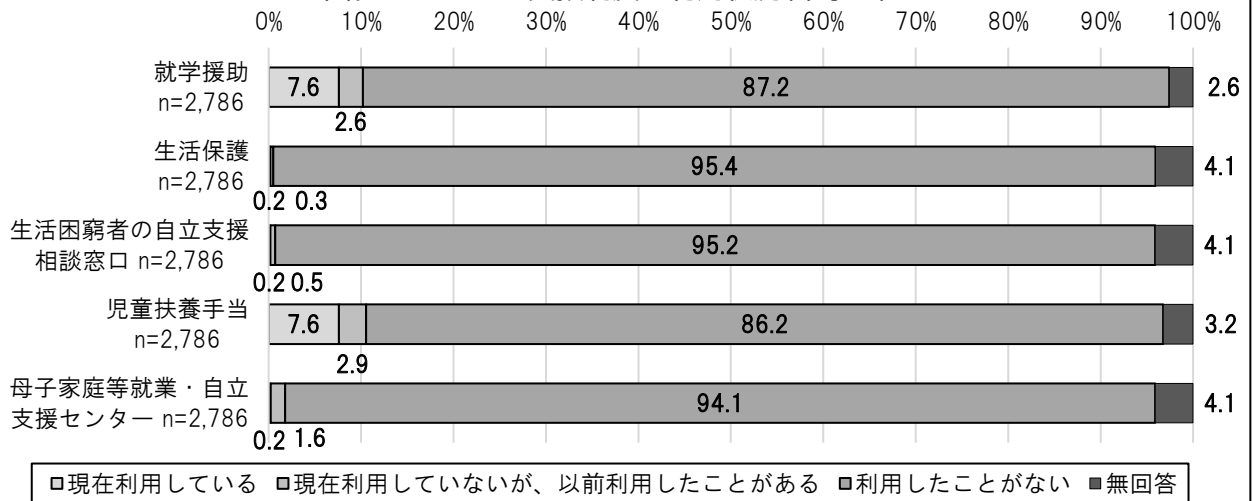


(6-1) 支援制度の利用状況(全体)

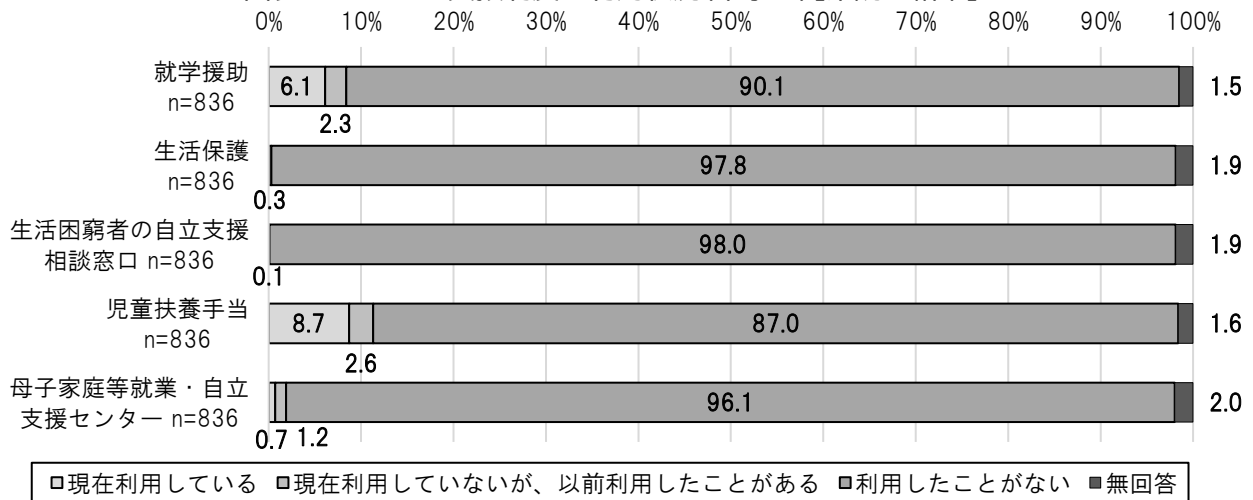
○支援制度の利用状況について、「利用したことがない」と回答した割合が、全ての支援制度で最も高くなっており、県の調査と大きな違いはありませんでした。



図表2.1.6-1.3 支援制度の利用状況(中学生)



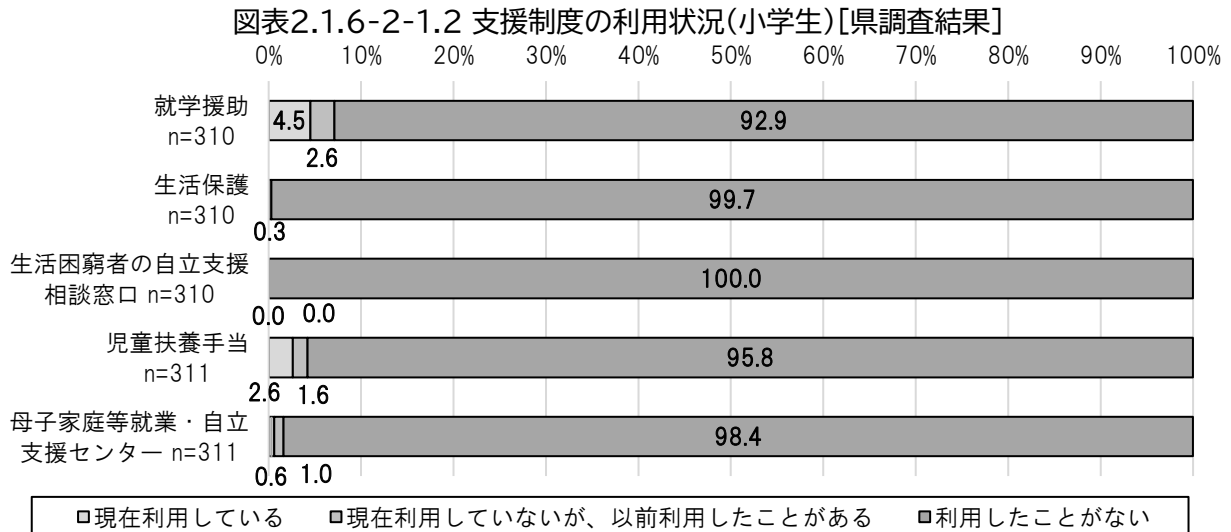
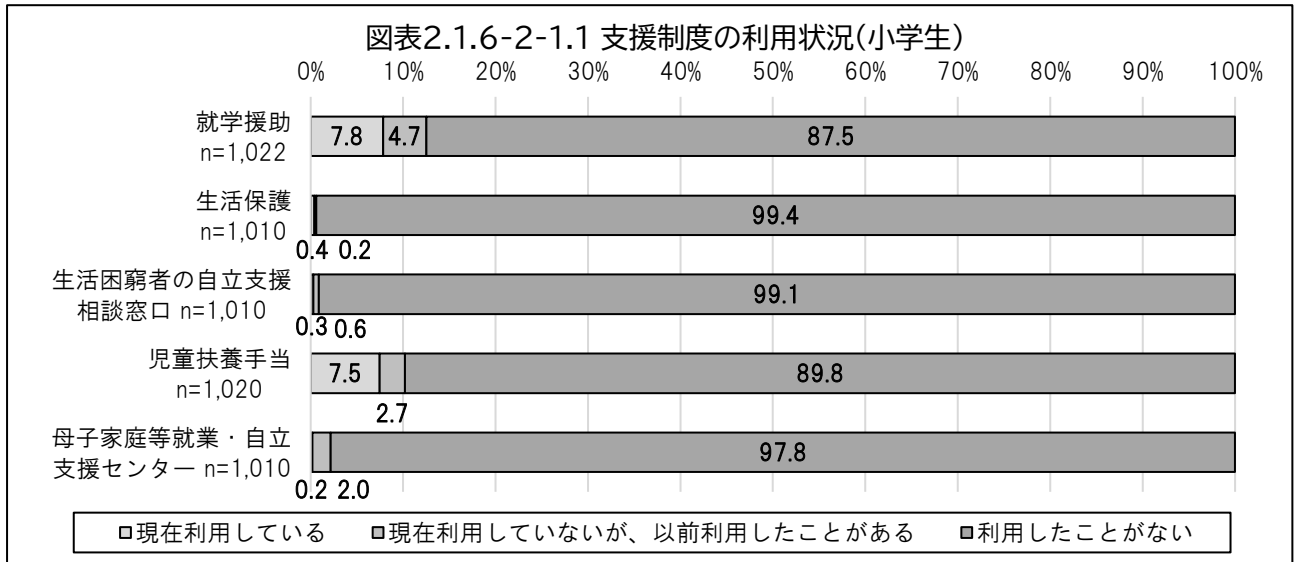
図表2.1.6-1.4 支援制度の利用状況(中学生)[県調査結果]



(6-2) 支援制度の利用状況(等価世帯収入別)

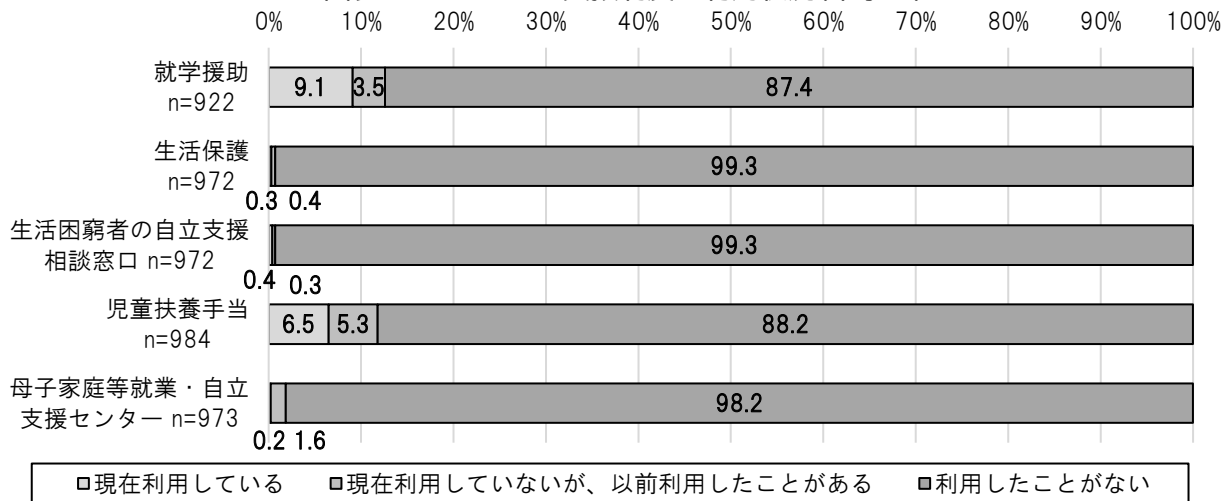
(6-2-1) 等価世帯収入が「中央値の2分の1以上中央値未満」の場合

○等価世帯収入が「中央値の2分の1以上中央値未満」の場合、「現在利用している」と回答した割合は、「就学援助」が小学生で7.8%、中学生で9.1%、「児童扶養手当」が小学生で7.5%、中学生で6.5%となっています。その他の支援制度は、ほとんど利用されていません。

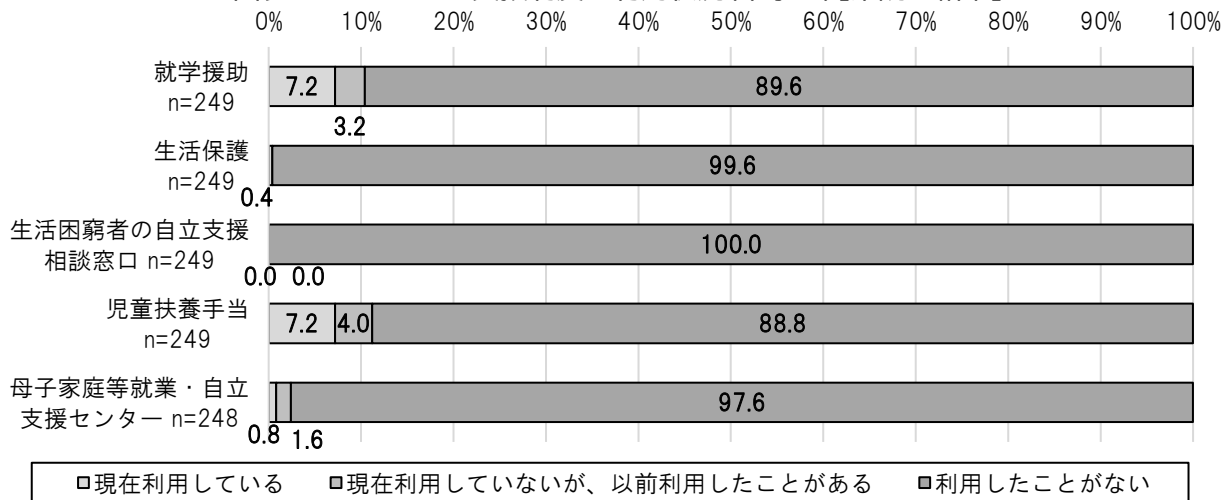




図表2.1.6-2-1.3 支援制度の利用状況(中学生)

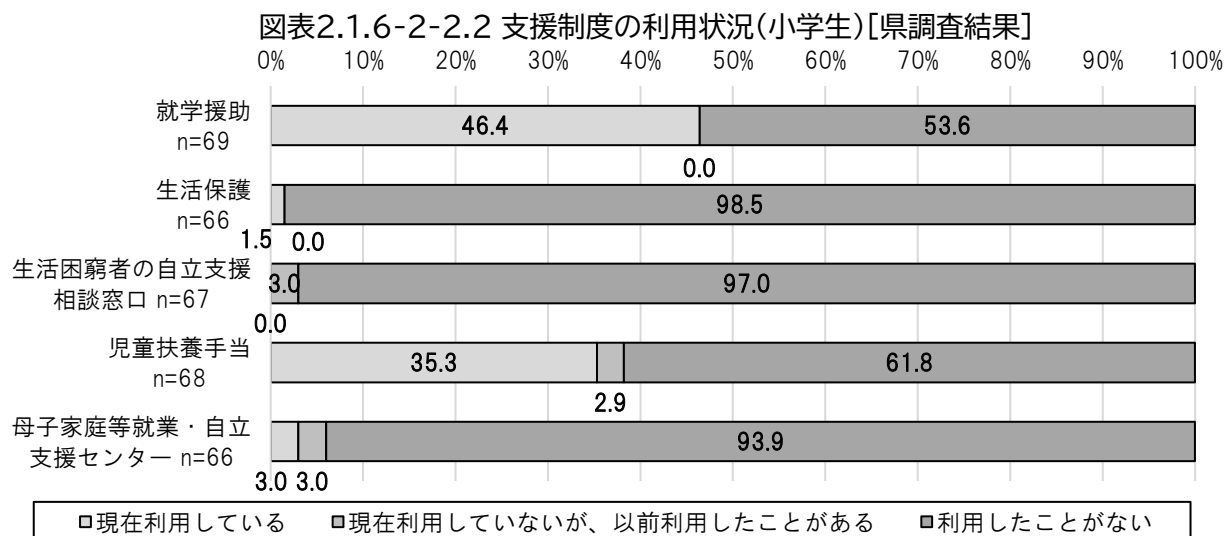
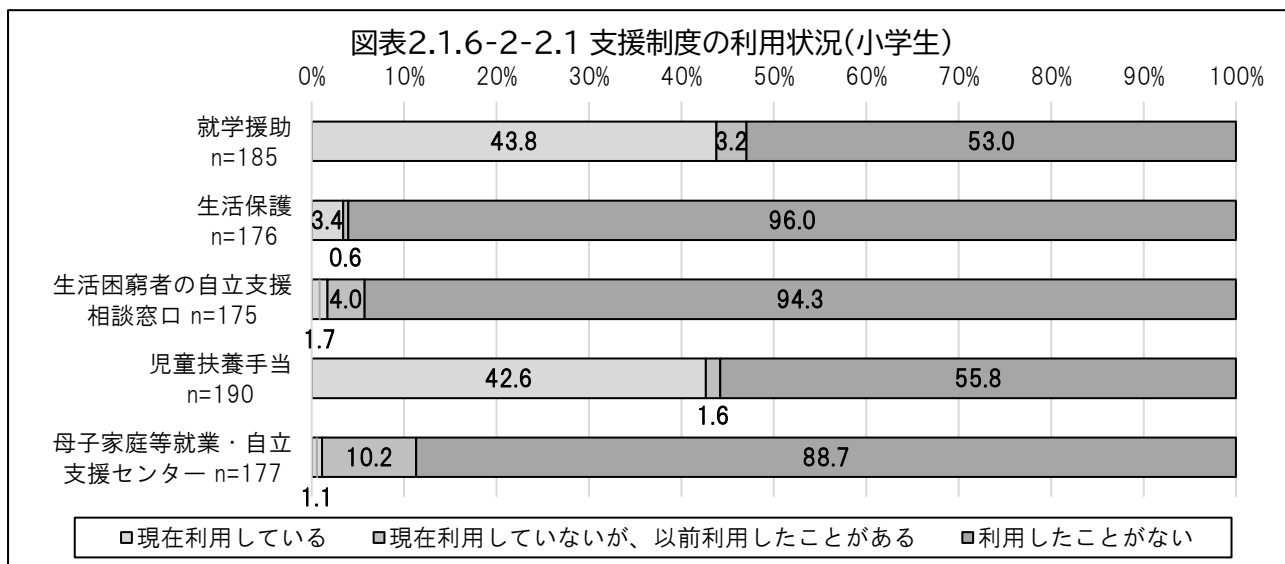


図表2.1.6-2-1.4 支援制度の利用状況(中学生)[県調査結果]

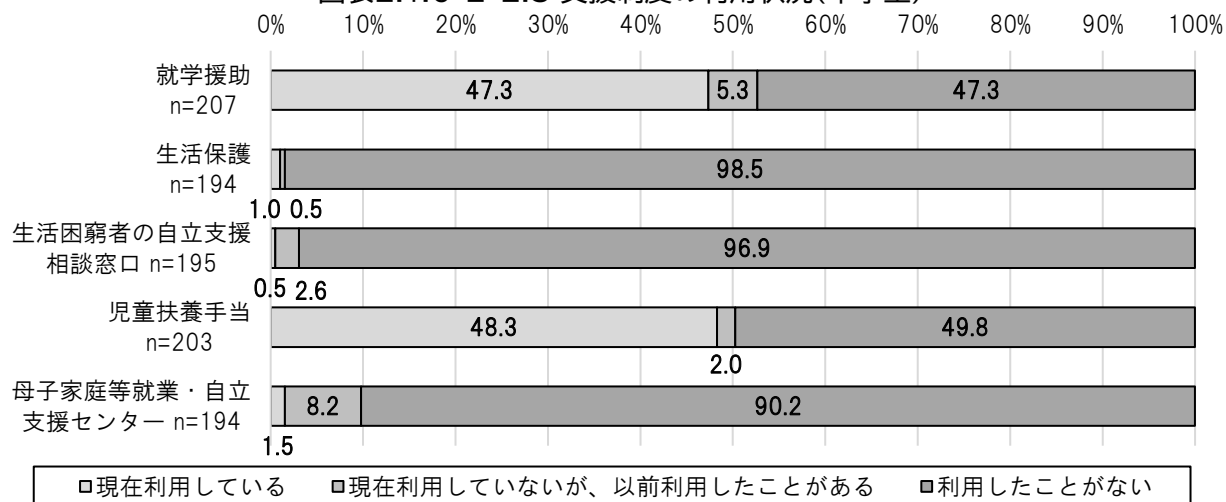


(6-2-2) 等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合

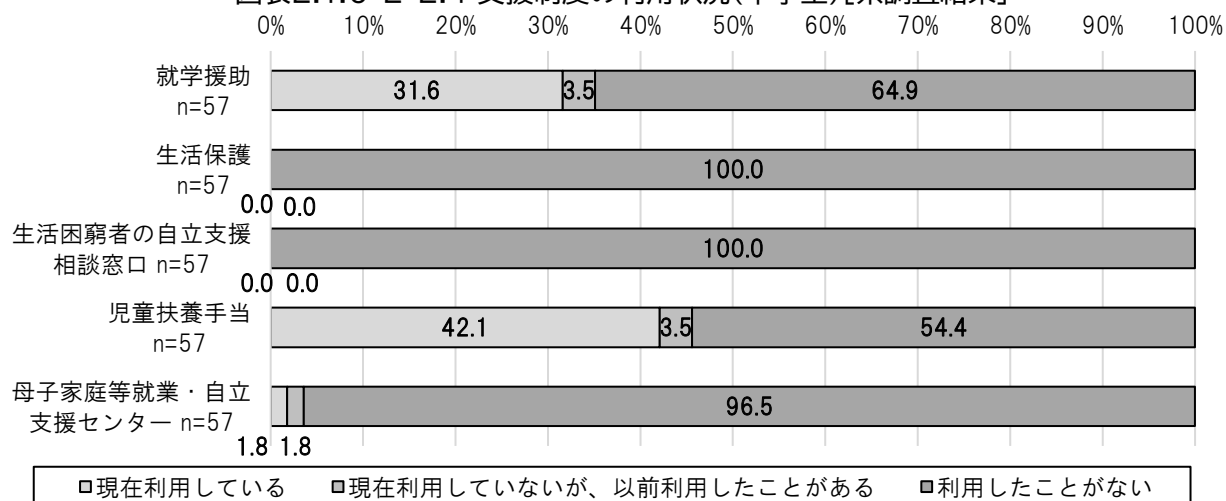
○等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合、全ての支援制度で「現在利用している」が、全体と比較して高くなっていますが、特に、「就学援助」が小学生 43.8% (全体 6.0%)、中学生 47.3% (全体 7.6%)、「児童扶養手当」が小学生 42.6% (全体 7.0%)、中学生 48.3% (全体 7.6%) と高くなっています。



図表2.1.6-2-2.3 支援制度の利用状況(中学生)



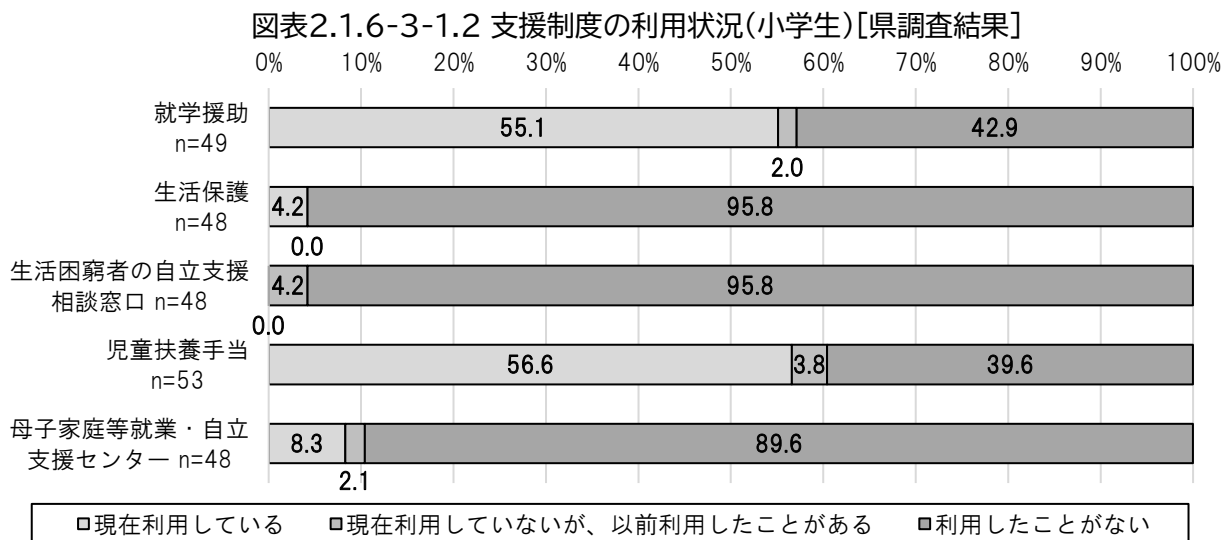
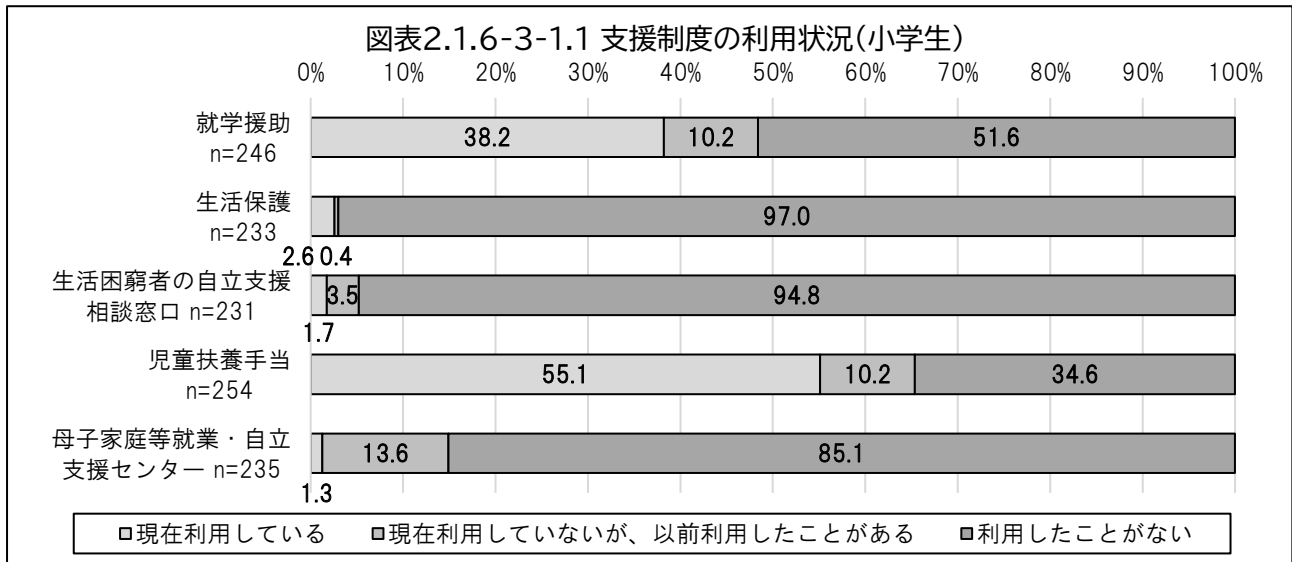
図表2.1.6-2-2.4 支援制度の利用状況(中学生)[県調査結果]



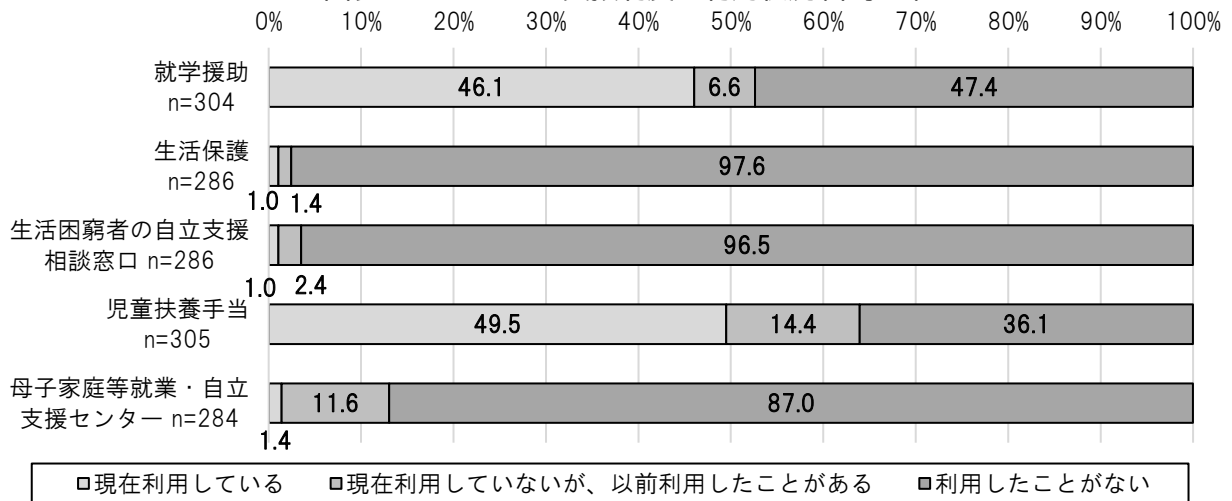
(6-3) 支援制度の利用状況(世帯別)

(6-3-1) 世帯状況が「ひとり親世帯」の場合

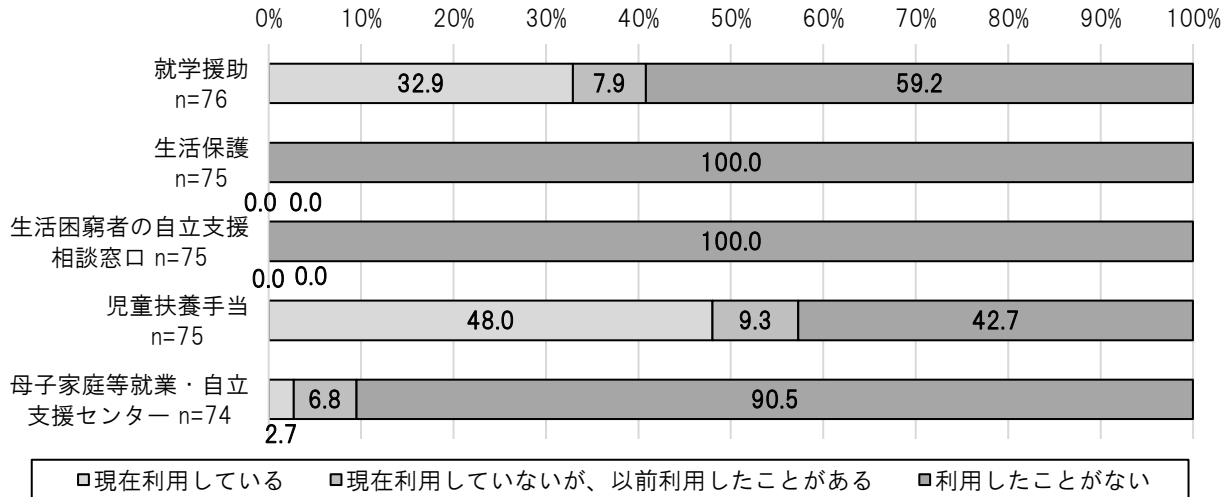
○世帯が「ひとり親世帯」の場合、全ての支援制度で「現在利用している」が、全体と比較して高くなっていますが、特に、「就学援助」が小学生 38.2%(全体 6.0%)、中学生 46.1%(全体 7.6%)、「児童扶養手当」が小学生 55.1%(全体 7.0%)、中学生 49.5%(全体 7.6%)と高くなっています。



図表2.1.6-3-1.3 支援制度の利用状況(中学生)

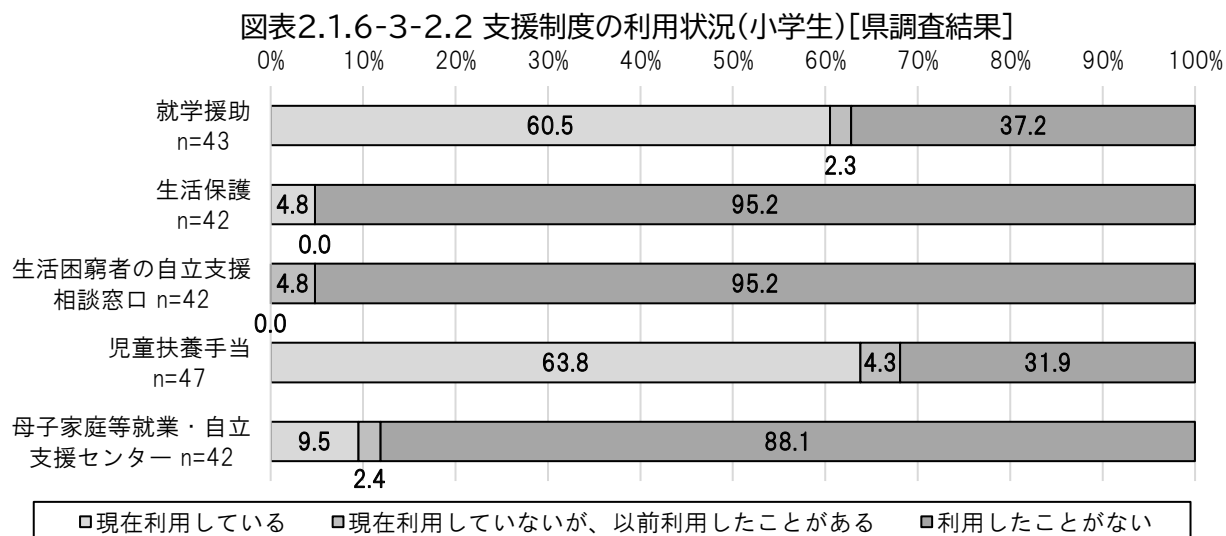
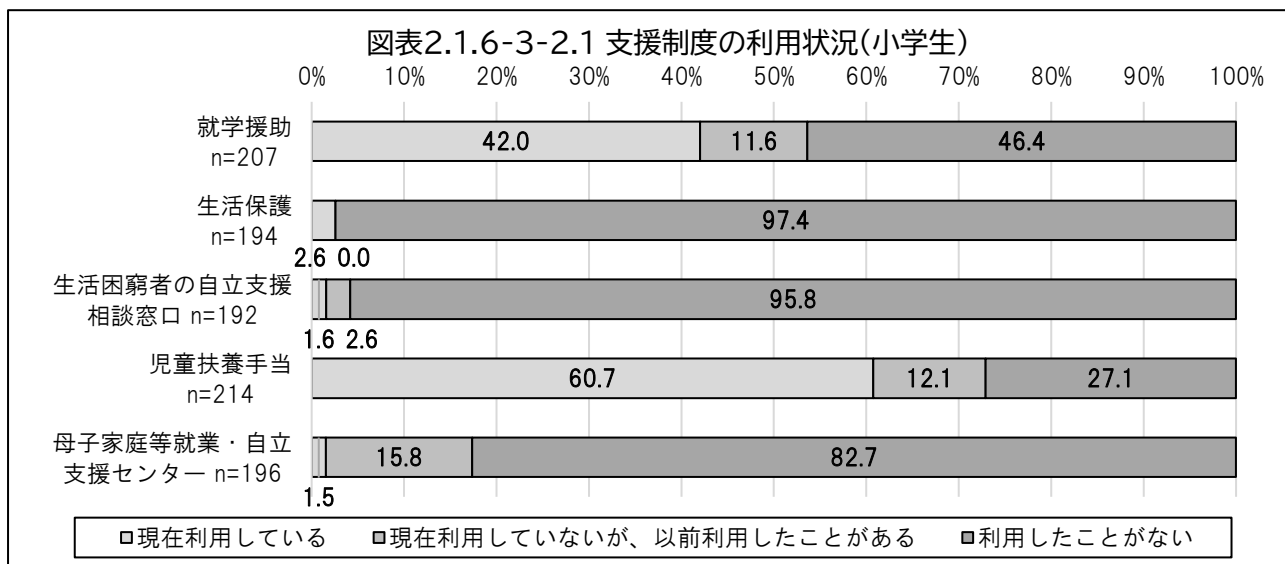


図表2.1.6-3-1.4 支援制度の利用状況(中学生)[県調査結果]

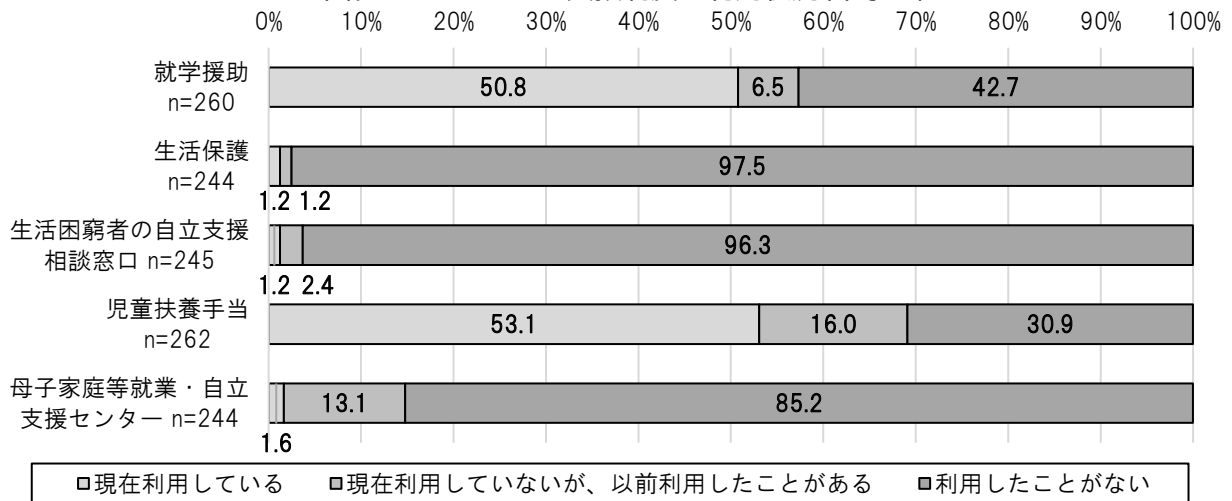


(6-3-2) 世帯状況が「母子世帯」の場合

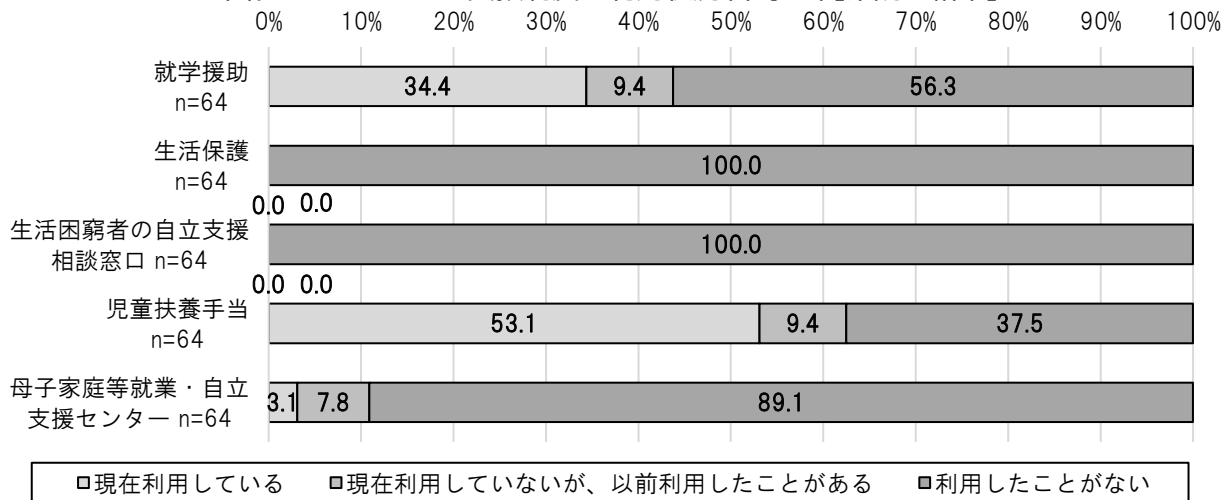
○世帯が「母子世帯」の場合、全ての支援制度で「現在利用している」が、全体と比較して高くなっていますが、特に、「就学援助」が小学生 42.0%（全体 6.0%）、中学生 50.8%（全体 7.6%）、「児童扶養手当」が小学生 60.7%（全体 7.0%）、中学生 53.1%（全体 7.6%）、と高くなっています。



図表2.1.6-3-2.3 支援制度の利用状況(中学生)

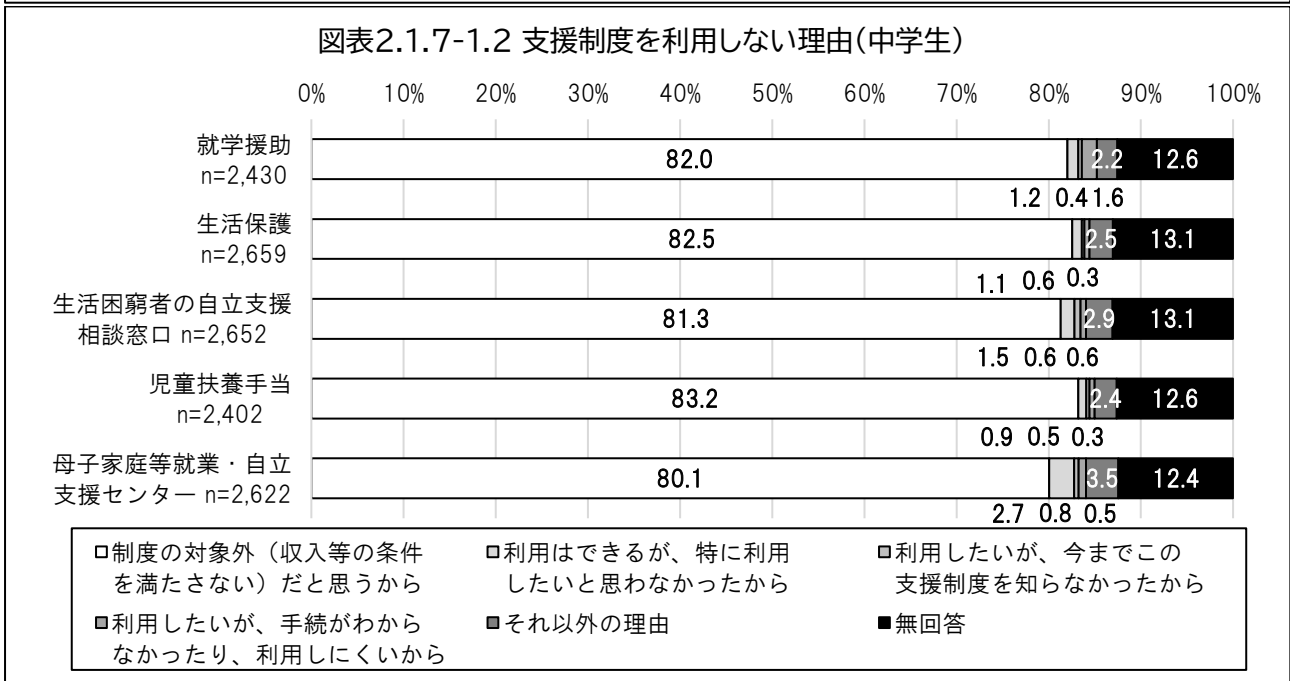
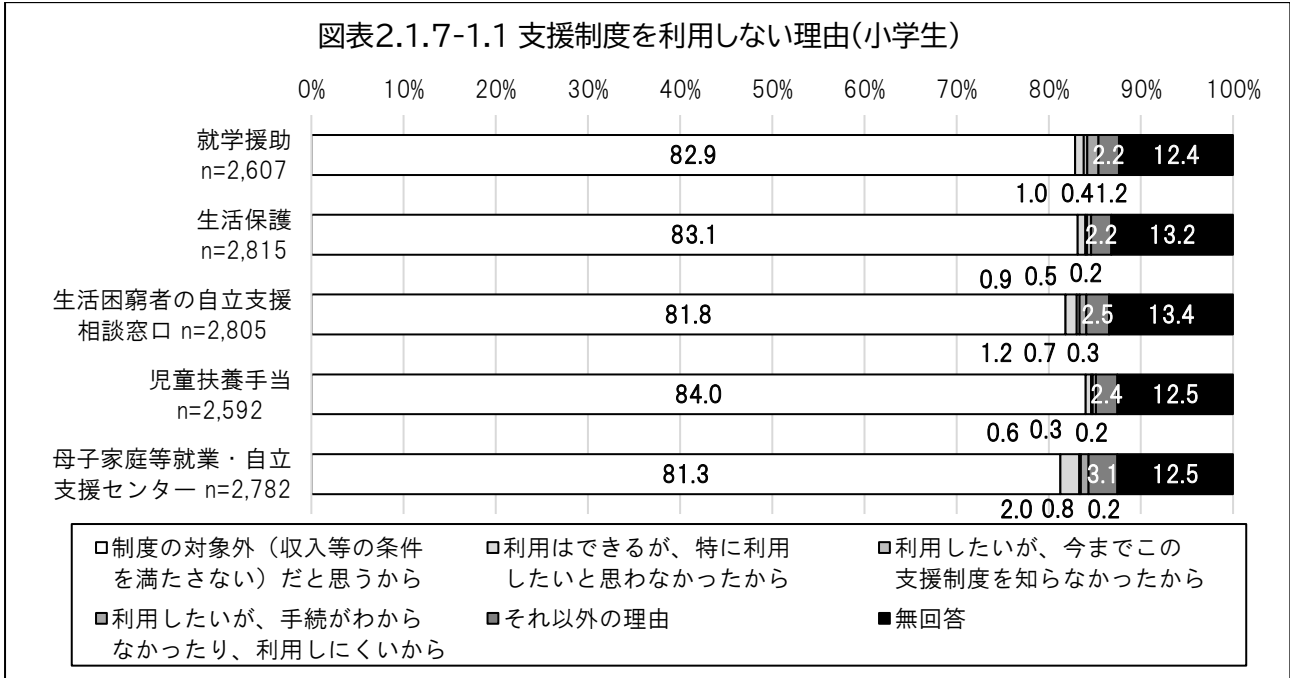


図表2.1.6-3-2.4 支援制度の利用状況(中学生)[県調査結果]



(7-1) 支援制度を利用していない理由(全体)

○各支援制度を利用していない理由について回答した割合は、小学生・中学生ともに、「制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」が、すべての支援制度で最も高い理由となっています。

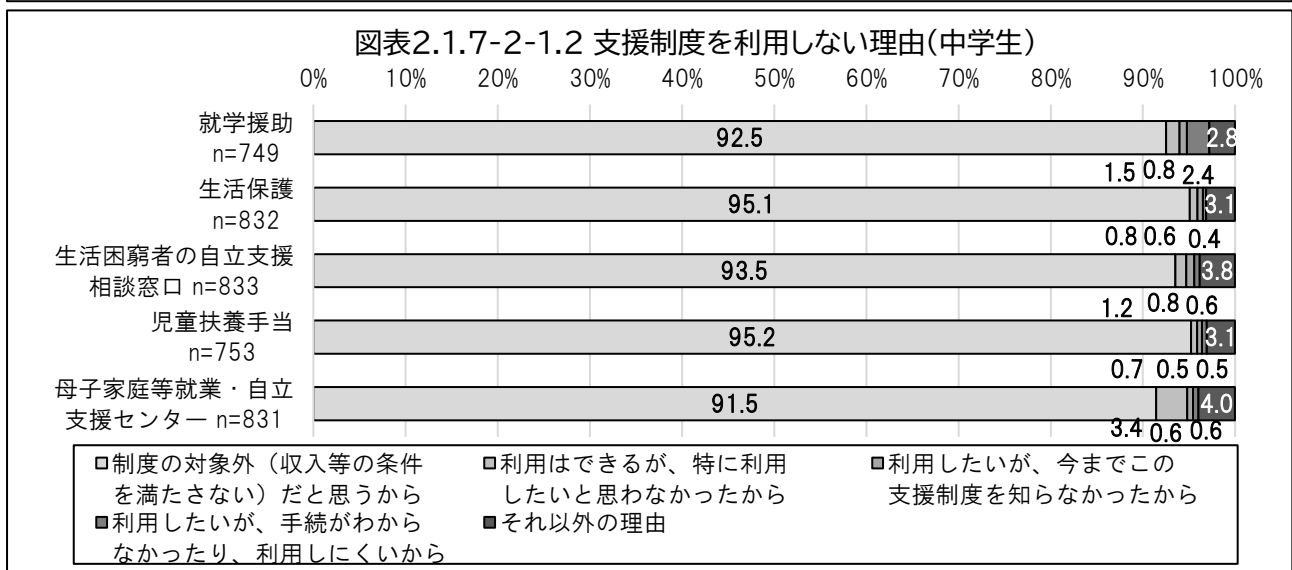
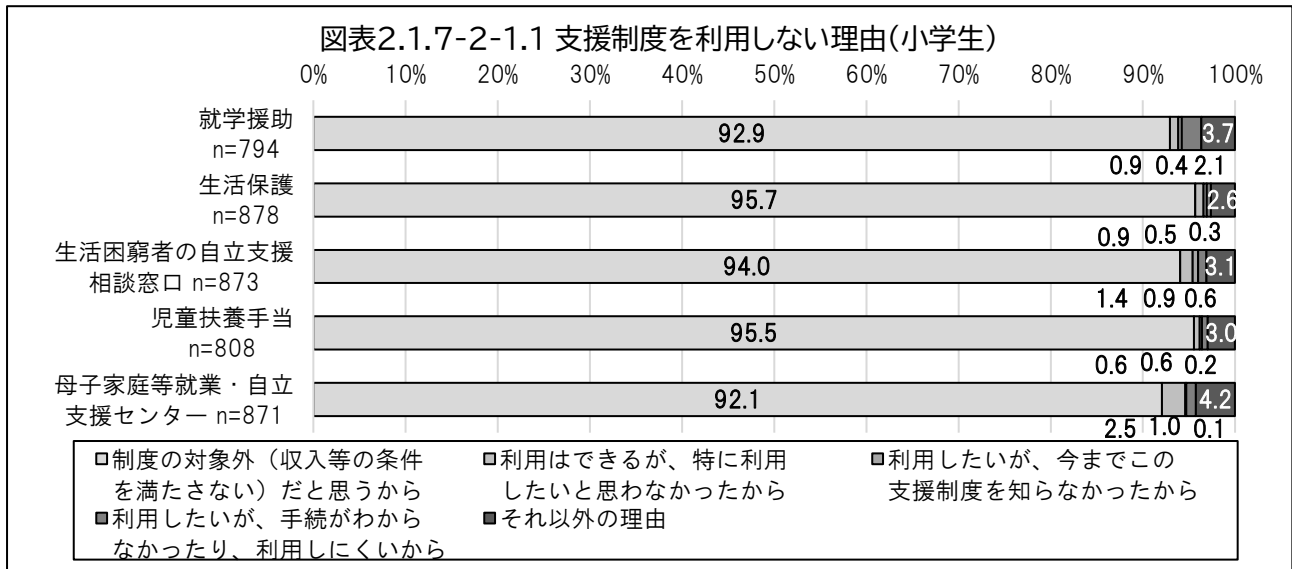




(7-2) 支援制度を利用していない理由（等価世帯収入別）

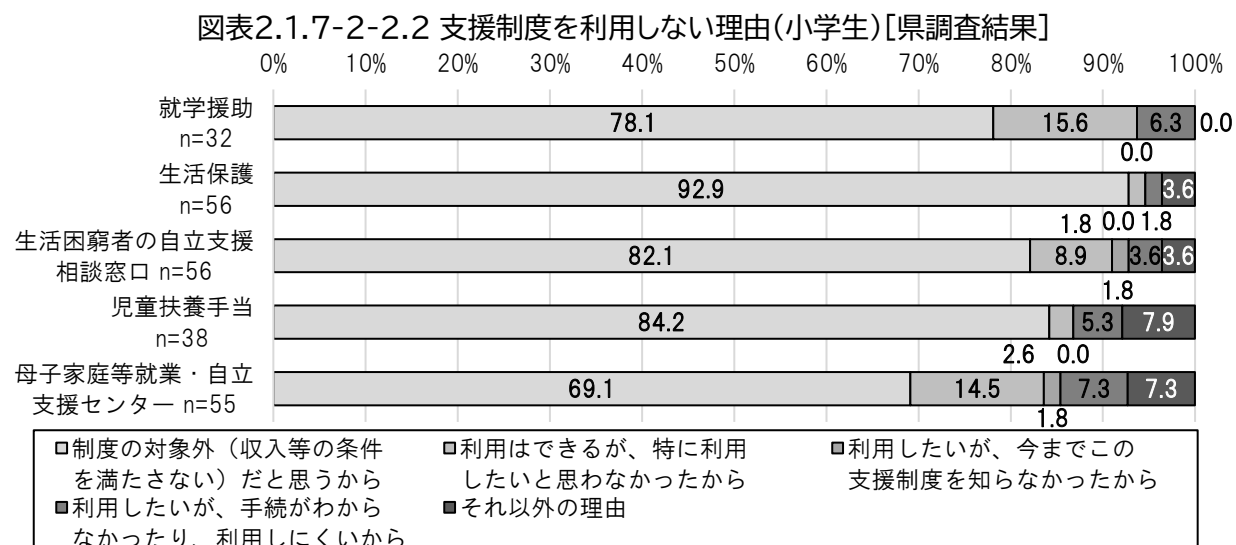
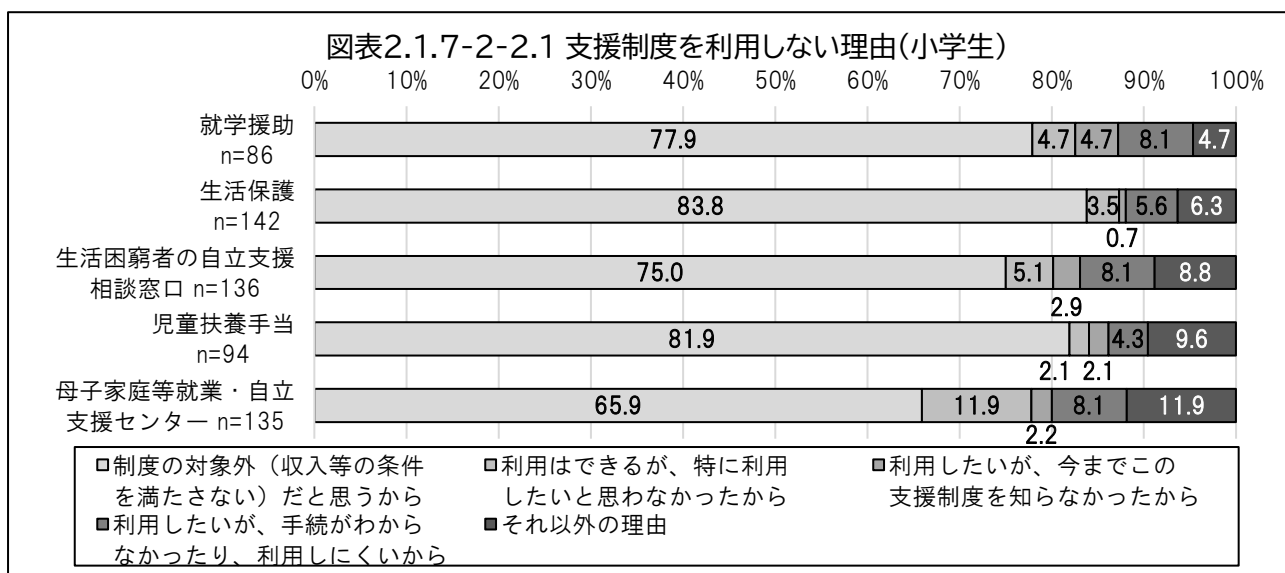
(7-2-1) 等価世帯収入が「中央値の2分の1以上中央値未満」の場合

○等価世帯収入が「中央値の2分の1以上中央値未満」の場合、各支援制度を利用しない理由について回答した割合は、小学生・中学生ともに、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思っうから」が、すべての支援制度で最も高い理由となっています。

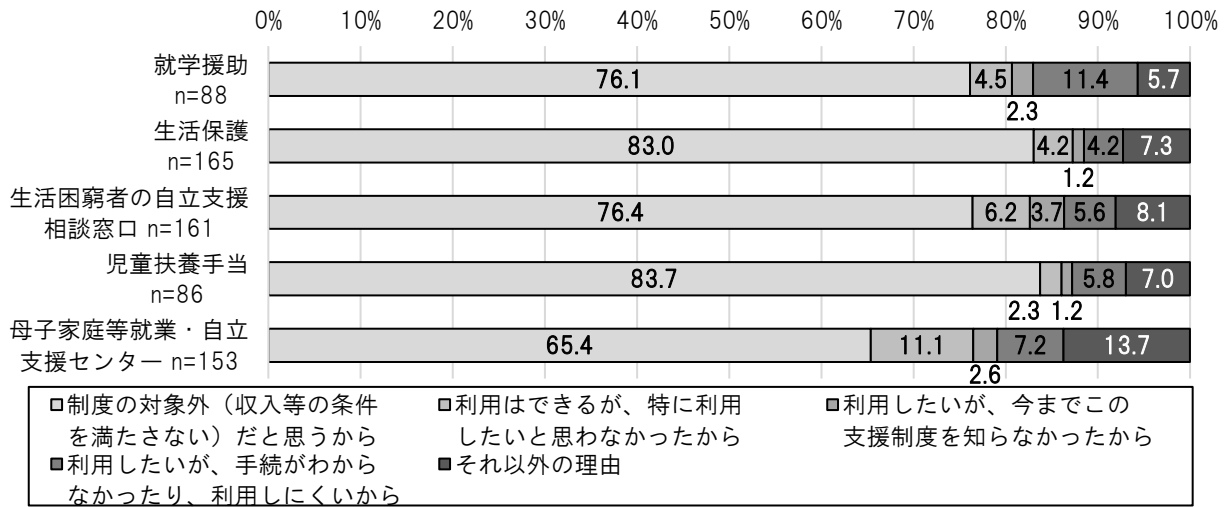


(7-2-2) 等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合

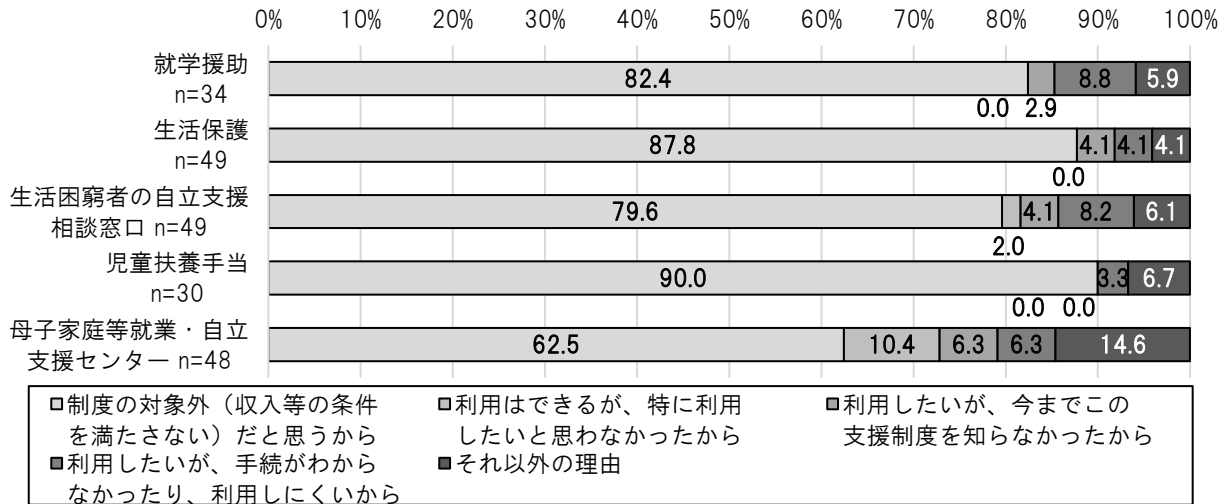
○等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合、各支援制度を利用しない理由について回答した割合は、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」又は「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の合計が、「就学援助」は小学生で12.8%、中学生で13.7%、「生活困窮者の自立支援相談窓口」は、小学生で11.0%、中学生で9.3%、「母子家庭等就業・自立支援センター」は、小学生で10.3%、中学生で9.8%となっています。



図表2.1.7-2-2.3 支援制度を利用しない理由(中学生)



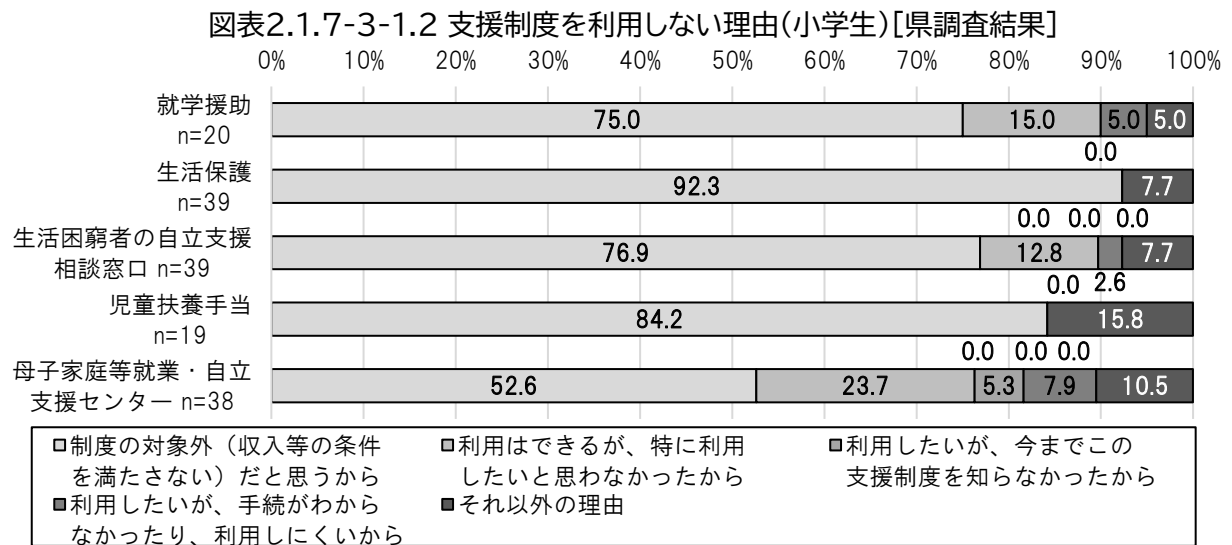
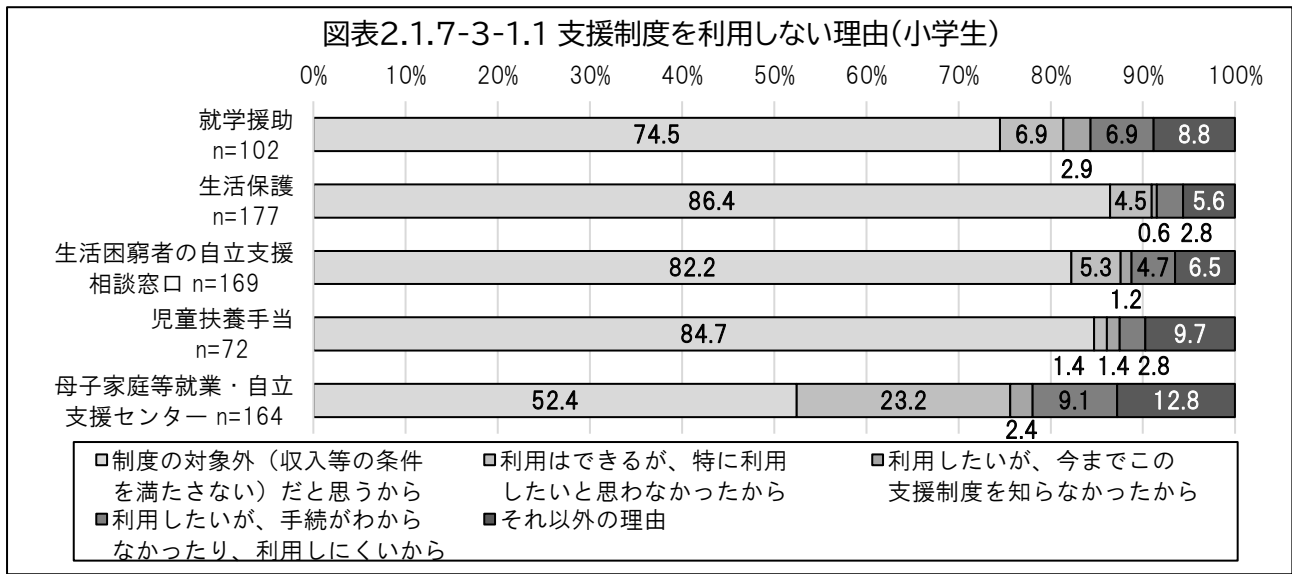
図表2.1.7-2-2.4 支援制度を利用しない理由(中学生)[県調査結果]



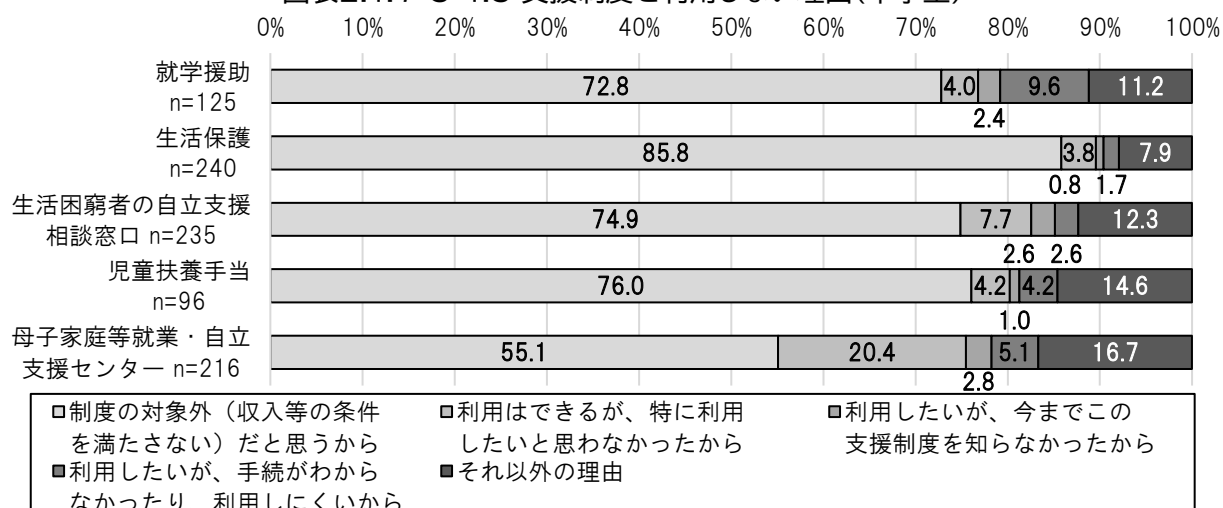
(7-3) 支援制度を利用していない理由(世帯別)

(7-3-1) 世帯状況が「ひとり親世帯」の場合

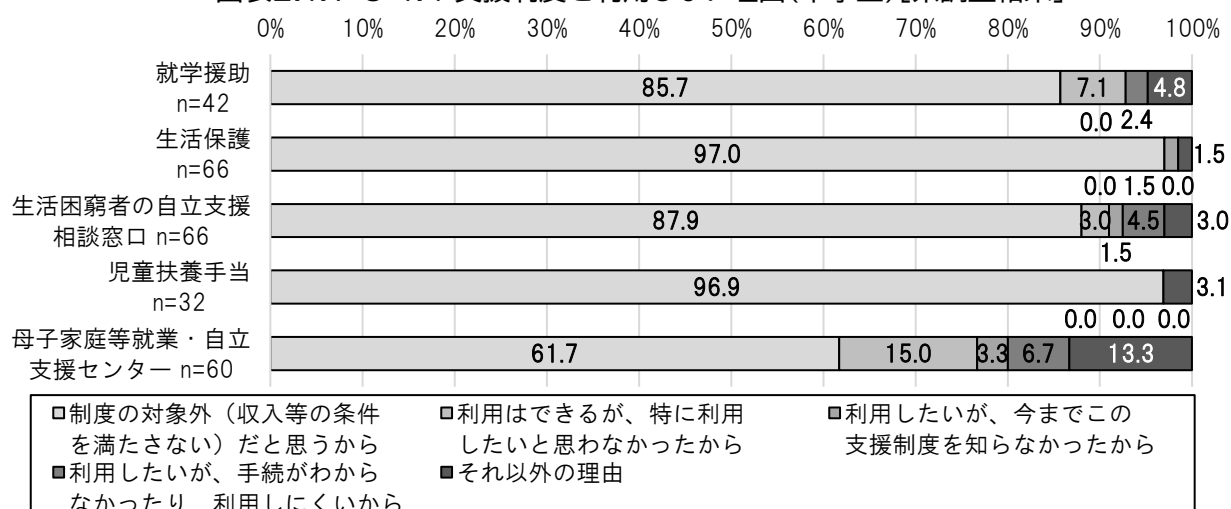
○世帯状況が「ひとり親世帯」の場合、各支援制度を利用しない理由について回答した割合は、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」又は「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の合計が、「就学援助」は、小学生で9.8%、中学生で12.0%、「母子家庭等就業・自立支援センター」は、小学生で11.5%、中学生で7.9%となっています。



図表2.1.7-3-1.3 支援制度を利用しない理由(中学生)

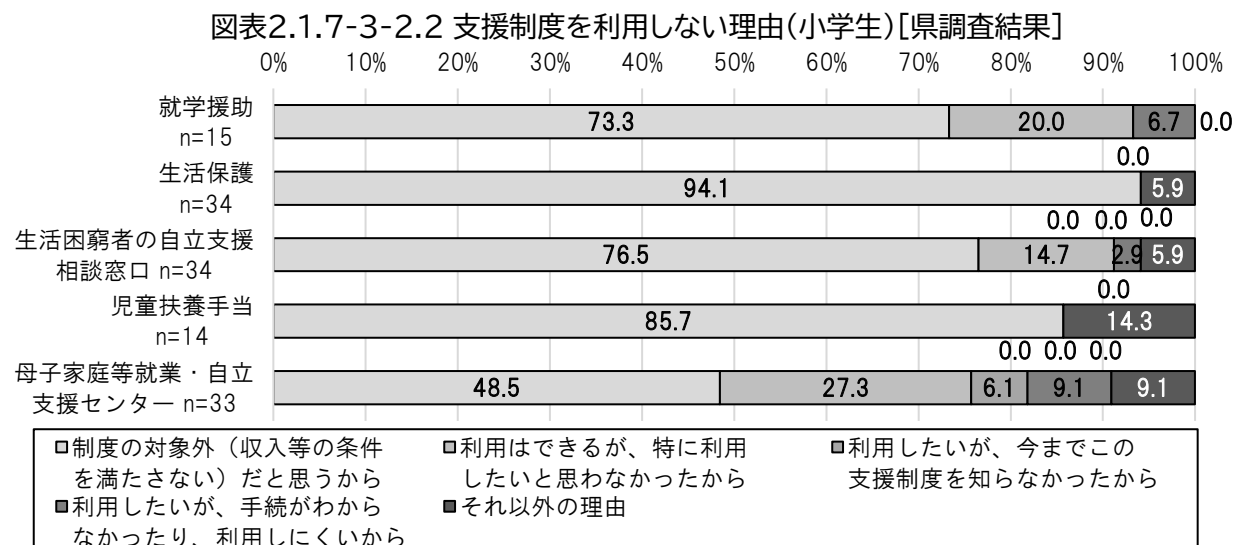
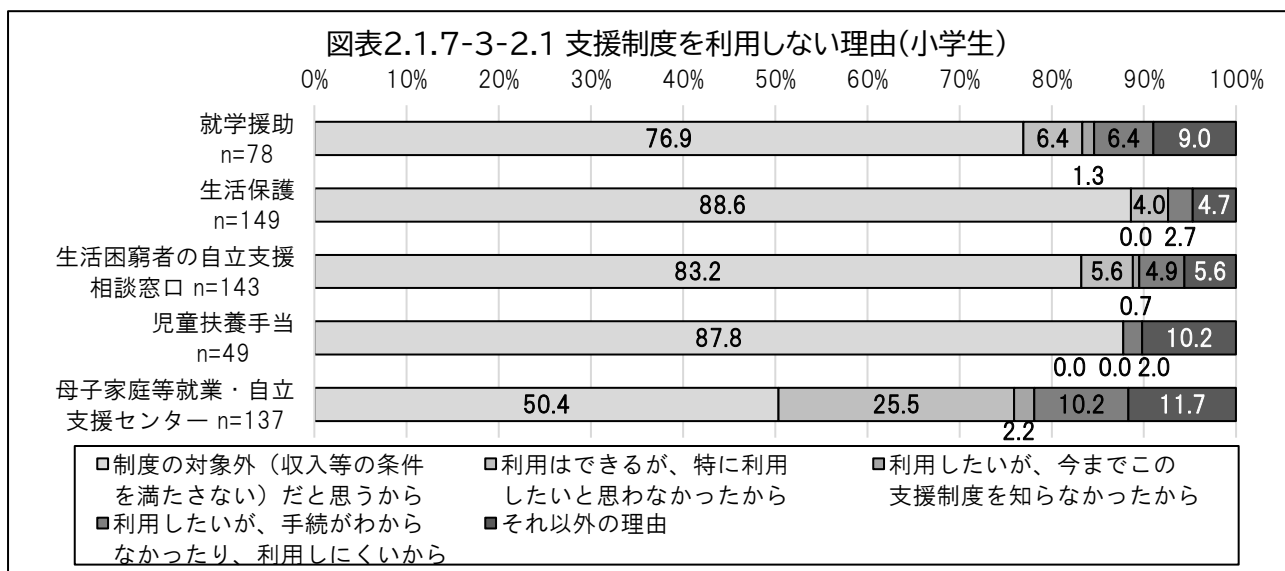


図表2.1.7-3-1.4 支援制度を利用しない理由(中学生)[県調査結果]

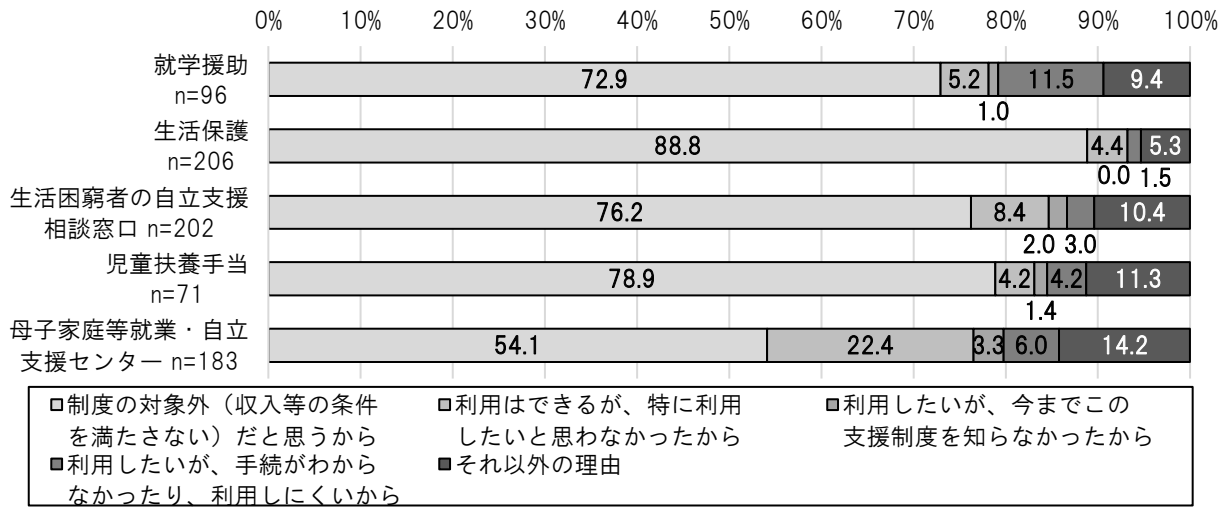


(7-3-2) 世帯状況が「母子世帯」の場合

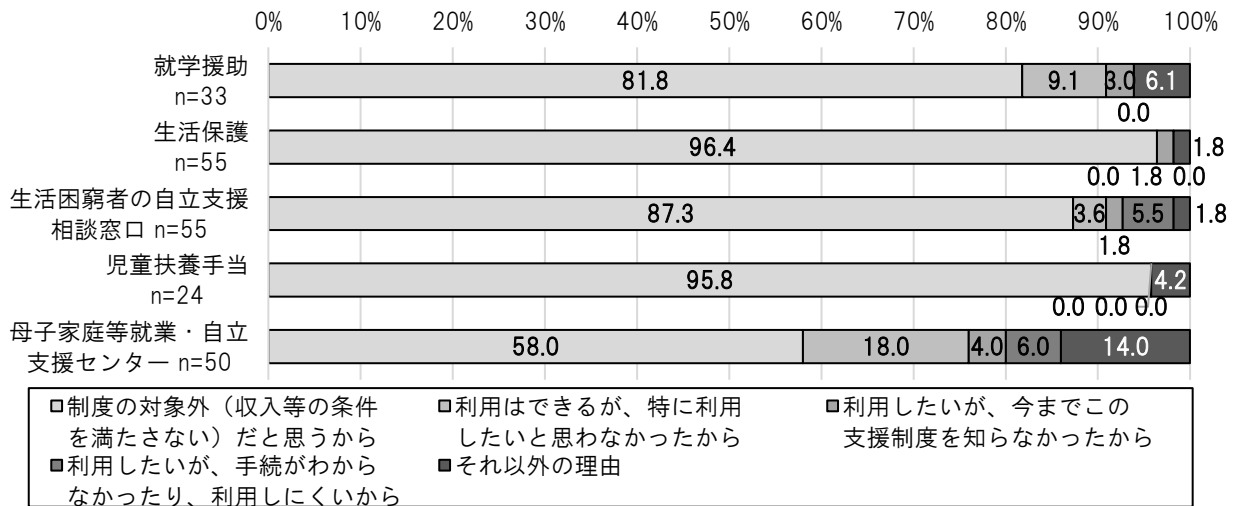
○世帯状況が「母子世帯」の場合、各支援制度を利用しない理由について回答した割合は、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の合計が、「就学援助」は、小学生で7.7%、中学生で12.5%、「母子家庭等就業・自立支援センター」は、小学生で12.4%、中学生で9.3%となっています。



図表2.1.7-3-2.3 支援制度を利用しない理由(中学生)

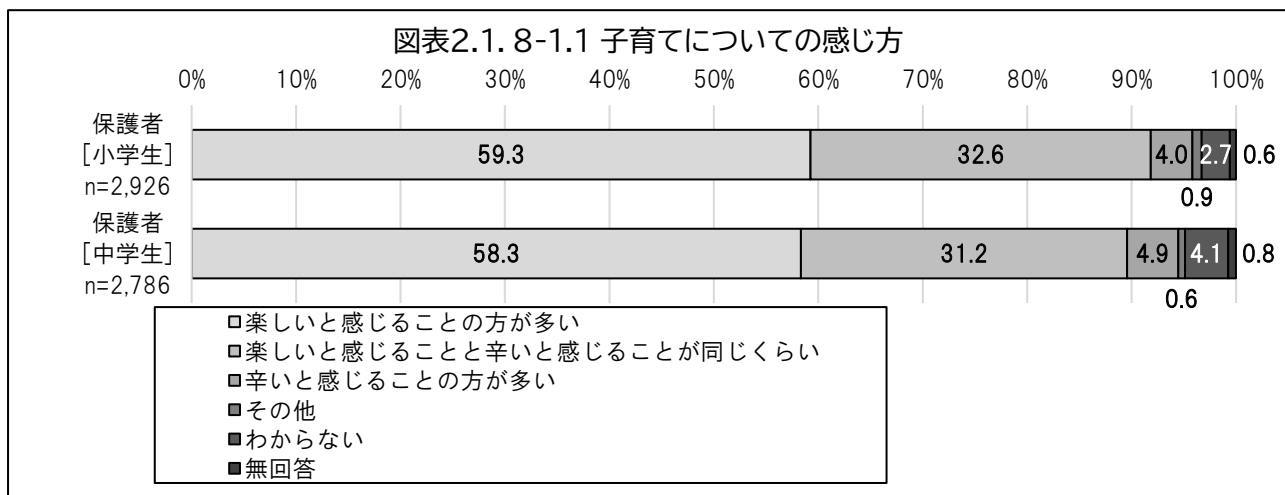


図表2.1.7-3-2.4 支援制度を利用しない理由(中学生)[県調査結果]



(8-1) 子育てを楽しんでいることが多いか 辛いと感じていることが多いか (全体)

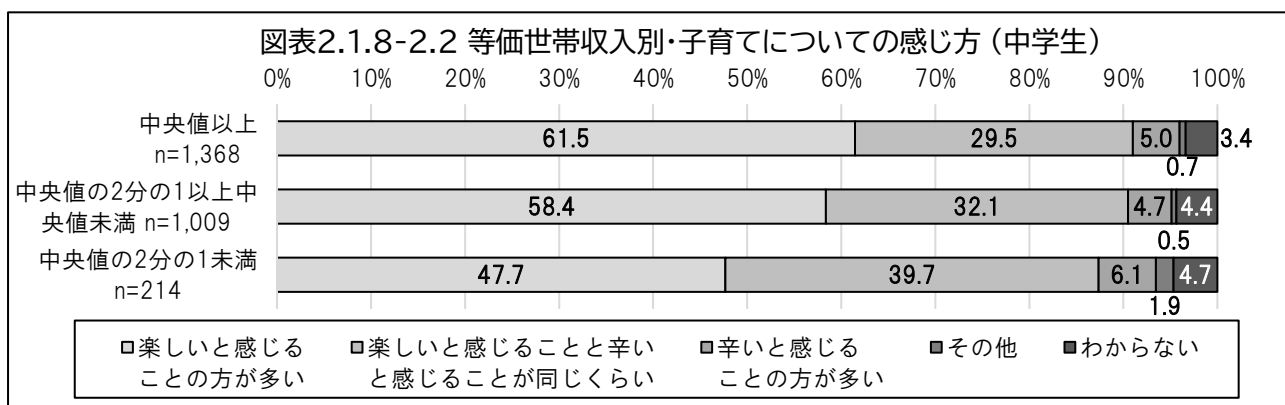
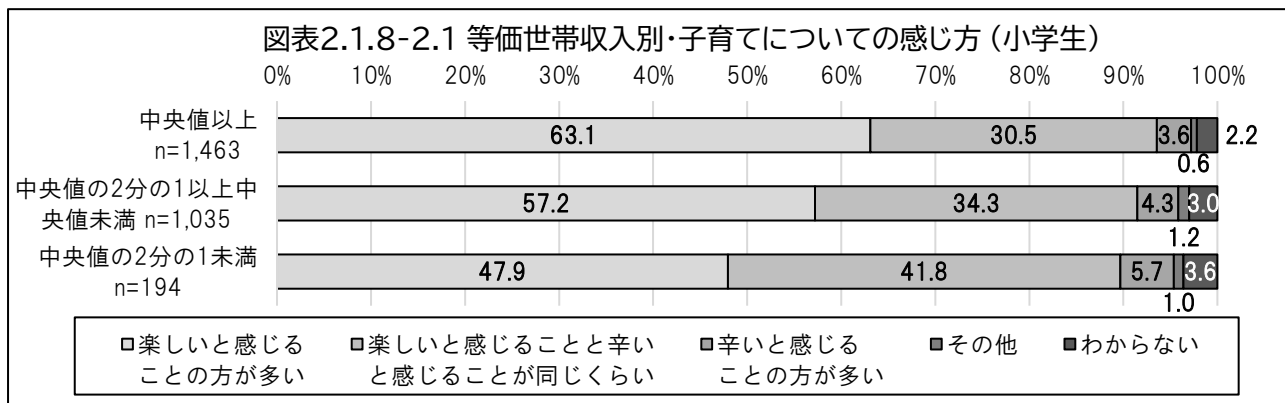
○子育てを楽しんでいることが多いか、辛いと感じていることが多いかについて、小学生・中学生ともに「楽しいと感じていることが多い」がそれぞれ59.3%、58.3%と最も高く、次いで「楽しいと感じていることと辛いと感じていることが同じくらい」が32.6%、31.2%、「辛いと感じていることが多い」が4.0%、4.9%となっています。





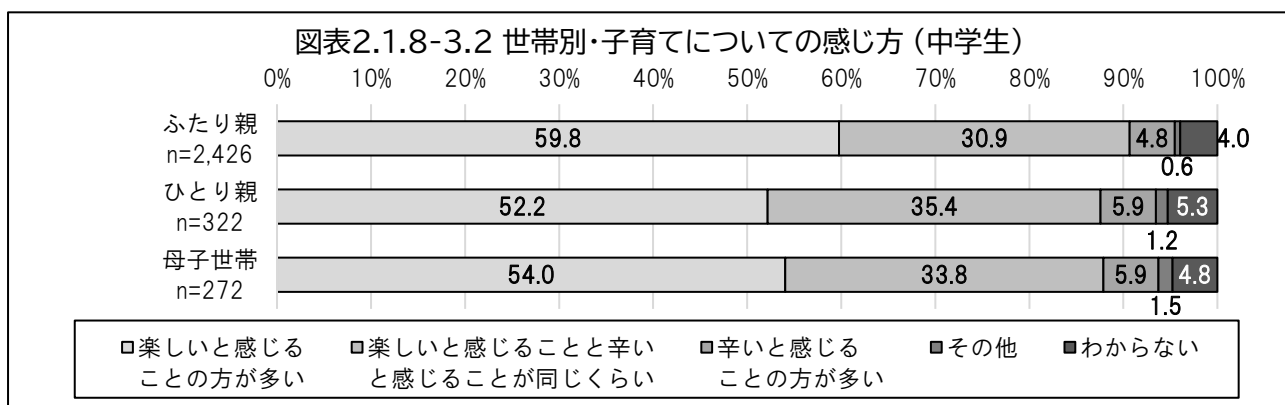
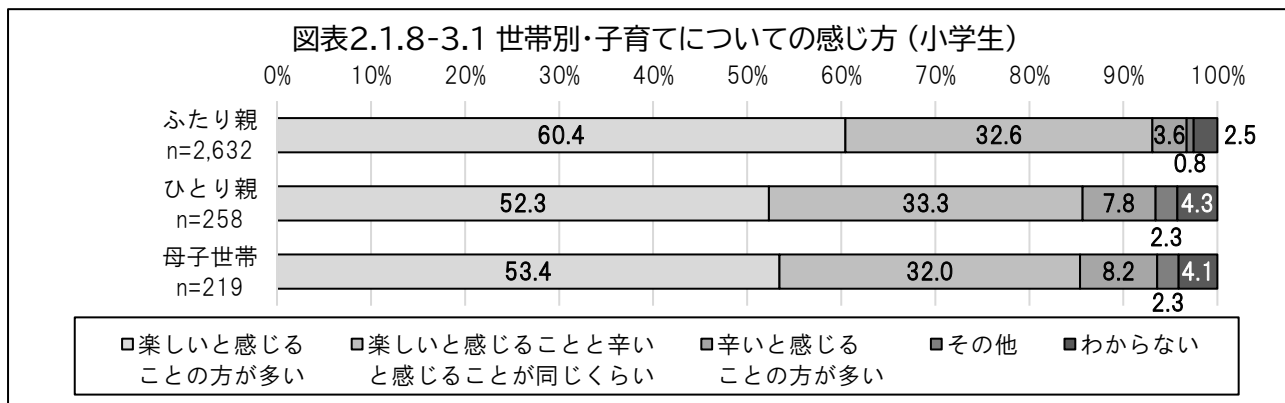
(8-2) 子育てを楽しんでいることが多いか 辛いと感じていることが多いか (等価世帯収入別)

○「楽しいと感じることの方が多い」と回答した割合は、全体では小学生が59.3%、中学生が58.3%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯(中央値の2分の1未満)」では小学生が47.9%、中学生が47.7%と低くなっています。



(8-3) 子育てを楽しんでいることが多いか 辛いと感じていることが多いか (世帯別)

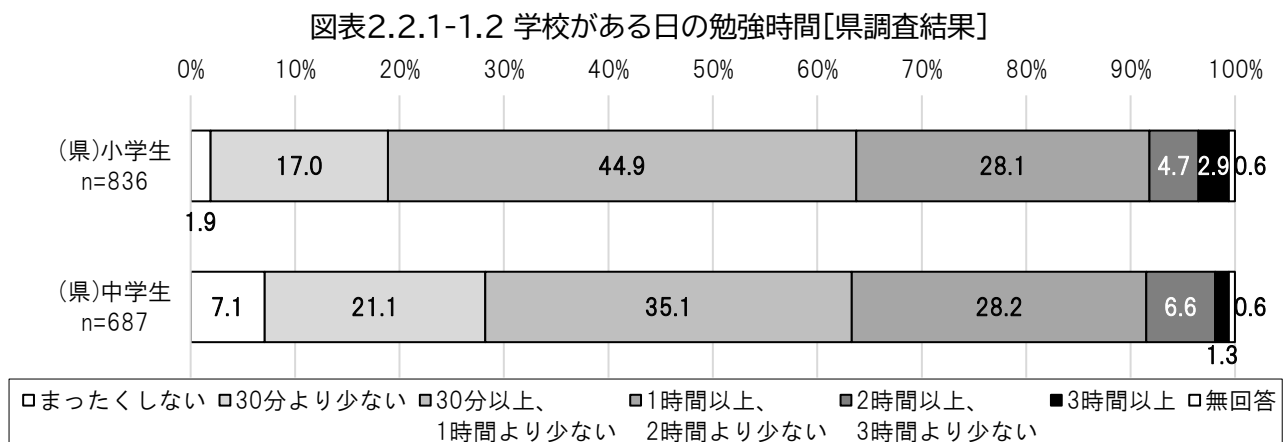
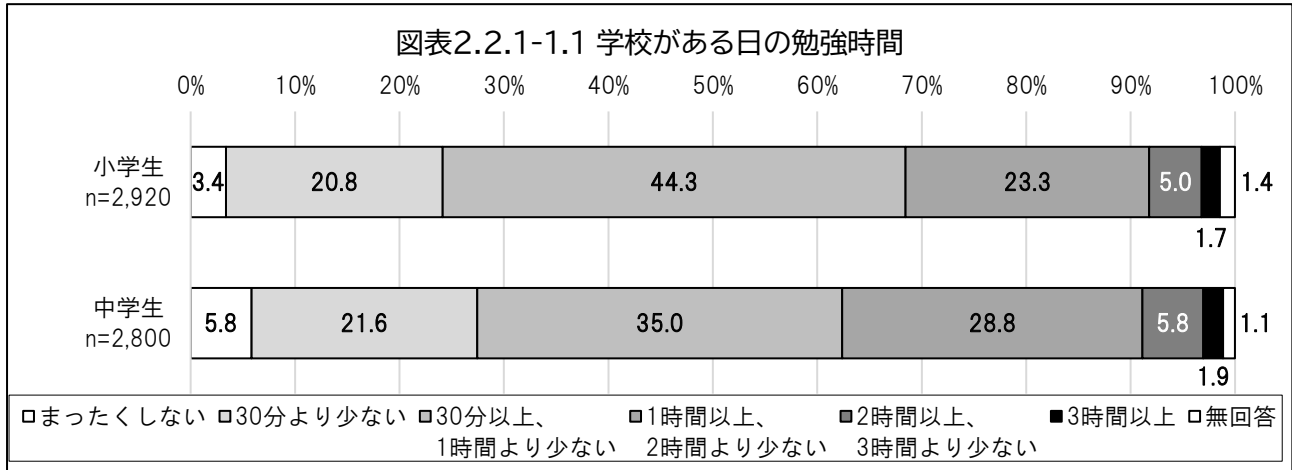
○「楽しいと感じていることが多い」と回答した割合は、全体では小学生が59.3%、中学生が58.3%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が52.3%、中学生が52.2%とやや低くなっています。



## 2 子どもの生活状況

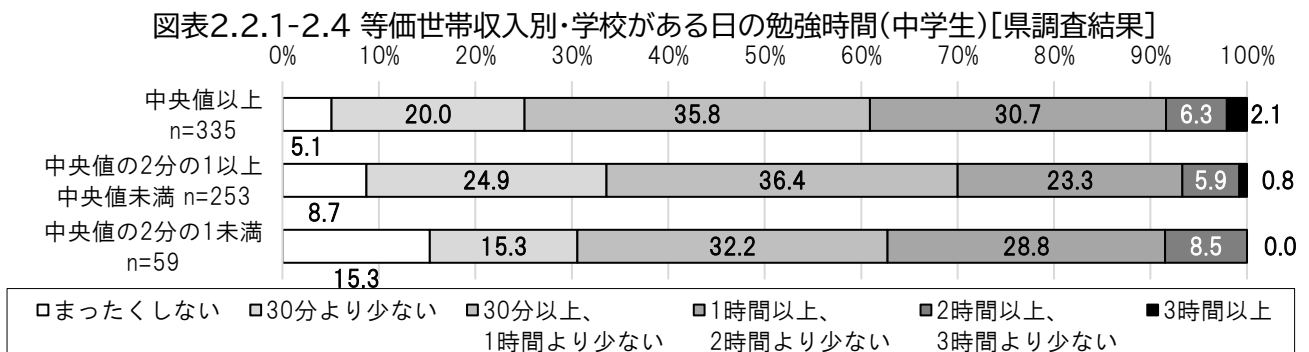
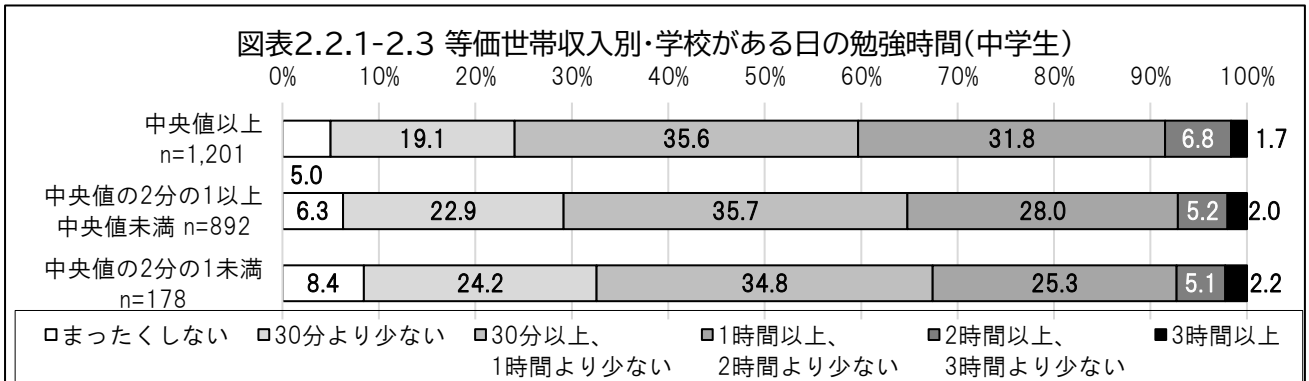
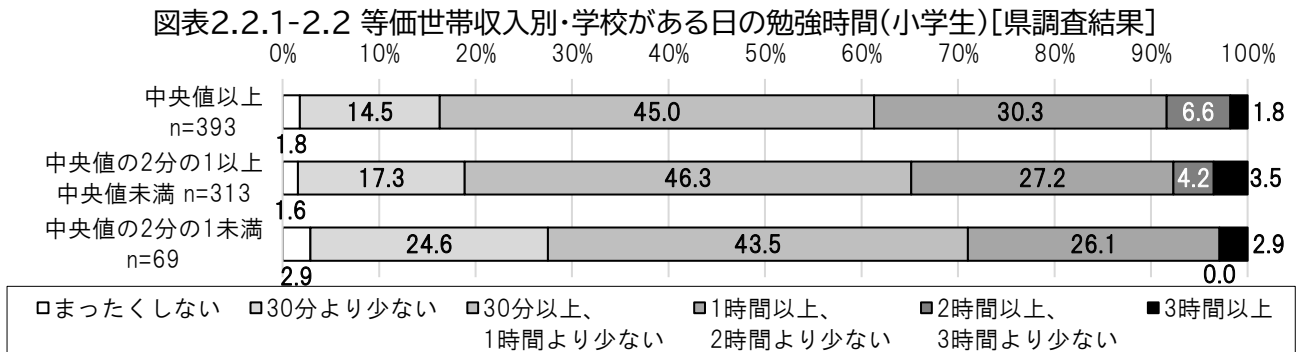
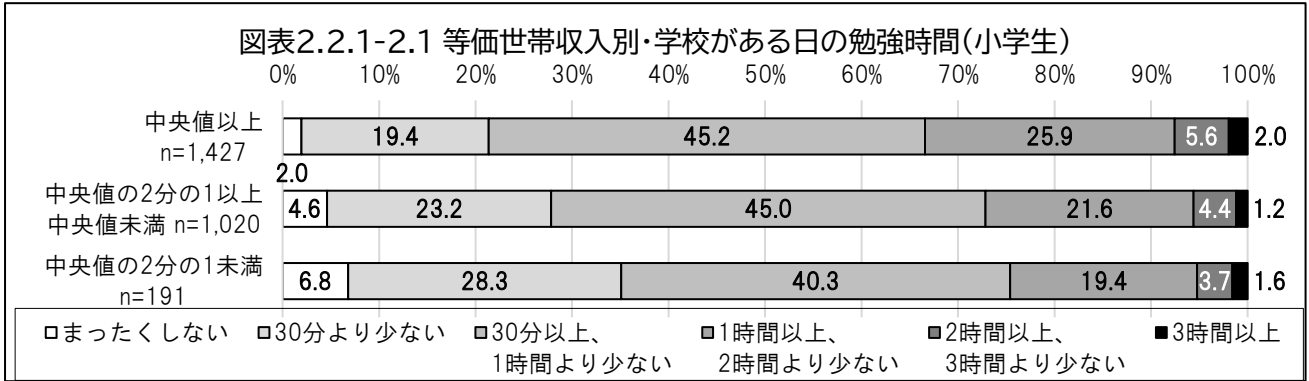
### (1-1) ふだん(学校がある日の1日)の勉強時間(全体)

○学校がある日に勉強を「まったくしない」と回答した割合は、小学生が3.4%で、県調査(1.9%)と比較してやや高く、中学生が5.8%で、県調査(7.1%)と比較してやや低くなっています。



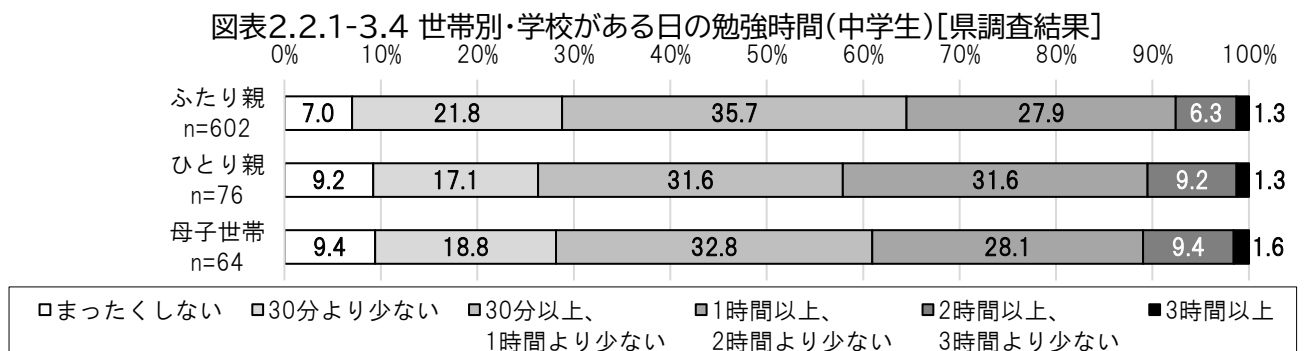
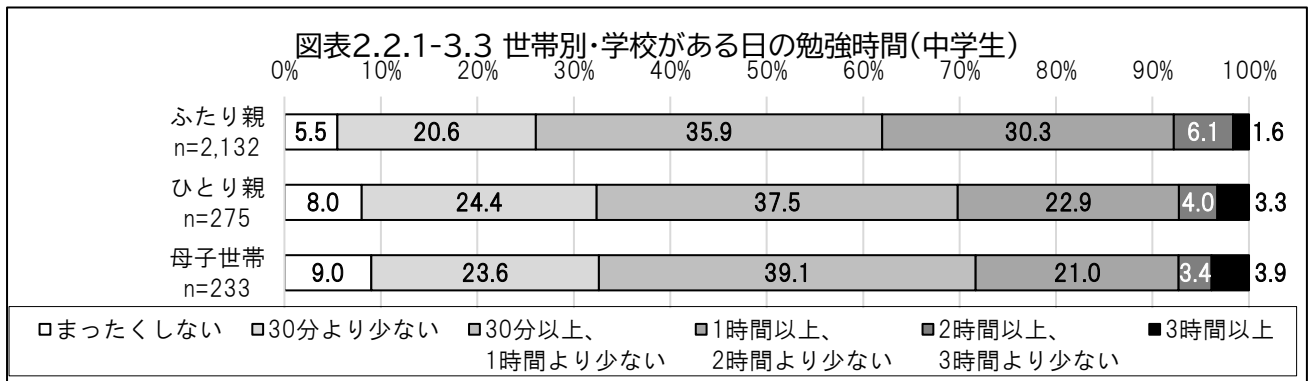
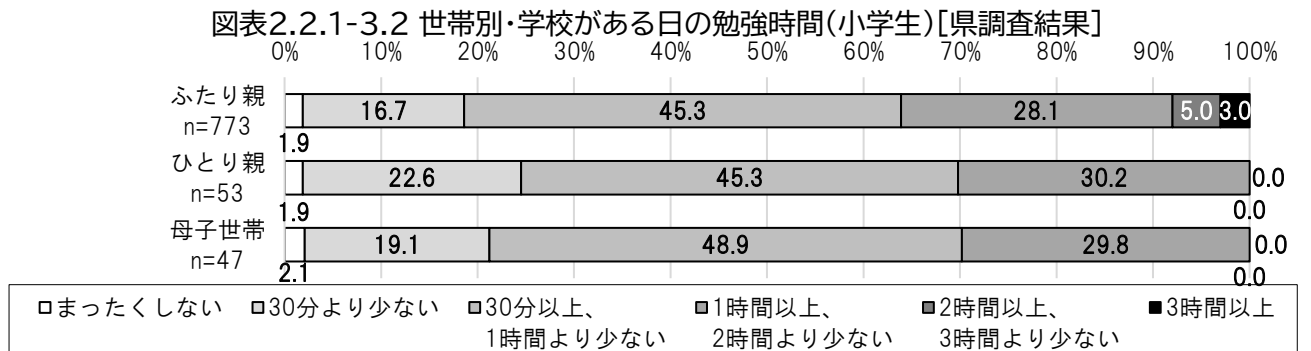
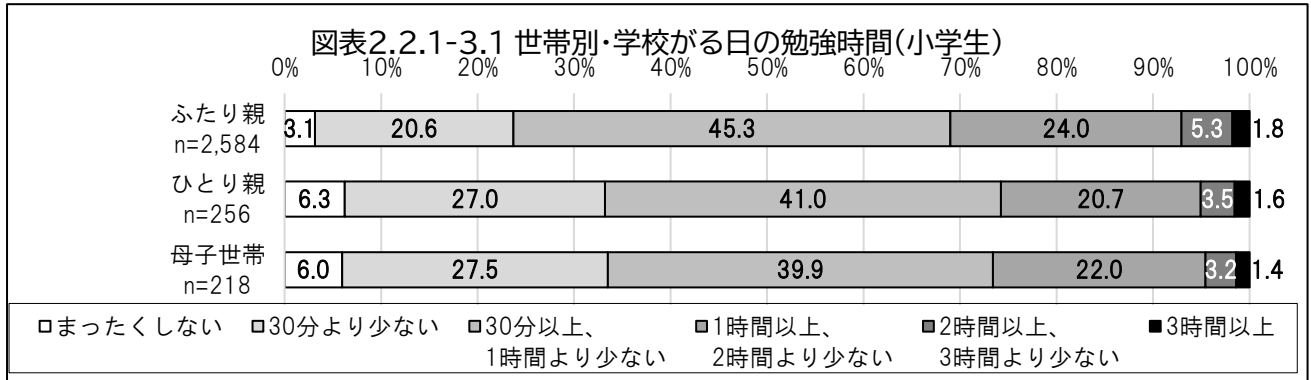
(1-2) ふだん(学校がある日の1日)の勉強時間(等価世帯収入別)

○学校がある日に勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では小学生が3.4%、中学生が5.8%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯(中央値の2分の1未満)」では小学生が6.8%、中学生が8.4%と高くなっています。また、小学生(6.8%)は県調査(2.9%)と比較してやや高く、中学生(8.4%)は県調査(15.3%)と比較して低くなっています。



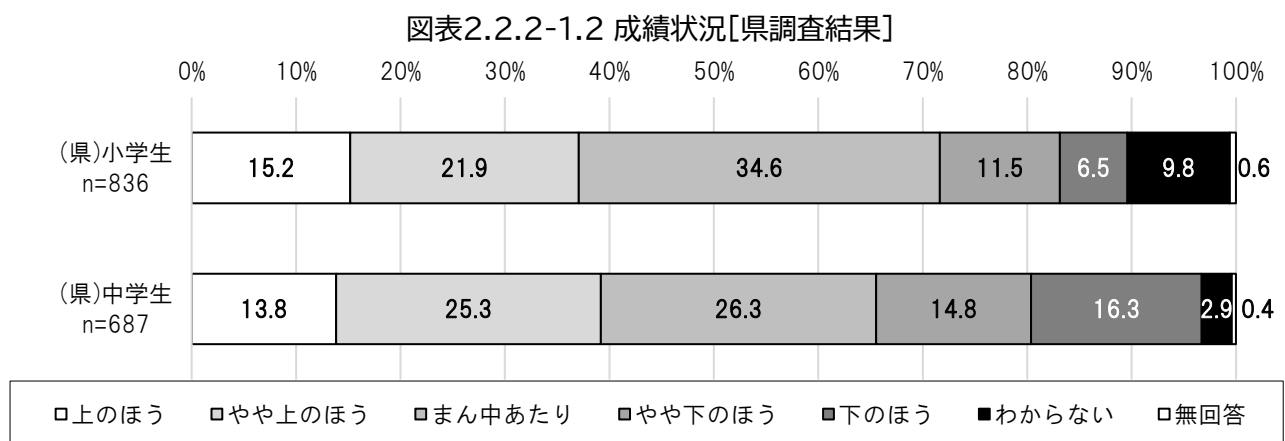
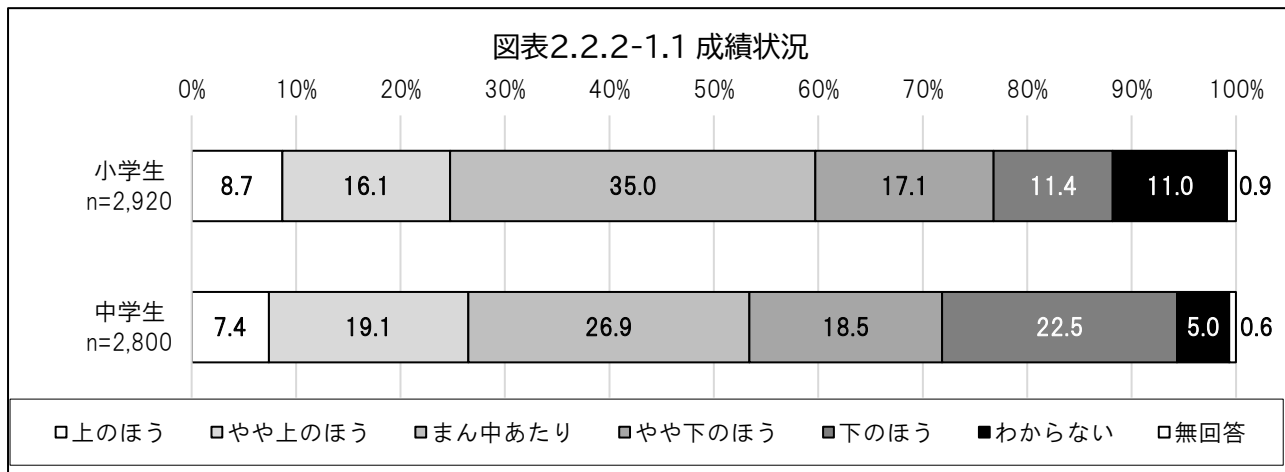
(1-3) ふだん(学校がある日の1日)の勉強時間(世帯別)

○学校がある日に勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では小学生が3.4%、中学生が5.8%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が6.3%、中学生が8.0%と高くなっています。また、小学生(6.3%)は県調査(1.9%)と比較して高く、中学生(8.0%)は県調査(9.2%)と比較して低くなっています。



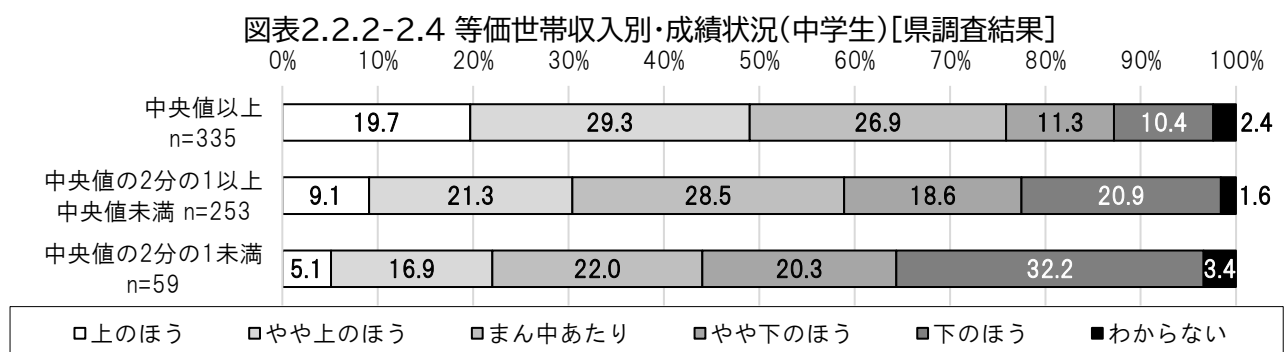
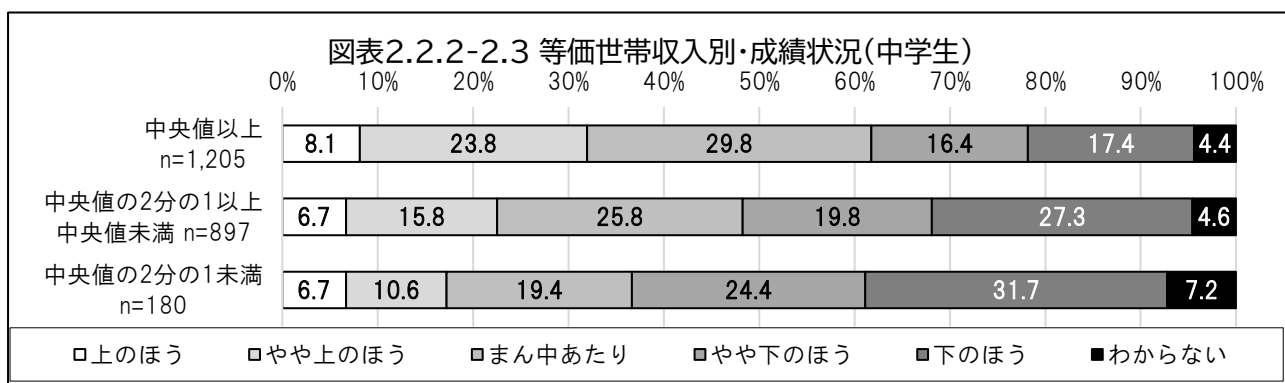
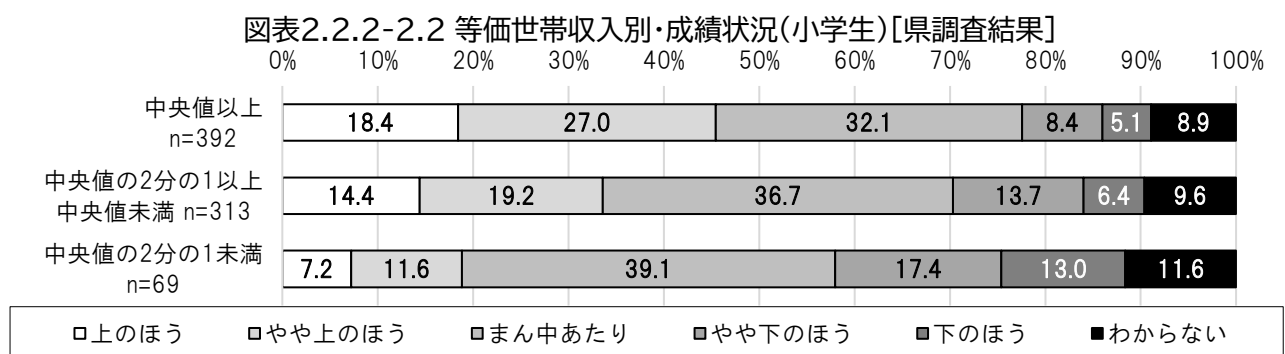
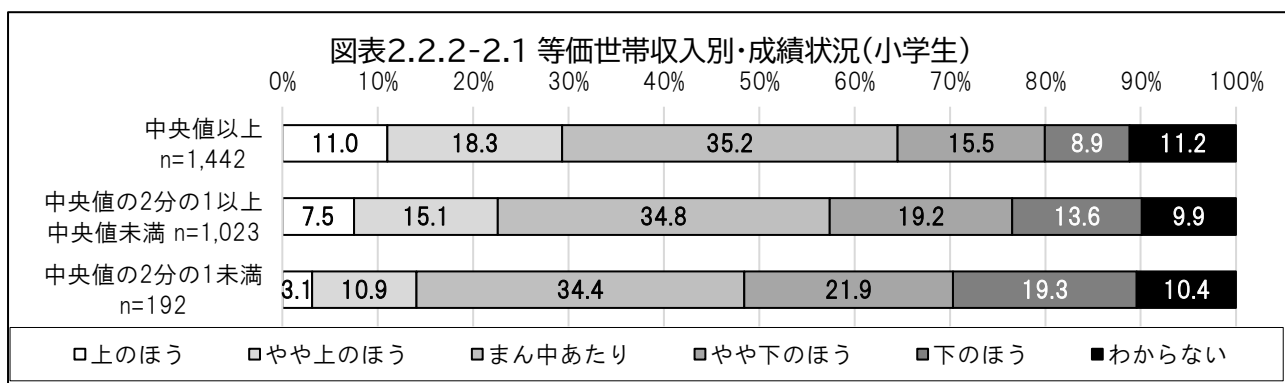
(2-1) クラスの中での成績（全体）

○クラスの中での成績について、「やや下のほう」又は「下のほう」と回答した割合は、小学生が28.5%、中学生が41.0%となっています。小学生、中学生（28.5%、41.0%）ともに、県調査（18.0%、31.1%）と比較して高くなっています。



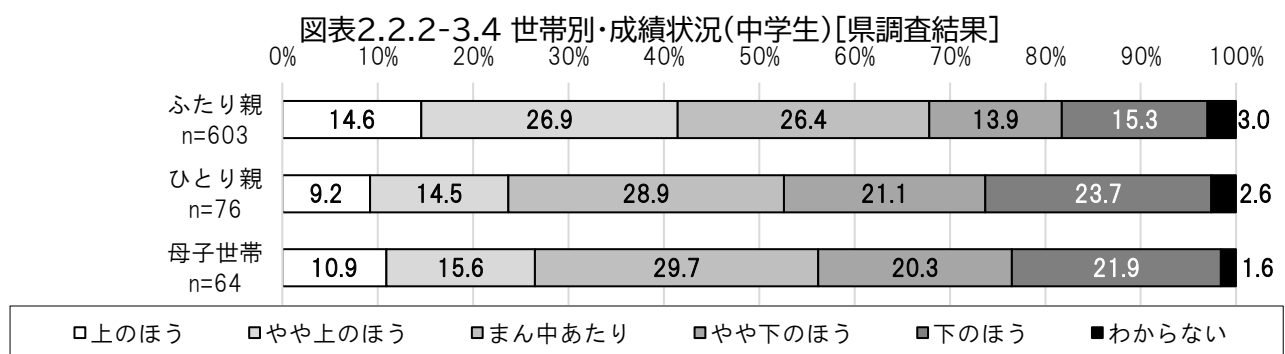
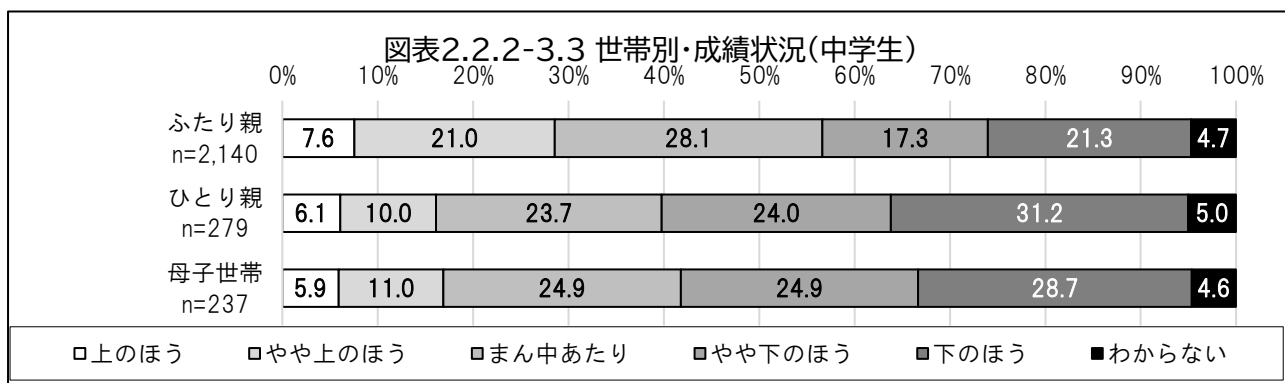
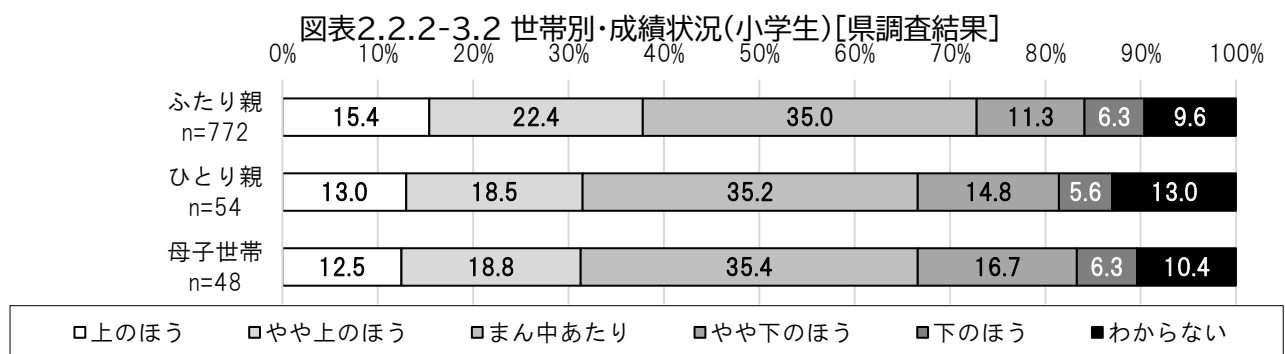
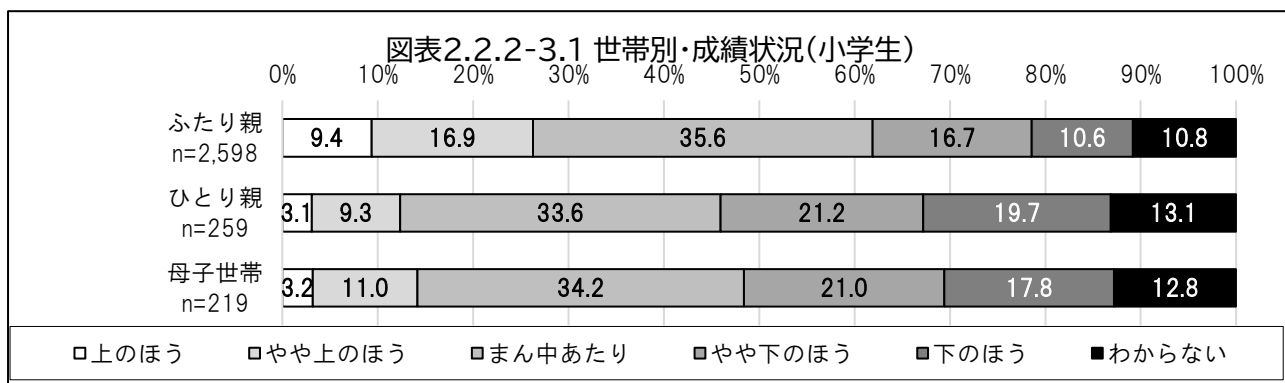
(2-2) クラスの中での成績（等価世帯収入別）

○クラスの中での成績について、「やや下のほう」又は「下のほう」と回答した割合は、全体では小学生が28.5%、中学生が41.0%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学生が41.2%、中学生が56.1%と高くなっています。また、小学生、中学生（41.2%、56.1%）ともに、県調査（30.4%・52.5%）と比較して高くなっています。



(2-3) クラスの中での成績(世帯)

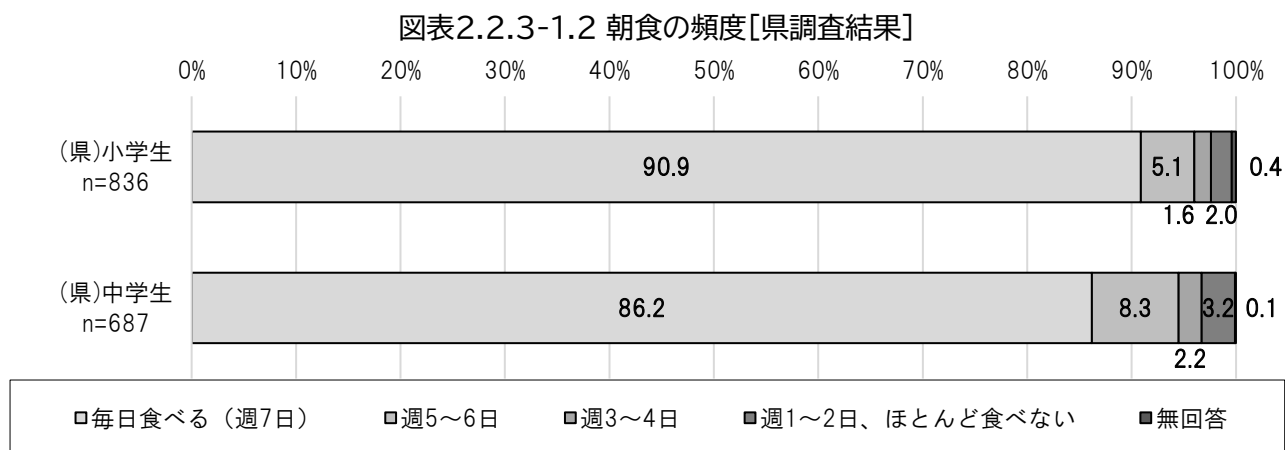
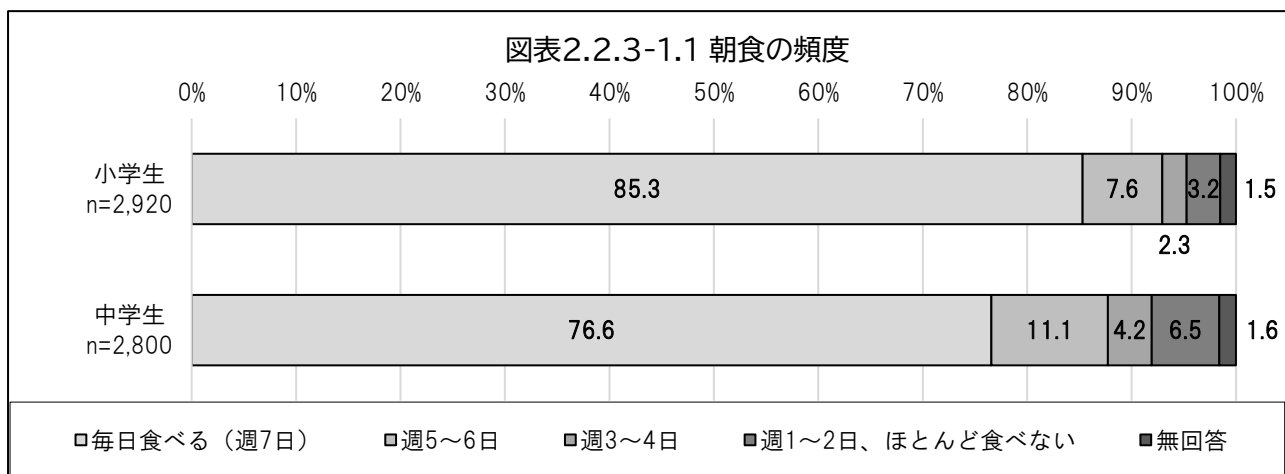
○クラスの中での成績について、「やや下のほう」又は「下のほう」と回答した割合は、全体では小学生が28.5%、中学生が41.0%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が40.9%、中学生が55.2%と高くなっています。また、小学生、中学生(40.9%、55.2%)ともに、県調査(20.4%、44.8%)と比較して高くなっています。





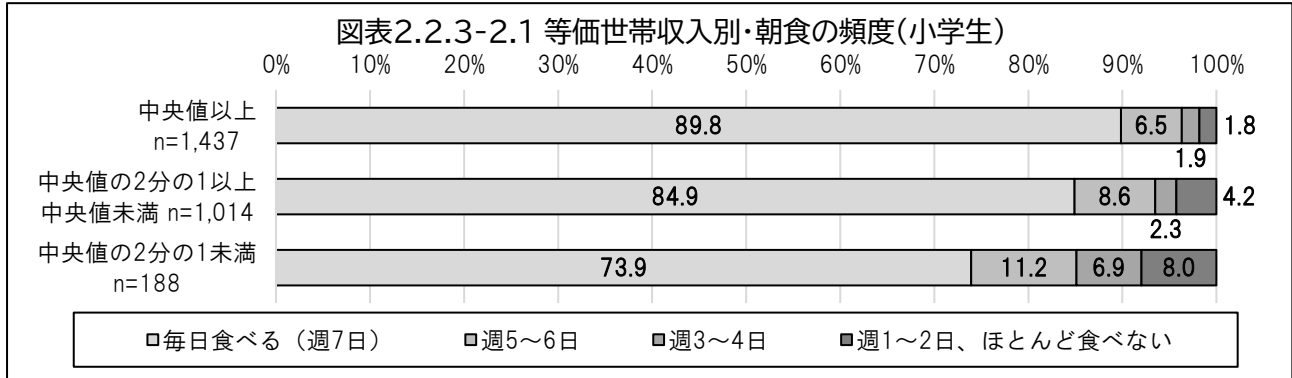
(3-1) 朝食の状況 (全体)

○朝食を「毎日食べる (週 7 日)」と回答した割合は、小学生 (85.3%)、中学生 (76.6%) とともに、県調査 (90.9%、86.2%) と比較して低くなっています。

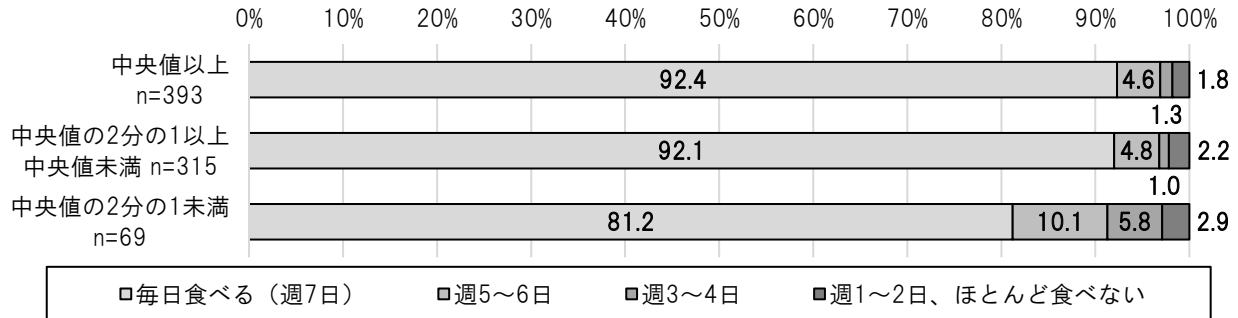


(3-2) 朝食の状況（等価世帯収入別）

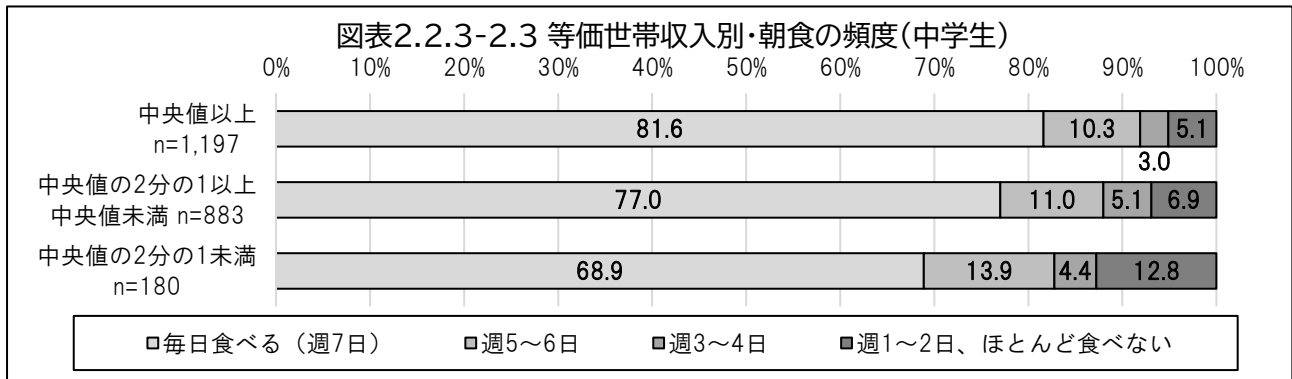
○朝食を「毎日食べる（週7日）」と回答した割合は、全体では小学生が85.3%、中学生が76.6%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学生が73.9%、中学生が68.9%と低くなっています。また、小学生、中学生（73.9%、68.9%）ともに、県調査（81.2%、78.0%）と比較して低くなっています。



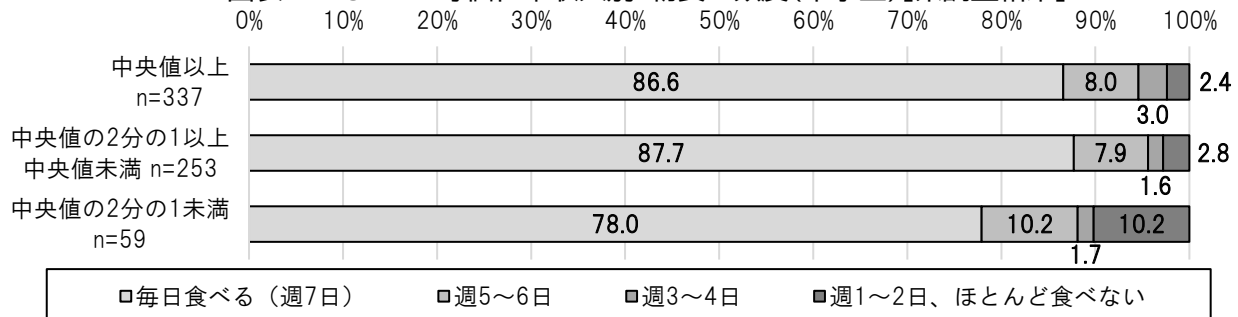
図表2.2.3-2.2 等価世帯収入別・朝食の頻度(小学生)[県調査結果]



図表2.2.3-2.3 等価世帯収入別・朝食の頻度(中学生)

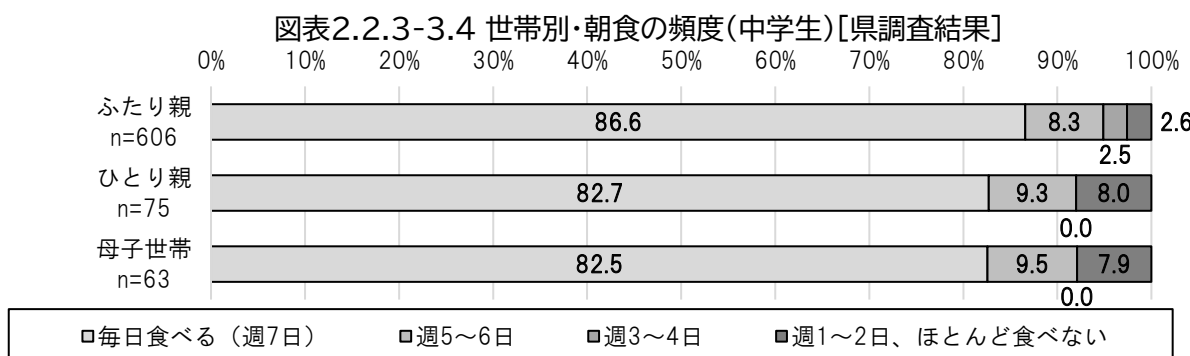
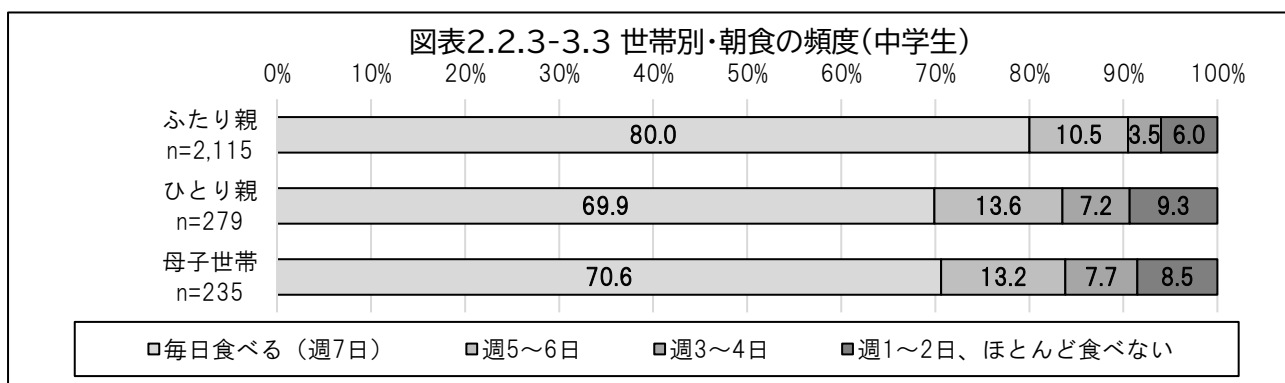
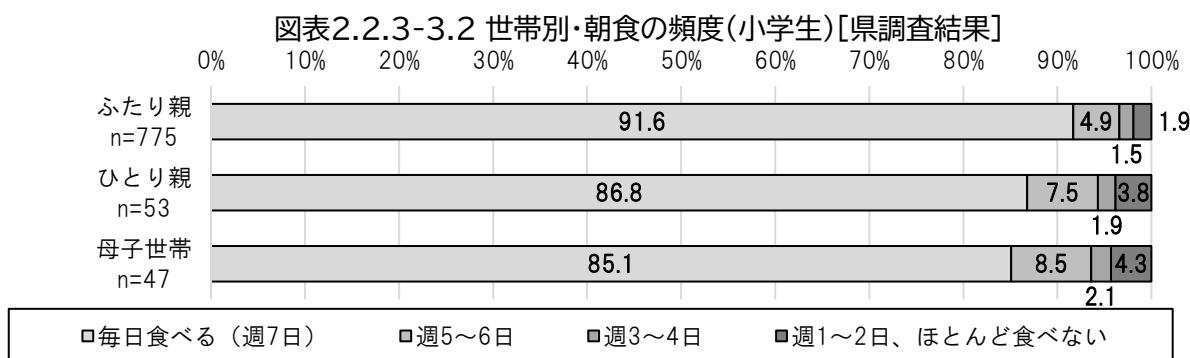
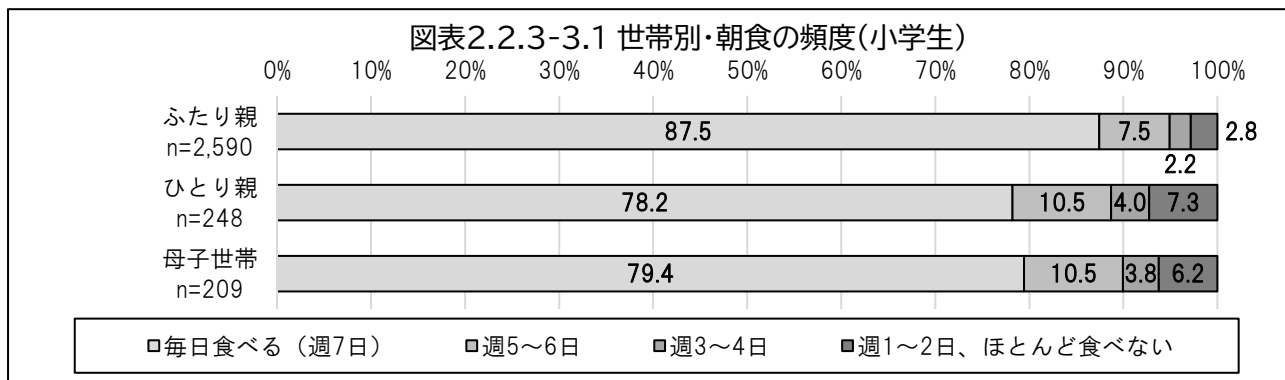


図表2.2.3-2.4 等価世帯収入別・朝食の頻度(中学生)[県調査結果]



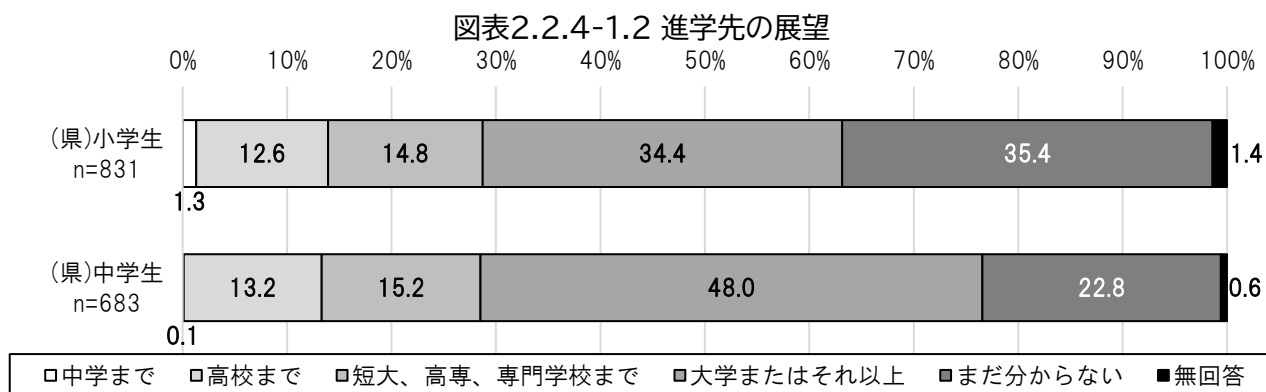
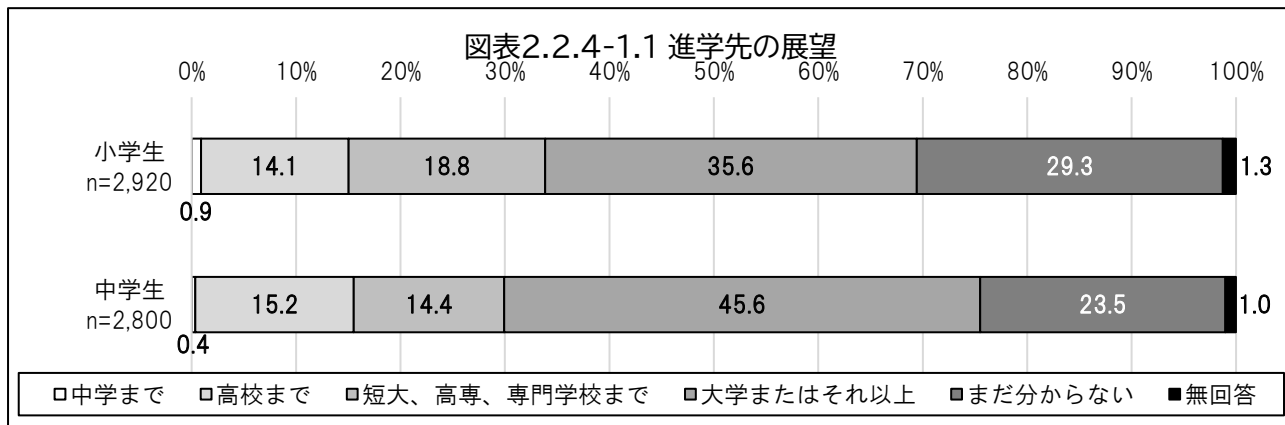
(3-3) 朝食の状況(世帯別)

○朝食を「毎日食べる(週7日)」と回答した割合は、全体では小学生が85.3%、中学生が76.6%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が78.2%、中学生が69.9%と低くなっています。また、小学生、中学生ともに(78.2%、69.9%)、県調査(86.8%、82.7%)と比較して低くなっています。



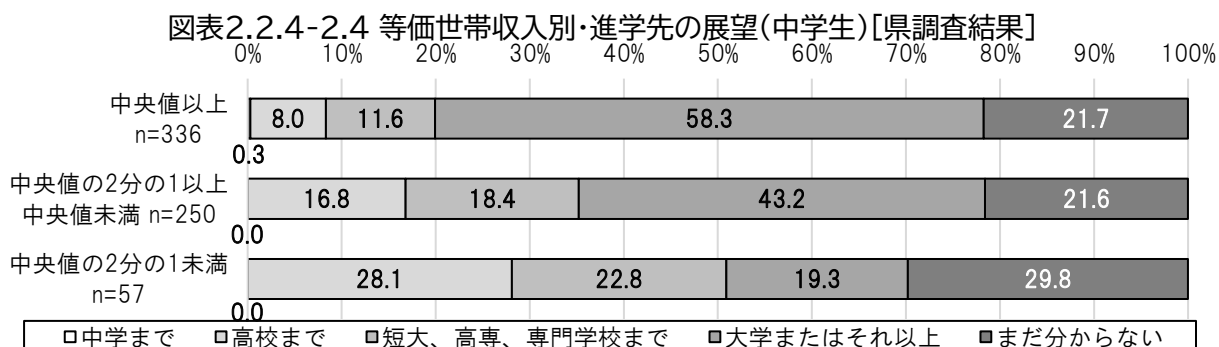
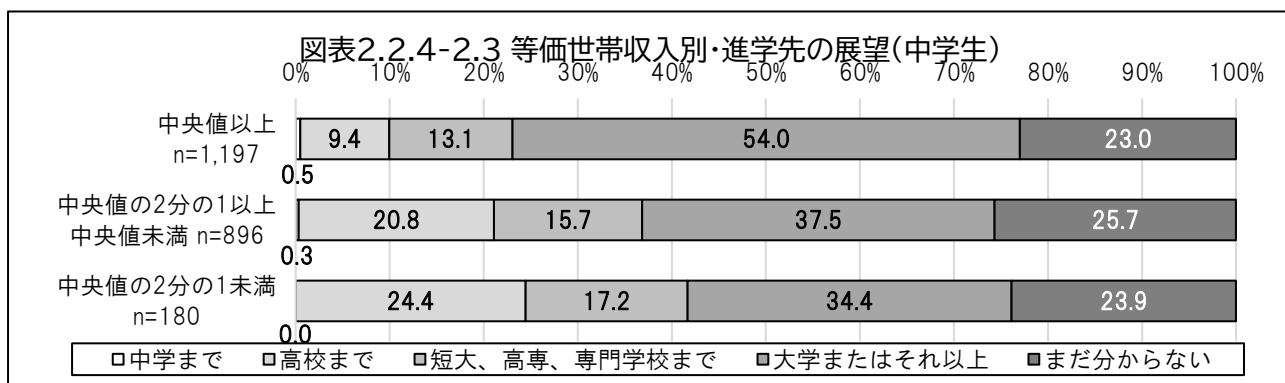
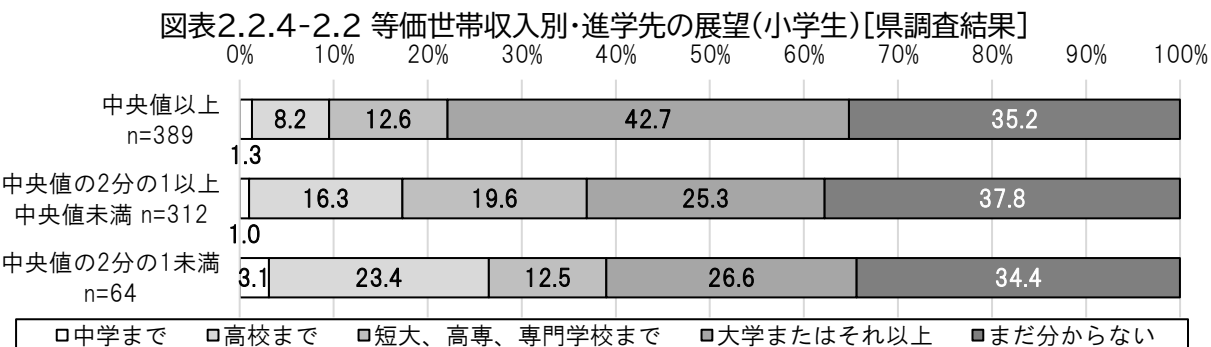
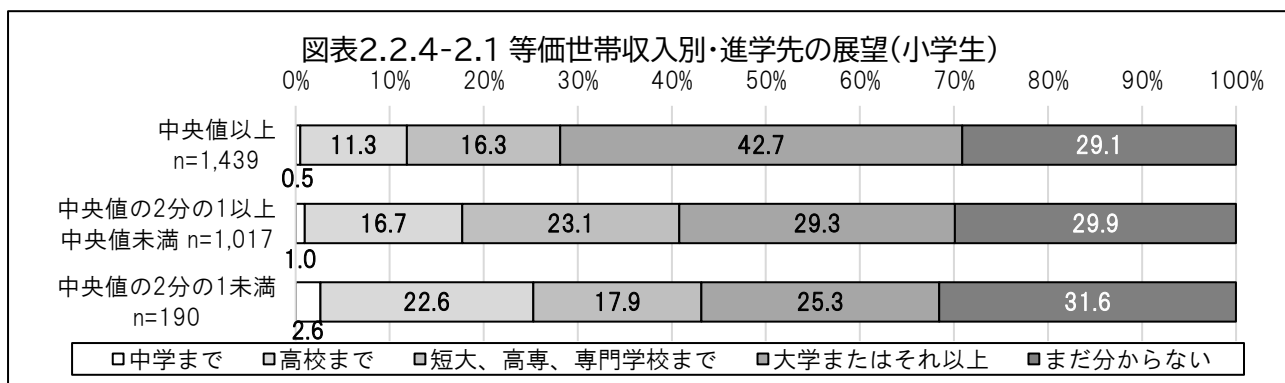
(4-1) 進学したいと思う教育段階（全体）

○進学したいと思う教育段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、小学生が35.6%で、県調査（34.4%）と同程度、中学生が45.6%で、県調査（48.0%）と比較してやや低くなっています。



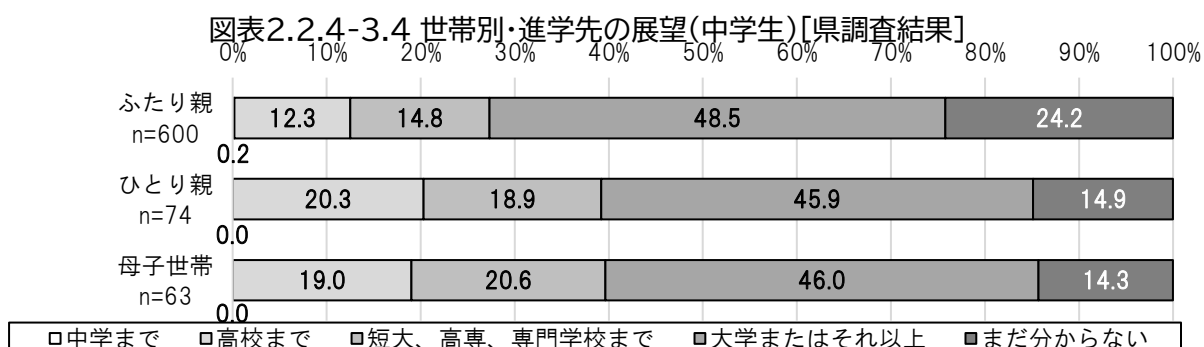
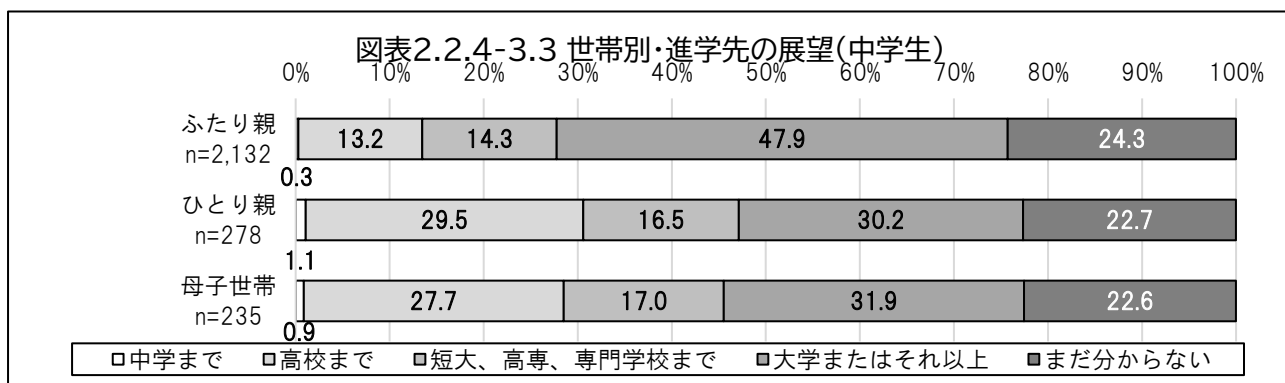
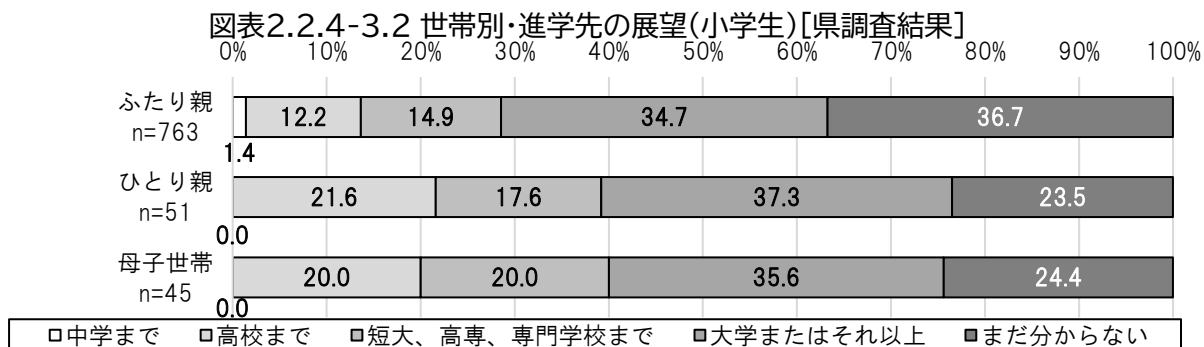
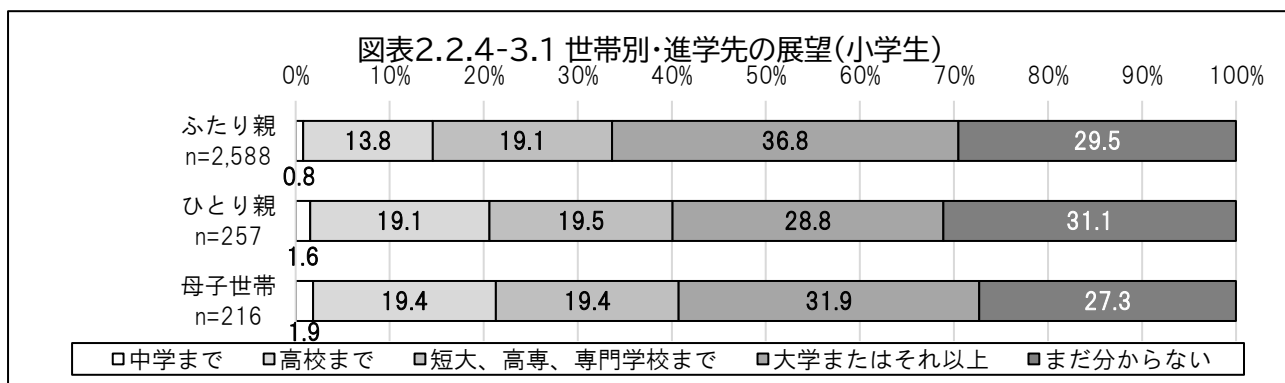
(4-2) 進学したいと思う教育段階（等価世帯収入別）

○進学したいと思う教育段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では小学生が35.6%、中学生が45.6%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯(中央値の2分の1未満)」では小学生が25.3%、中学生が34.4%と低くなっています。また、小学生(25.3%)は県調査(26.6%)と同程度、中学生(34.4%)は県調査(19.3%)と比較して高くなっています。



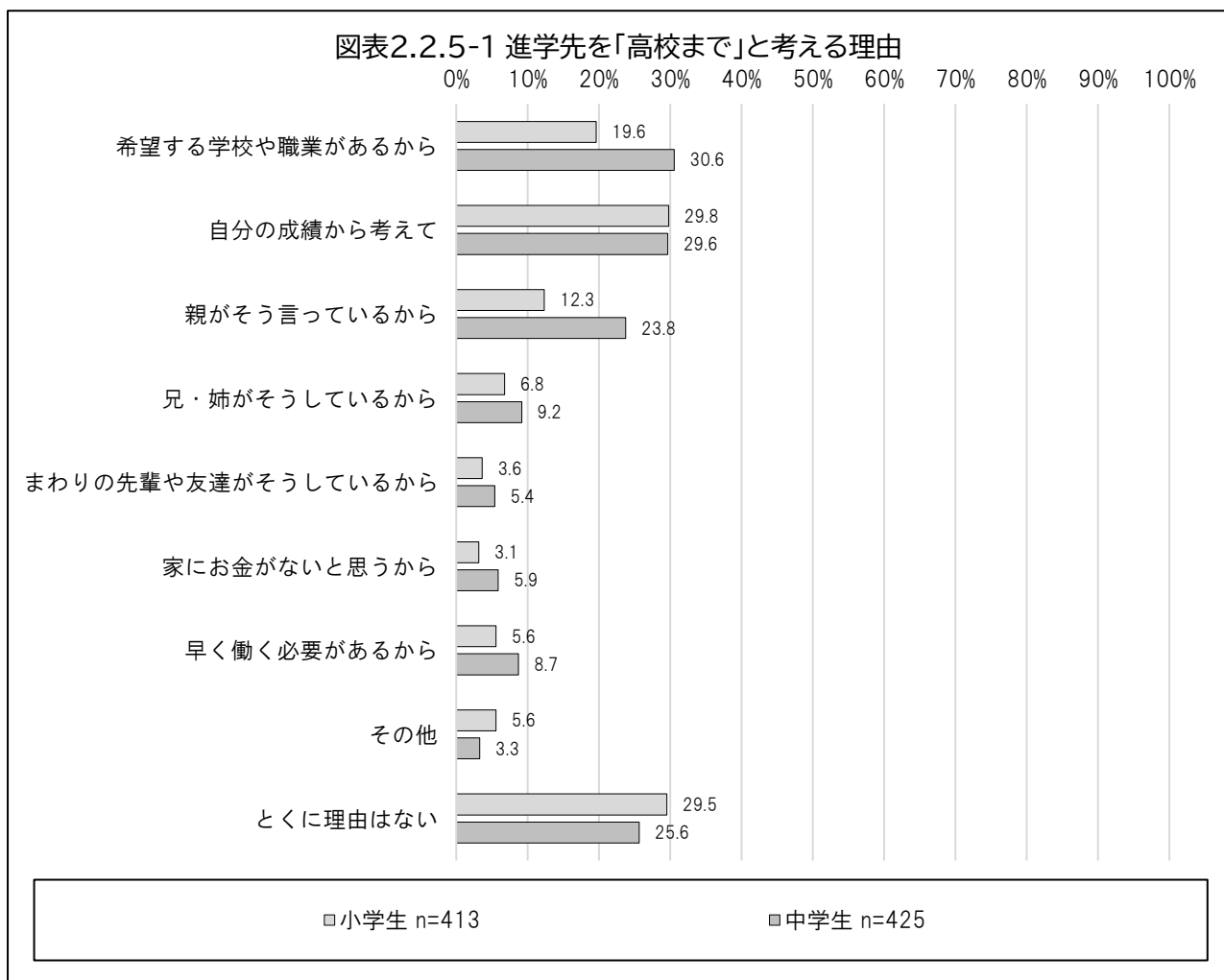
(4-3) 進学したいと思う教育段階（世帯別）

○進学したいと思う教育段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では小学生が35.6%、中学生が45.6%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が28.8%、中学生が30.2%と低くなっています。また、小学生、中学生（28.8%、30.2%）ともに、県調査（37.3%、45.9%）と比較して低くなっています。



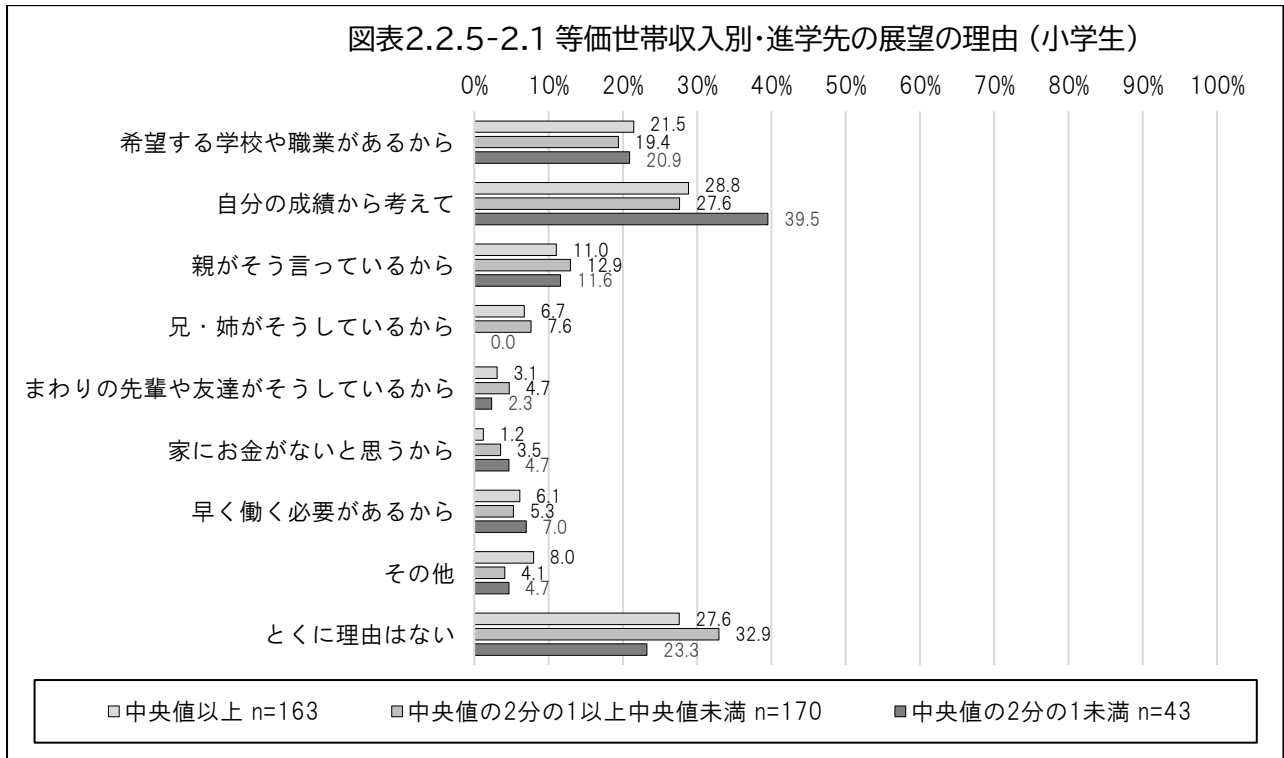
(5-1) 進学先を「高校まで」と考える理由（全体）

○進学先を「高校まで」と考える理由について、小学生では、「自分の成績から考えて」が29.8%、「とくに理由はない」が29.5%と高く、次いで「希望する学校や職業があるから」が19.6%となっています。中学生では、「希望する学校や職業があるから」が30.6%、「自分の成績から考えて」が29.6%と高く、次いで「とくに理由はない」が25.6%、「親がそう言っているから」が23.8%となっています。

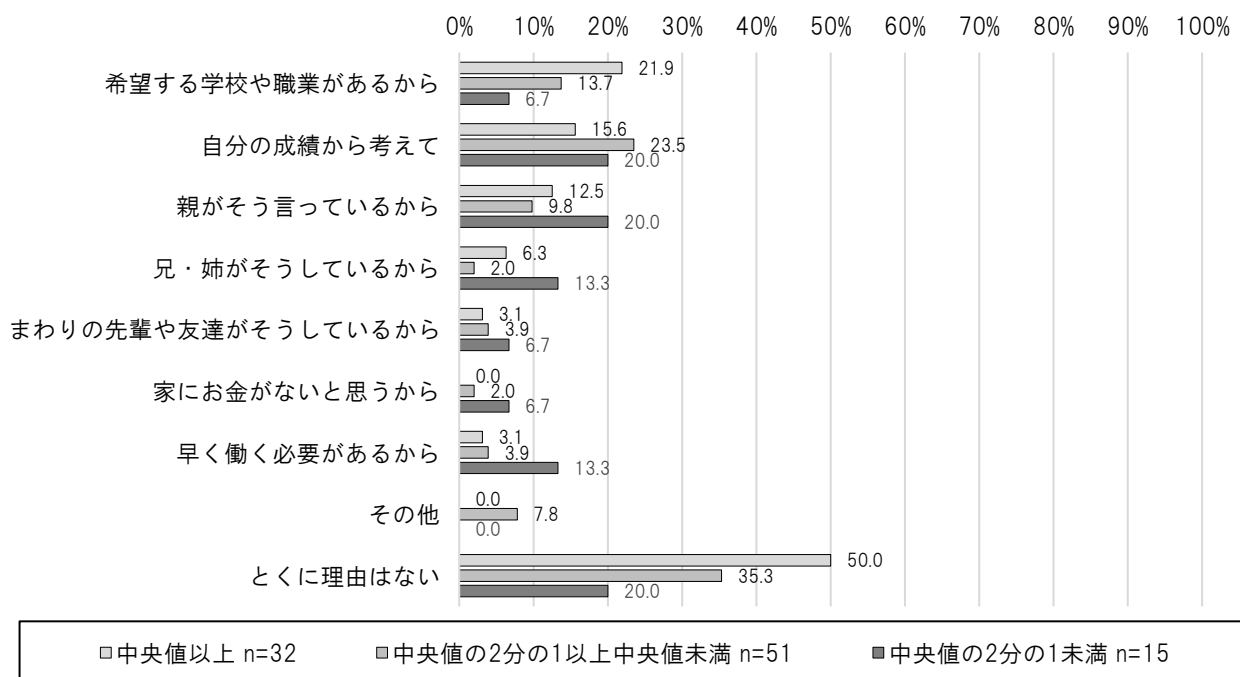


(5-2) 進学先を「高校まで」と考える理由（等価世帯収入別）

○進学先を「高校まで」と考える理由は、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」の小学生では「自分の成績から考えて」が39.5%と最も高くなっています。また中学生では「とくに理由はない」が29.5%と最も高く、次いで「自分の成績から考えて」「親がそう言っているから」が22.7%となっています。

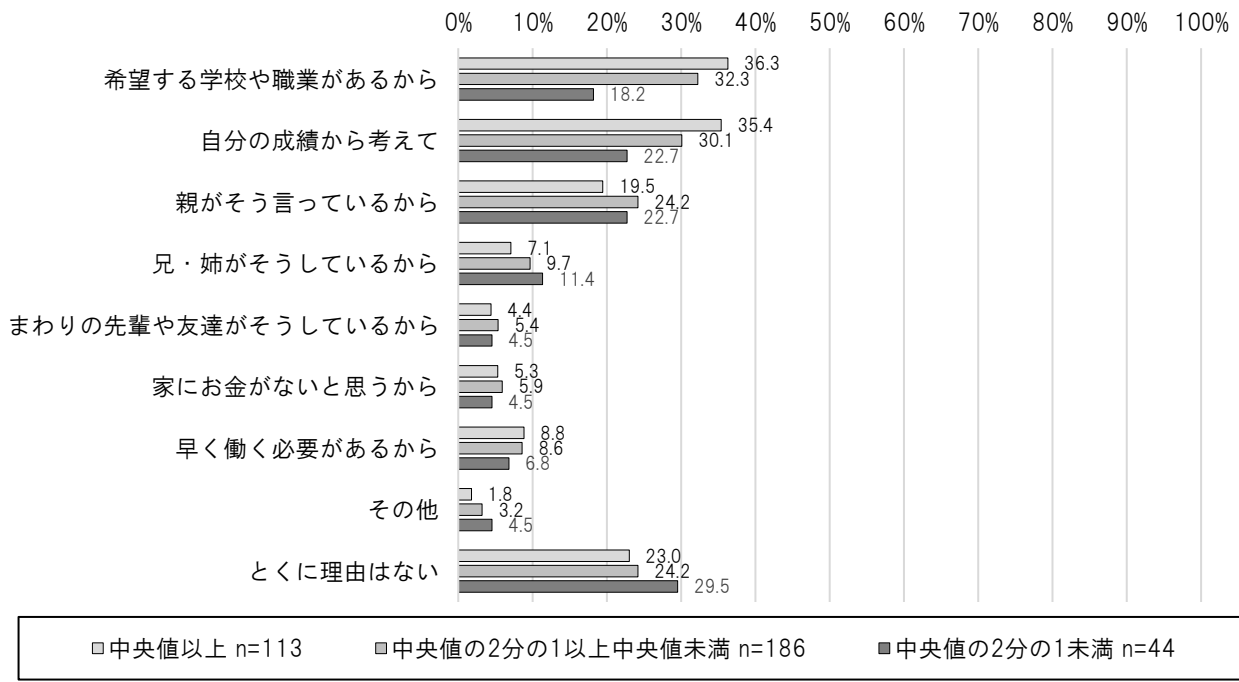


図表2.2.5-2.2 等価世帯収入別・進学先の展望の理由（小学生）[県調査結果]

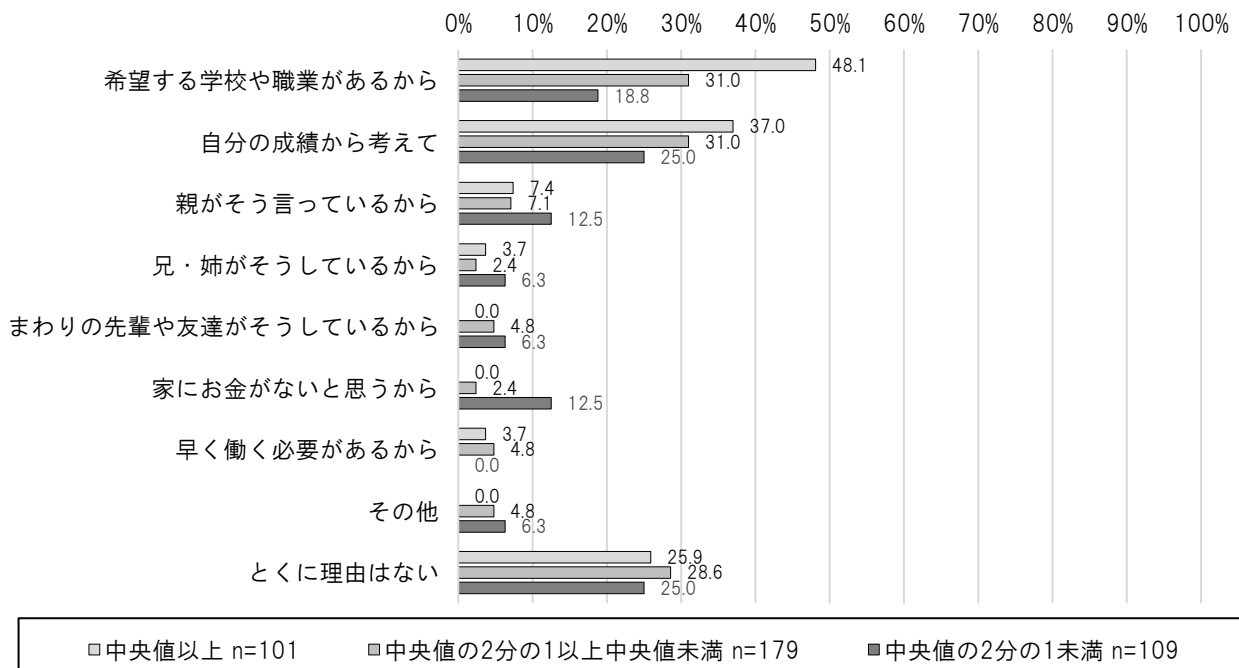




図表2.2.5-2.3 等価世帯収入別・進学先の展望の理由(中学生)

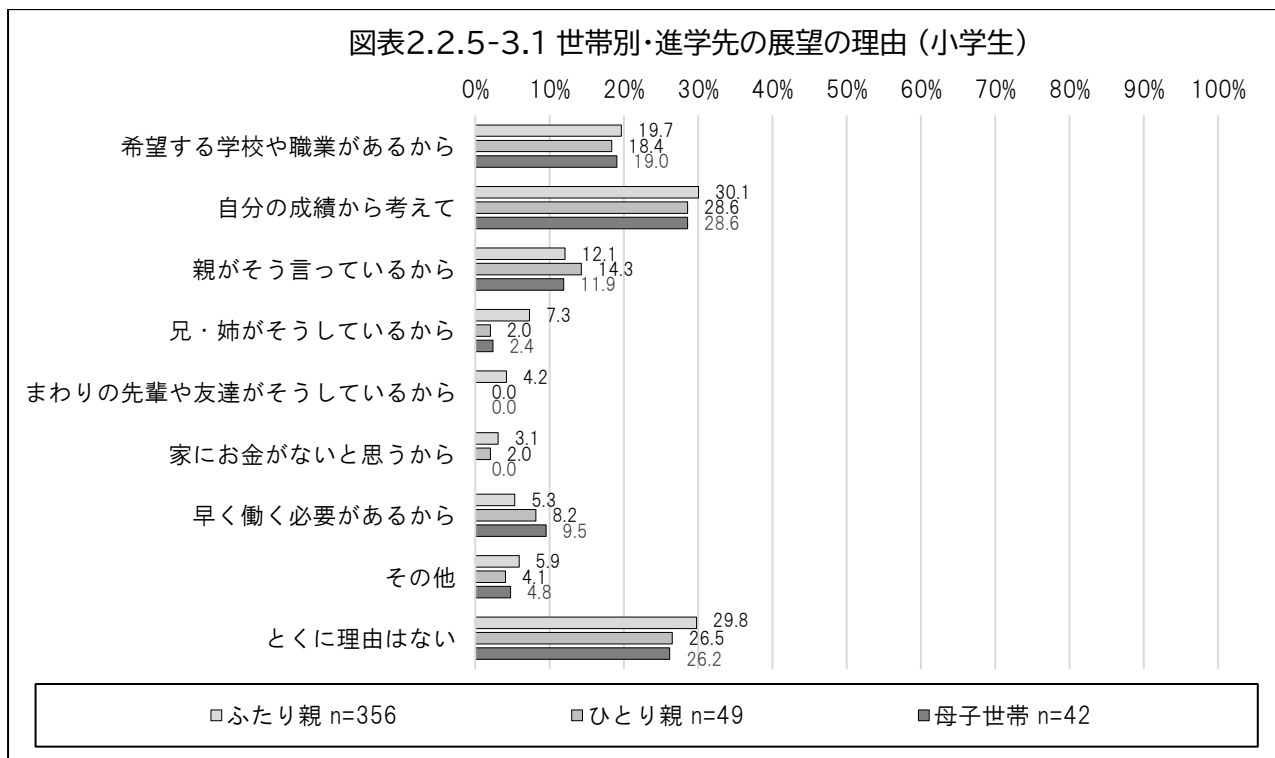


図表2.2.5-2.4 等価世帯収入別・進学先の展望の理由(中学生)[県調査結果]

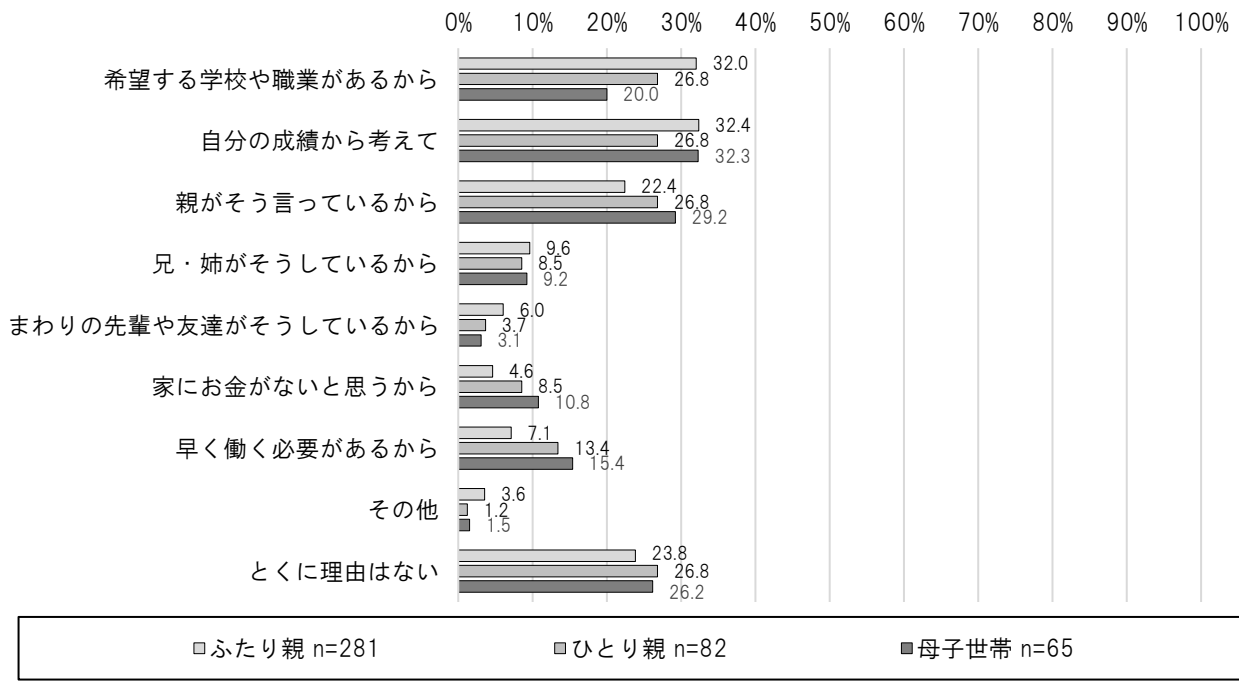


(5-3) 進学先を「高校まで」と考える理由（世帯別）

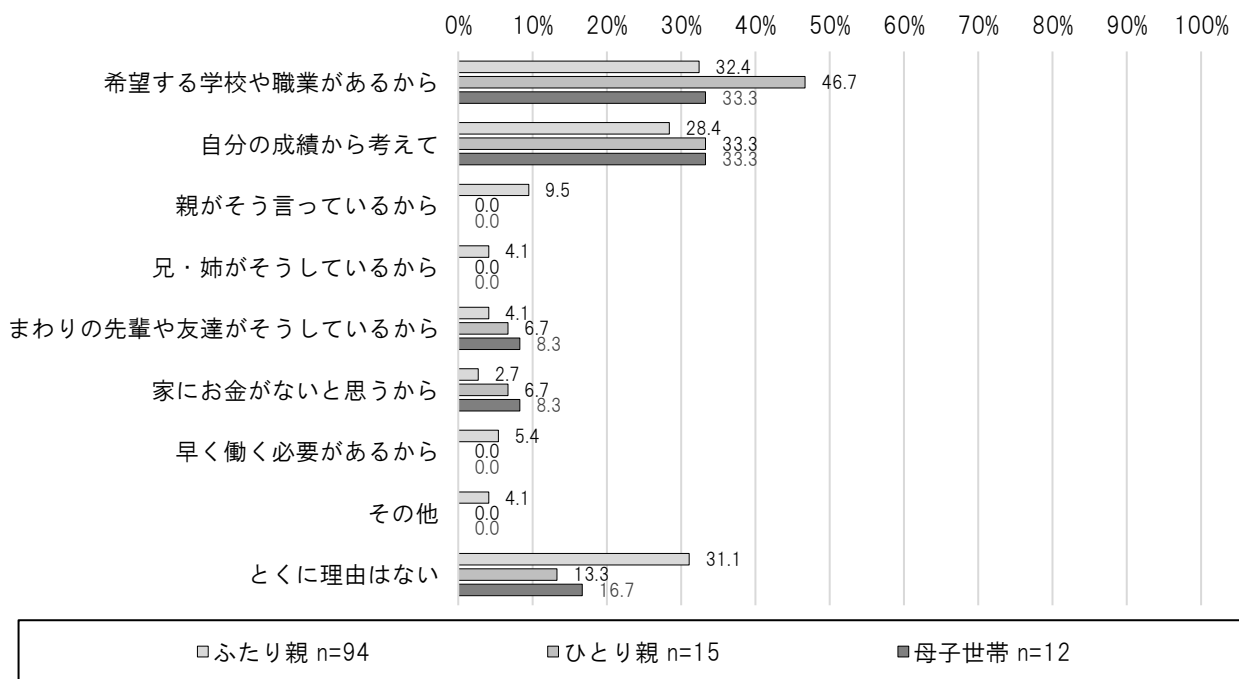
○進学先を「高校まで」と考える理由は、ひとり親世帯の小学生では「自分の成績から考えて」が28.6%と最も高く、中学生では「希望する学校や職業があるから」、「自分の成績から考えて」、「親がそう言っているから」、「とくに理由はない」が26.8%となっています。



図表2.2.5-3.3 世帯別・進学先の展望の理由（中学生）

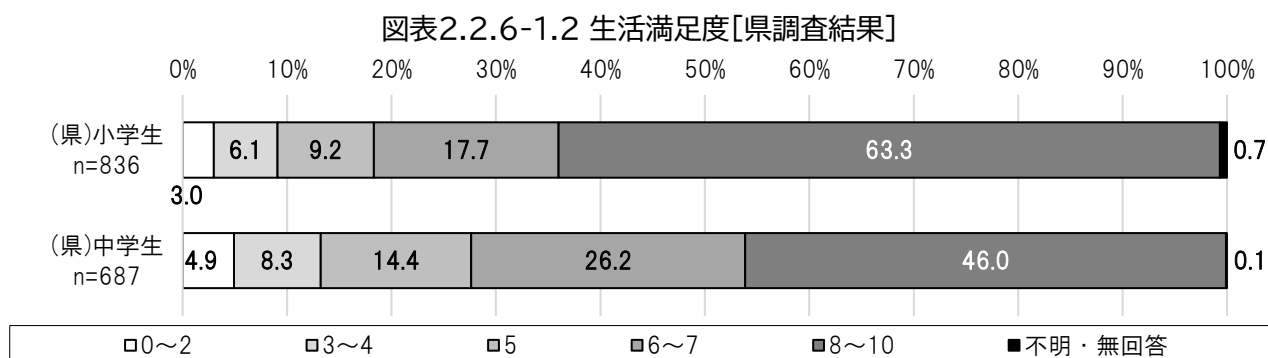
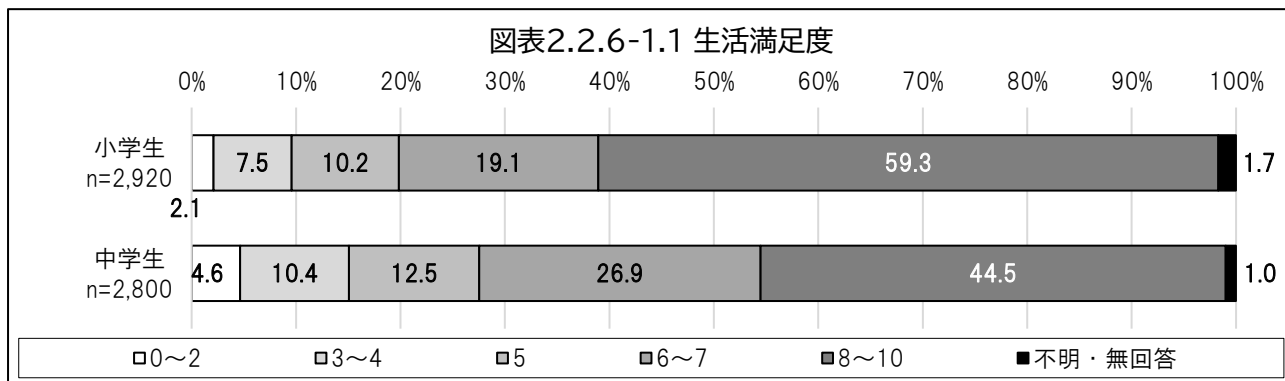


図表2.2.5-3.4 世帯別・進学先の展望の理由（中学生）[県調査結果]



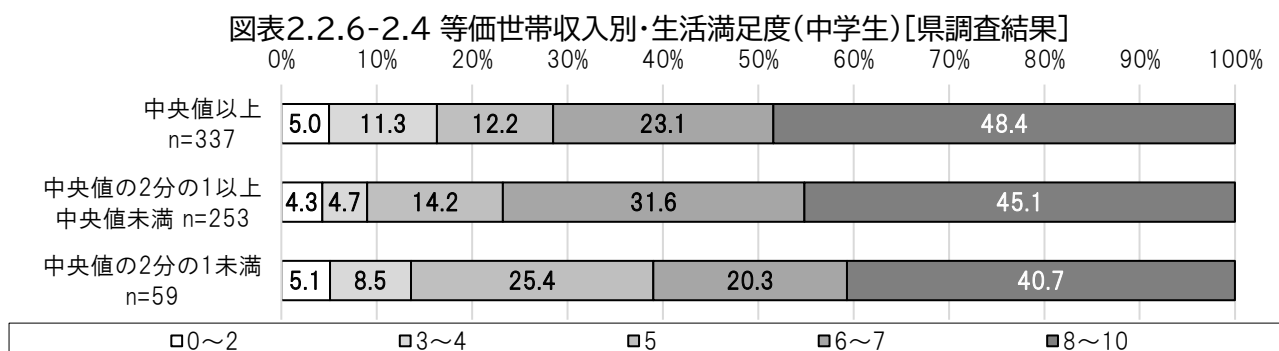
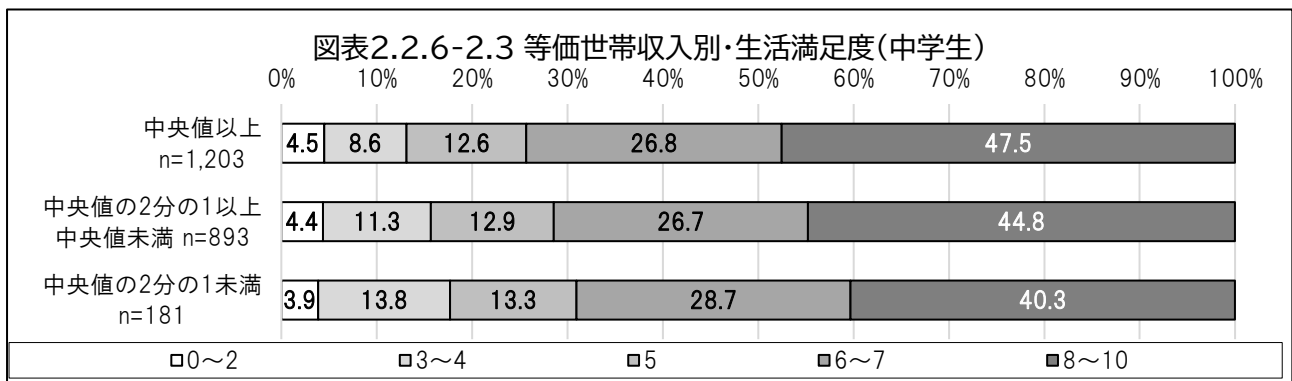
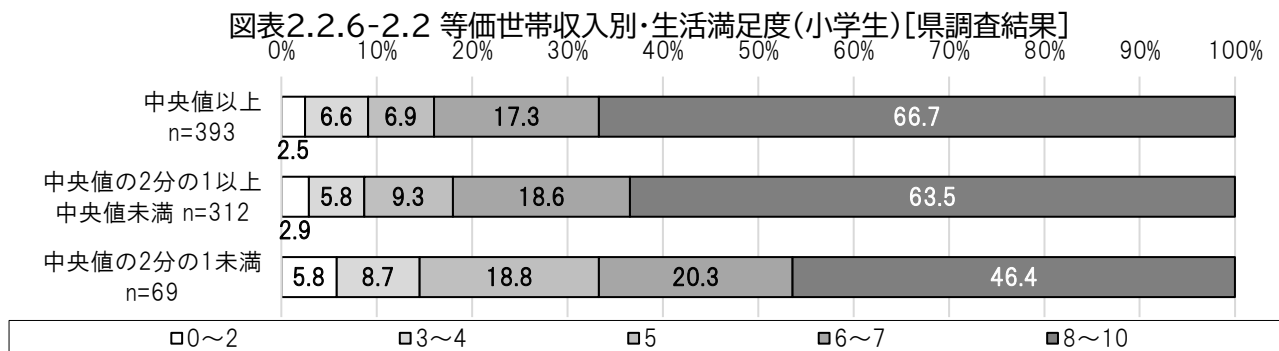
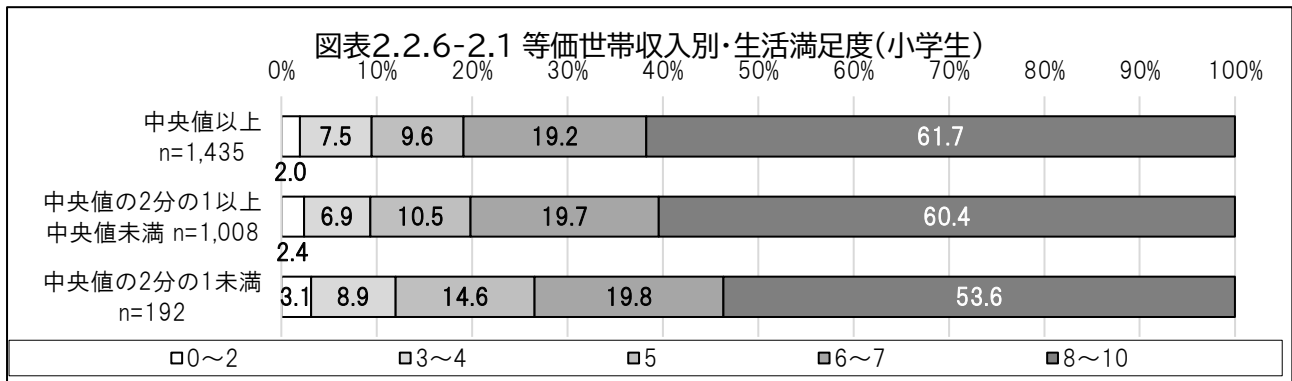
(6-1) 生活満足度 (全体)

○生活満足度について、「6～10」(満足度が高い方の回答)と回答した割合は、小学生が78.4%、中学生が71.4%となっています。小学生、中学生(78.4%、71.4%)ともに、県調査(81.0%、72.2%)と比較してやや低くなっています。



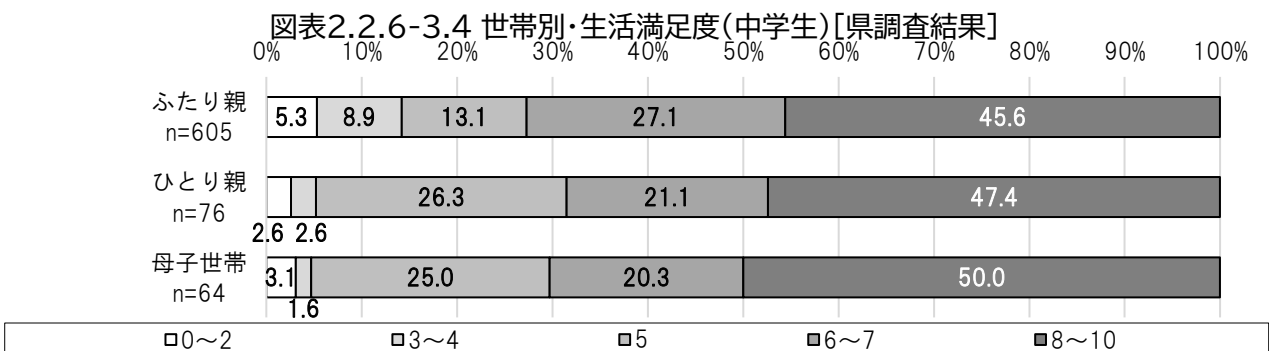
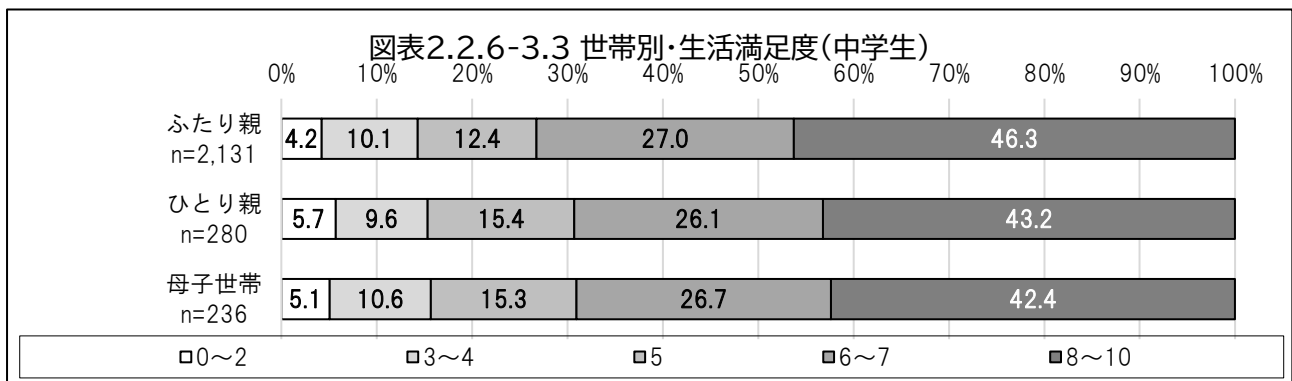
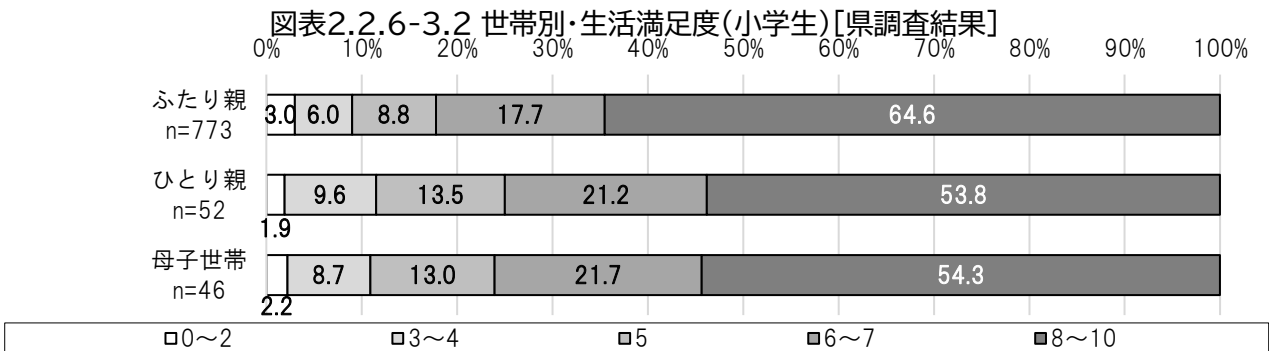
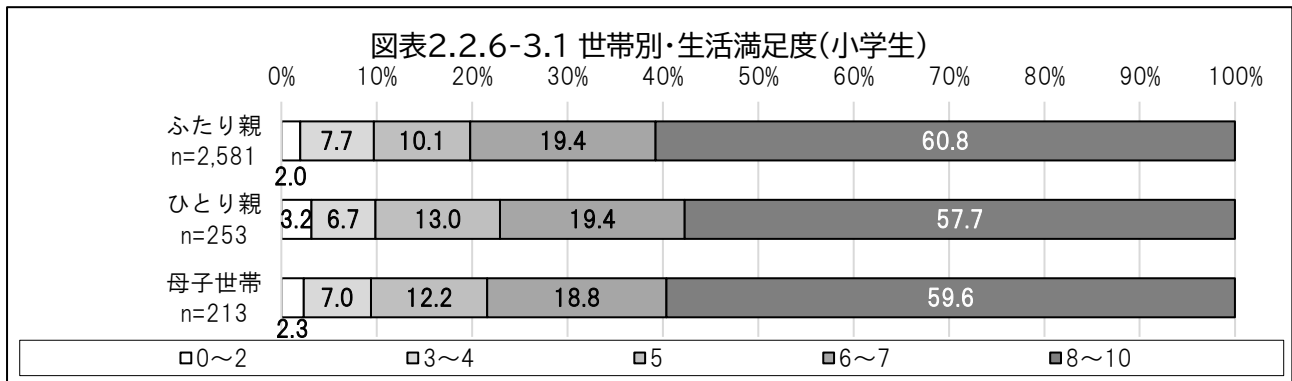
(6-2) 生活満足度（等価世帯収入別）

○生活満足度について、「6～10」（満足度が高い方の回答）と回答した割合は、全体では小学生が78.4%、中学生が71.4%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学生が73.4%、中学生が69.0%と低くなっています。また、小学生、中学生（73.4%、69.0%）ともに、県調査（66.7%、61.0%）と比較して高くなっています。



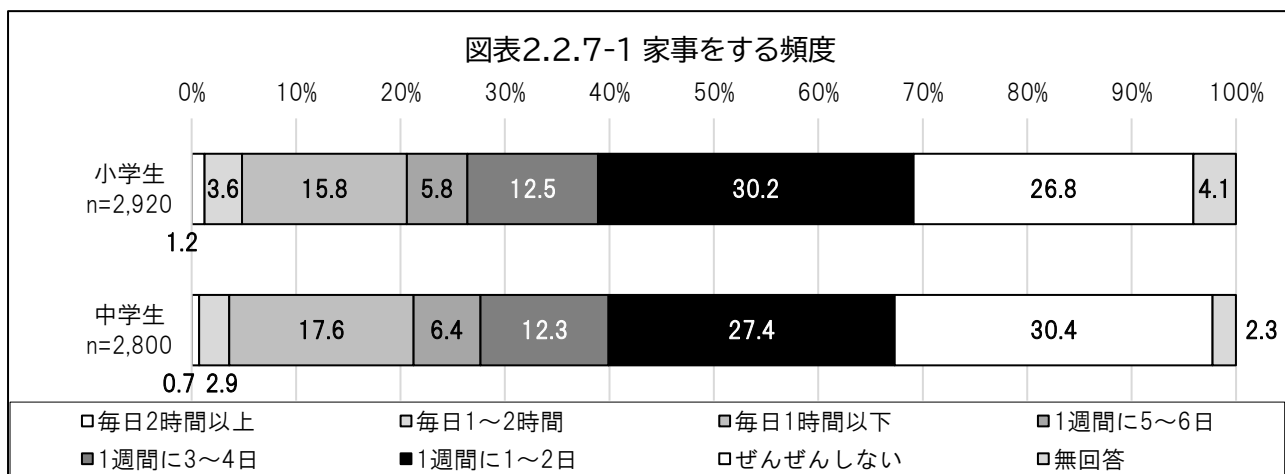
(6-3) 生活満足度(世帯別)

○生活満足度について、「6～10」(満足度が高い方の回答)と回答した割合は、全体では小学生が78.4%、中学生が71.4%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が77.1%、中学生が69.3%とやや低くなっています。また、小学生、中学生(77.1%、69.3%)ともに、県調査(75.0%、68.5%)と比較してやや高くなっています。



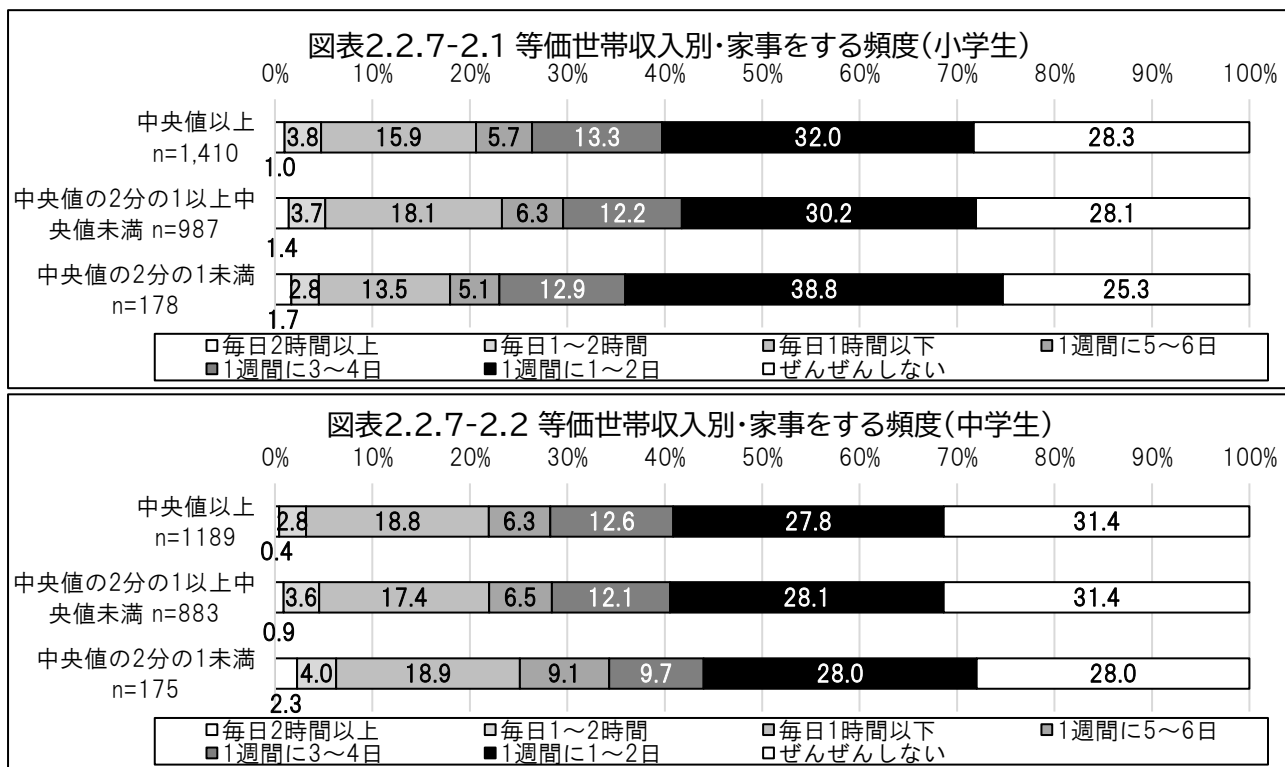
(7-1) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）（全体）

○普段家事をする頻度について、「毎日する」と回答した割合（「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」の合計）は、小学生が20.6%、中学生が21.2%となっています。



(7-2) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）（等価世帯収入別）

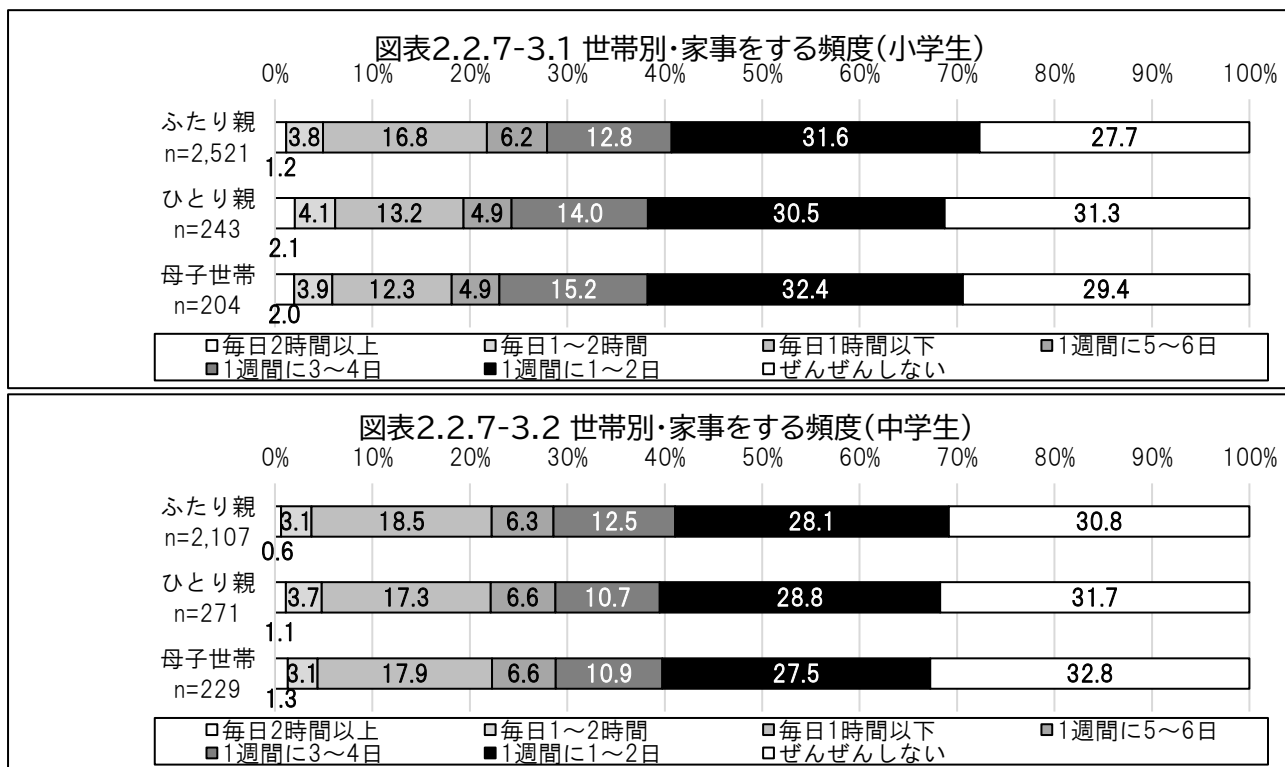
○「毎日する」（「毎日2時間以上」と「毎日1～2時間」と「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体では小学生が20.6%、中学生が21.2%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学生が18.0%、中学生が25.2%となっています。





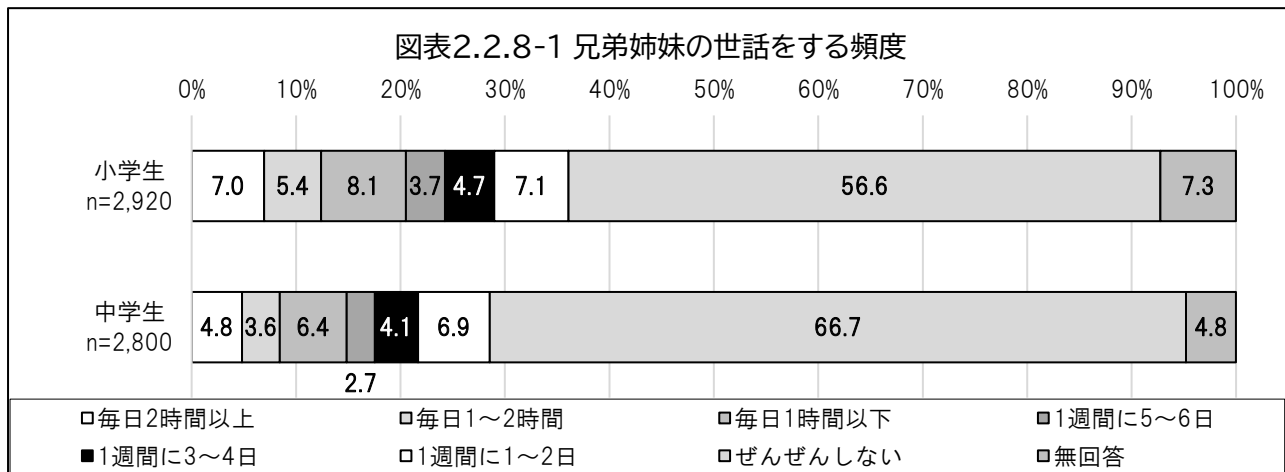
(7-3) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）（世帯別）

○「毎日する」と回答した割合（「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」の合計）は、全体では小学生が20.6%、中学生が21.2%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が19.4%、中学生が22.1%となっています。



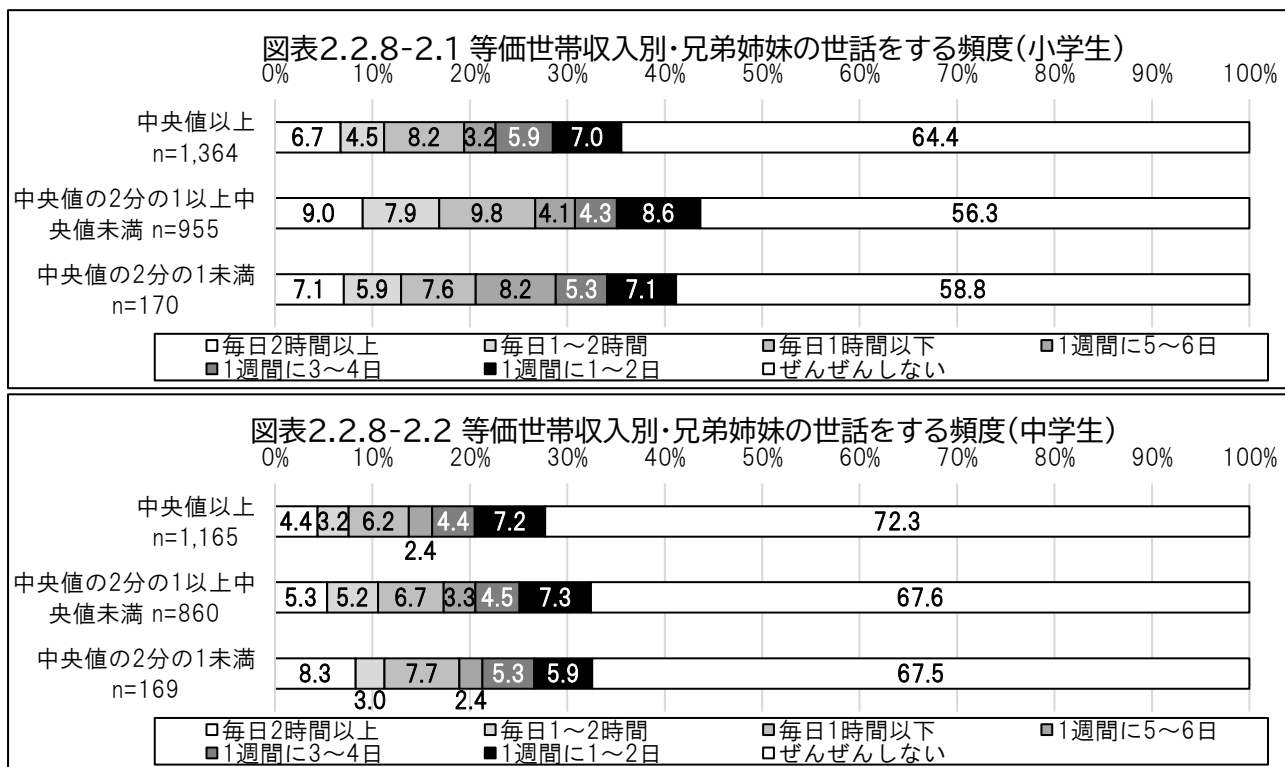
(8-1) 兄弟・姉妹の世話(全体)

○普段兄弟・姉妹の世話をする頻度について、「毎日する」と回答した割合(「毎日2時間以上」「毎日1~2時間」「毎日1時間以下」の合計)は、小学生が20.5%、中学生が14.8%となっています。



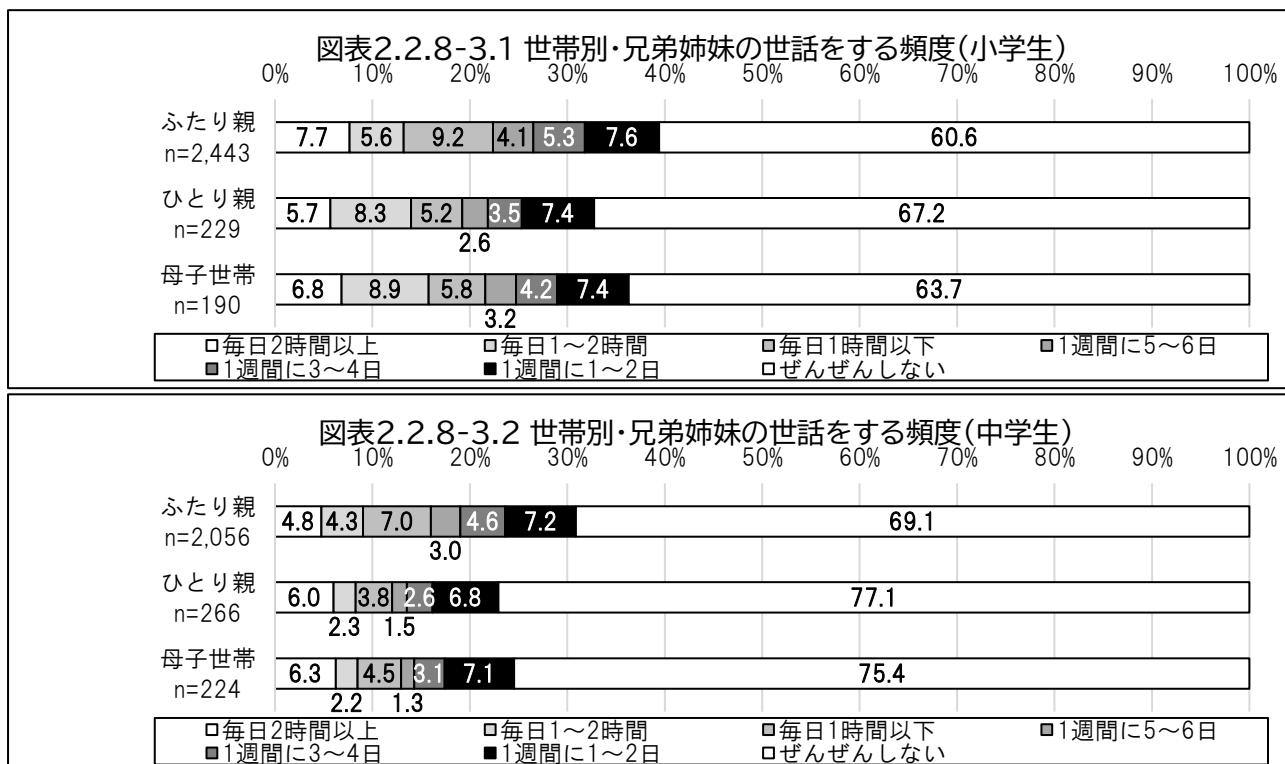
(8-2) 兄弟・姉妹の世話（等価世帯収入別）

○「毎日する」と回答した割合（「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」の合計）は、全体では小学生が20.5%、中学生が14.8%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学生が20.6%、中学生が19.0%となっています。



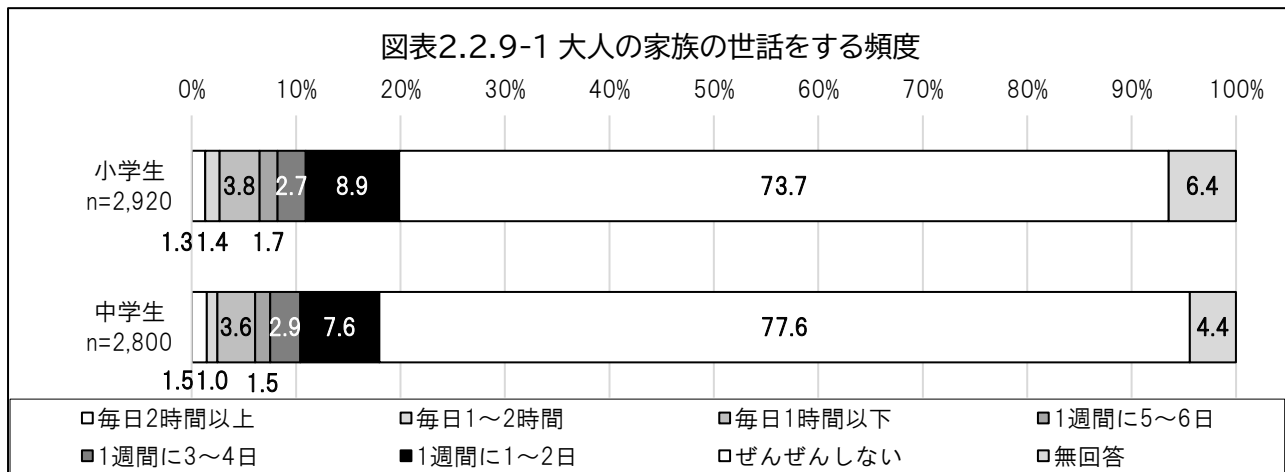
(8-3) 兄弟・姉妹の世話（世帯別）

○「毎日する」と回答した割合（「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」の合計）は、全体では小学生が20.5%、中学生が14.8%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が19.2%、中学生が12.1%となっています。



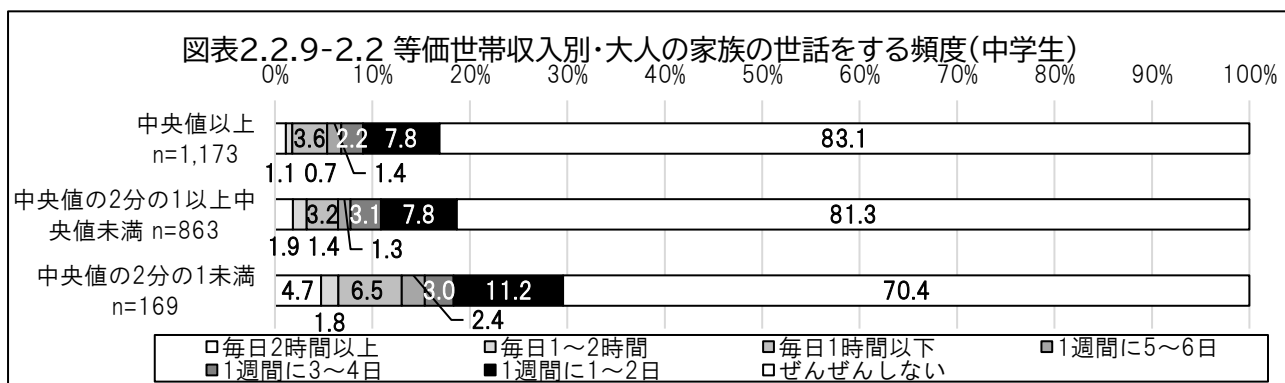
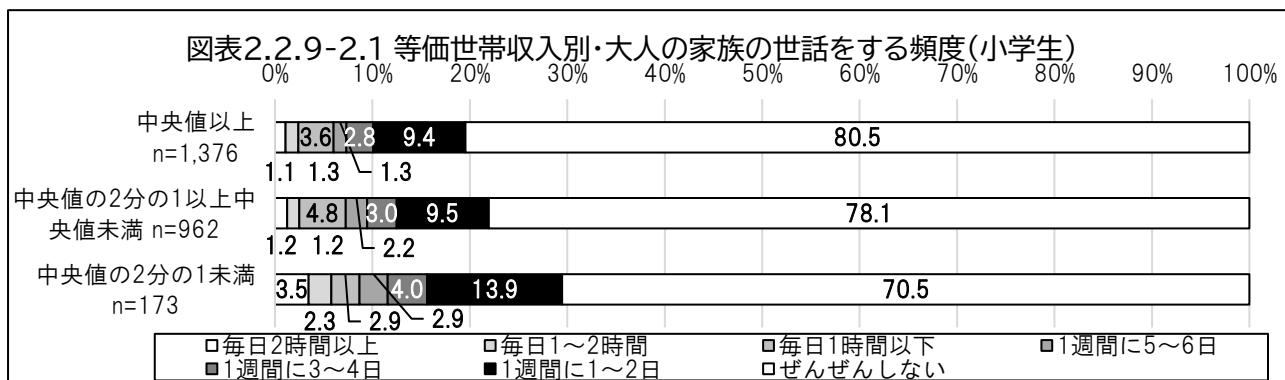
(9-1) 親や祖父母など大人の家族の世話（全体）

○普段兄弟・姉妹の世話をする頻度について、「毎日する」と回答した割合（「毎日2時間以上」と「毎日1～2時間」と「毎日1時間以下」の合計）は、小学生が6.5%、中学生が6.1%となっています。



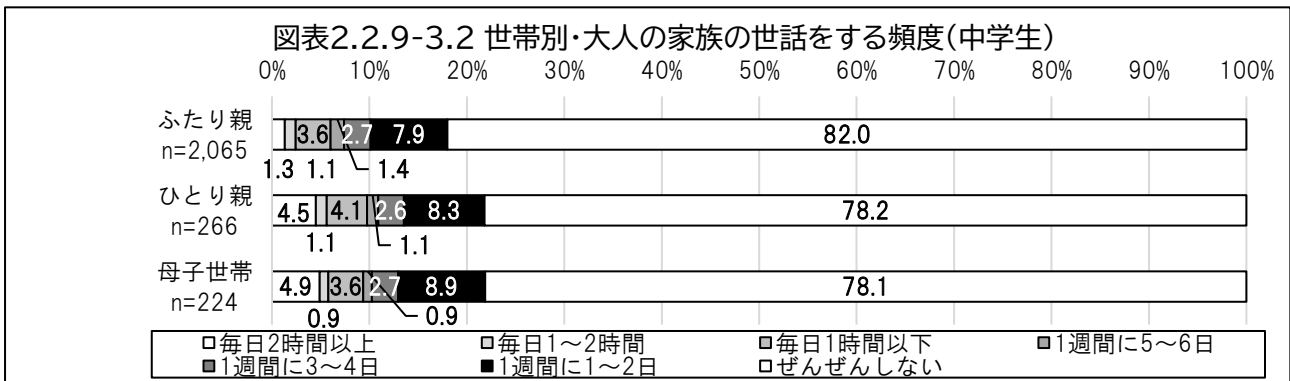
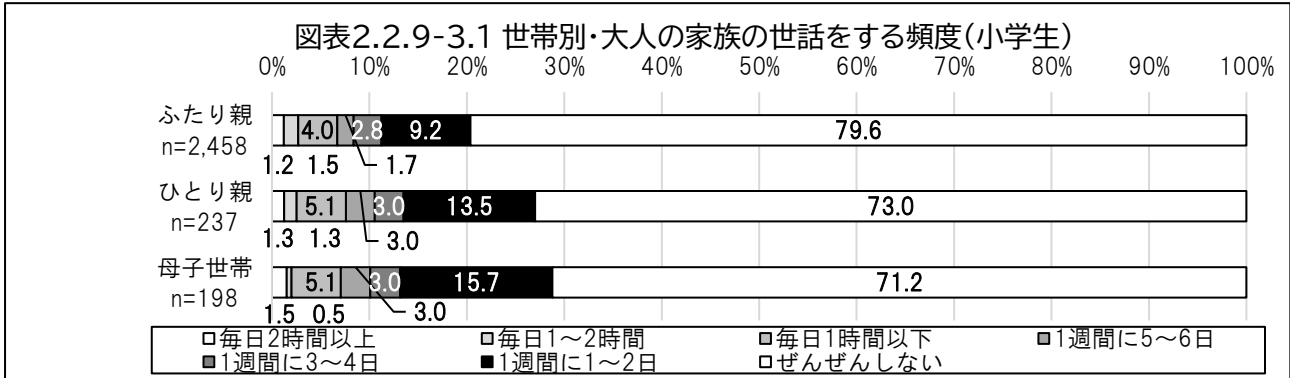
(9-2) 親や祖父母など大人の家族の世話（等価世帯収入別）

○「毎日する」と回答した割合（「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」の合計）は、全体では小学生が6.5%、中学生が6.1%であったのに対し、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学生が8.7%、中学生が13.0%となっています。



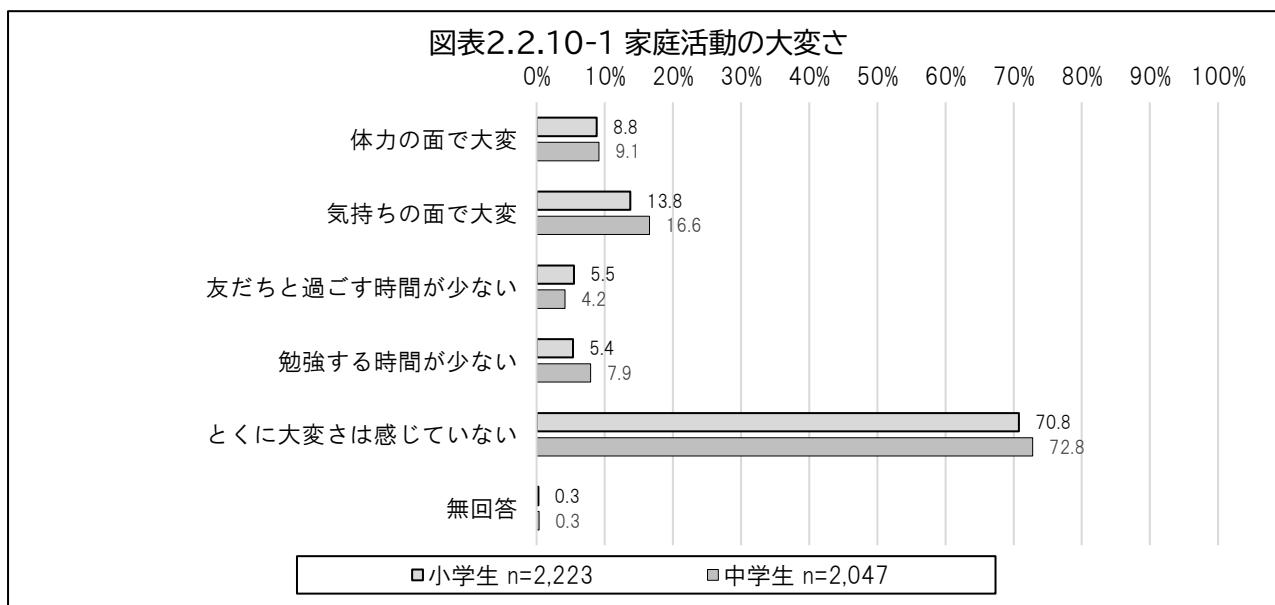
(9-3) 親や祖父母など大人の家族の世話(世帯別)

○「毎日する」と回答した割合(「毎日2時間以上」「毎日1~2時間」「毎日1時間以下」の合計)は、全体では小学生が6.5%、中学生が6.1%であったのに対し、ひとり親世帯では小学生が7.7%、中学生が9.7%となっています。



(10-1) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）、兄弟・姉妹の世話、親や祖父母など大人の家族の世話の活動に感じる大変さ（全体）

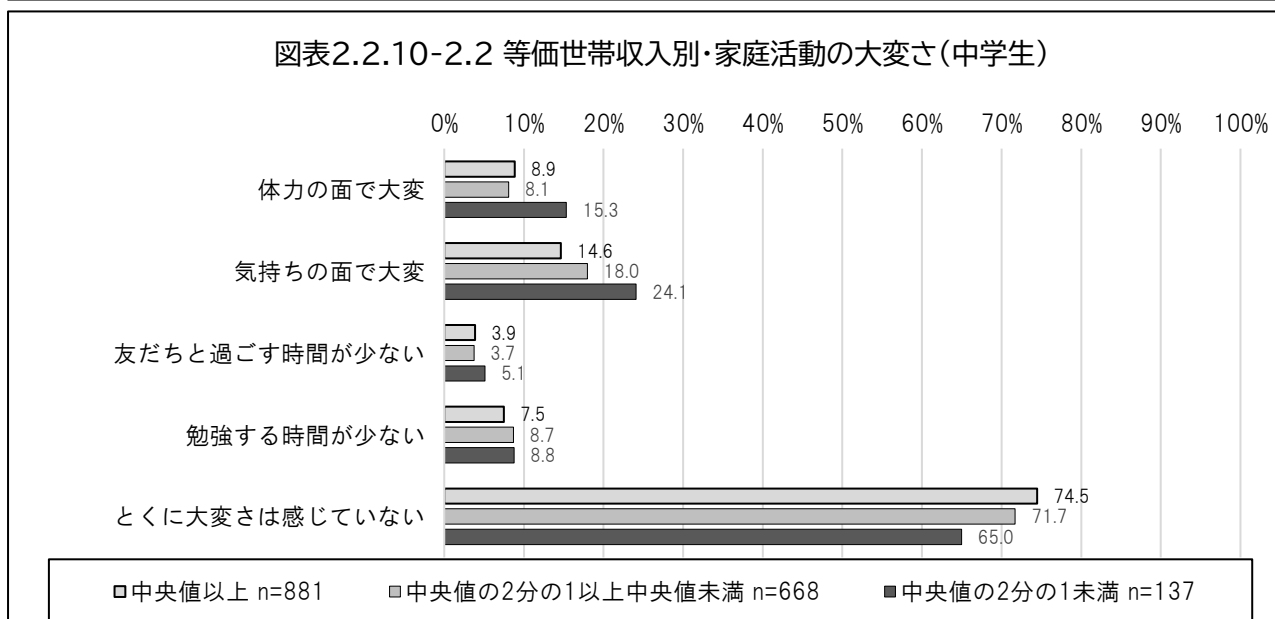
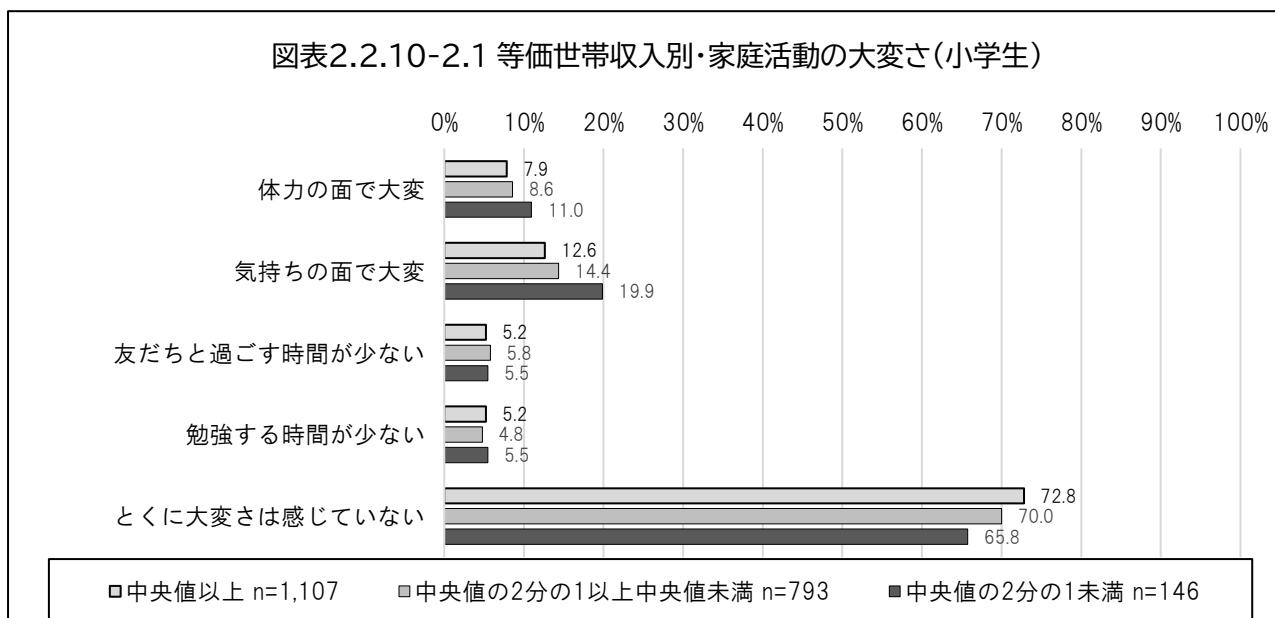
○小学生、中学生ともに、「気持ちの面で大変」（13.8%、16.6%）が高く、次いで「体力の面で大変」（8.8%、9.1%）となっています。「友だちと過ごす時間が少ない」、「勉強する時間が少ない」と回答した割合は5%程度となっています。





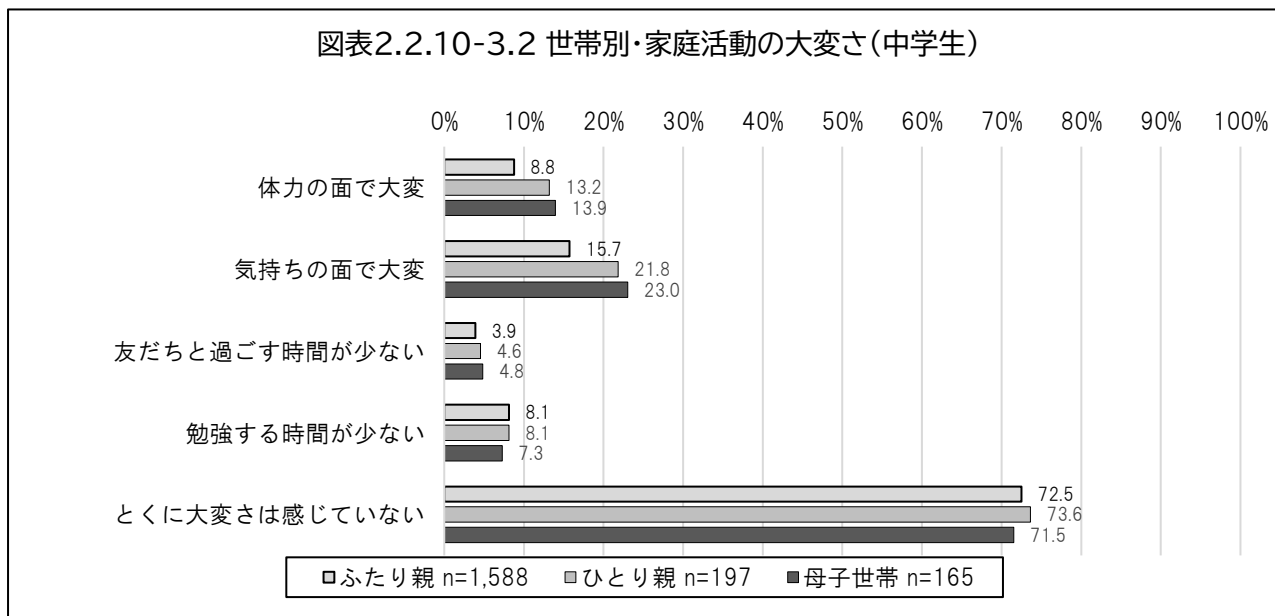
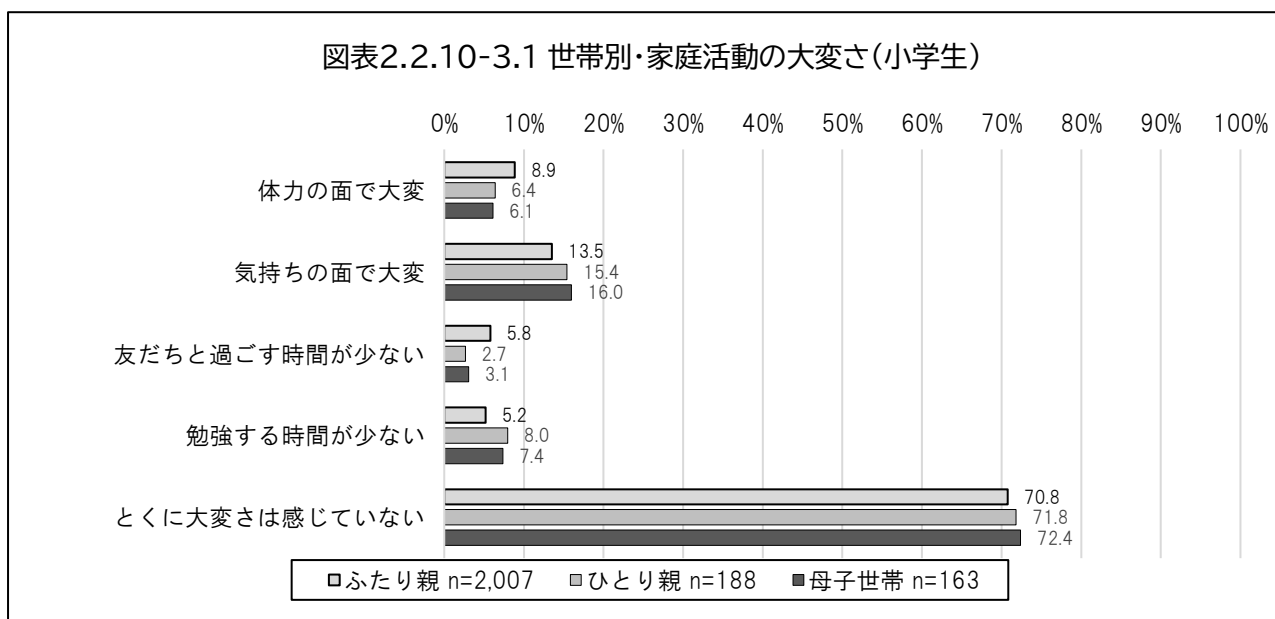
(10-2) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）、兄弟・姉妹の世話、親や祖父母など大人の家族の世話の活動に感じる大変さ（等価世帯収入別）

○「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では、「気持ちの面で大変」と回答した割合は小学生が19.9%、中学生が24.1%、「体力の面で大変」は小学生が11.0%、中学生が15.3%と、「中央値以上」「中央値の2分の1以上中央値未満」と比較して高くなっています。



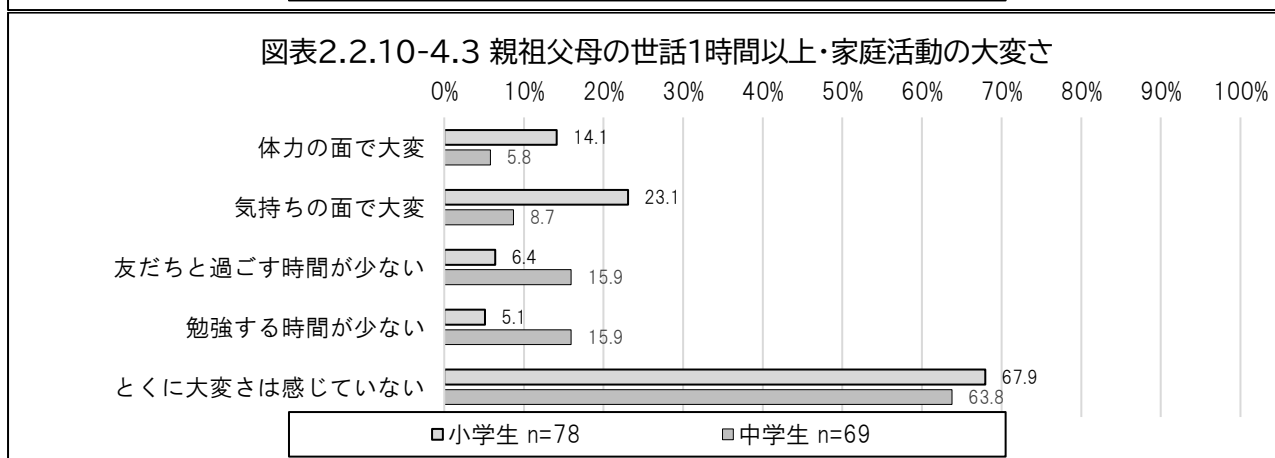
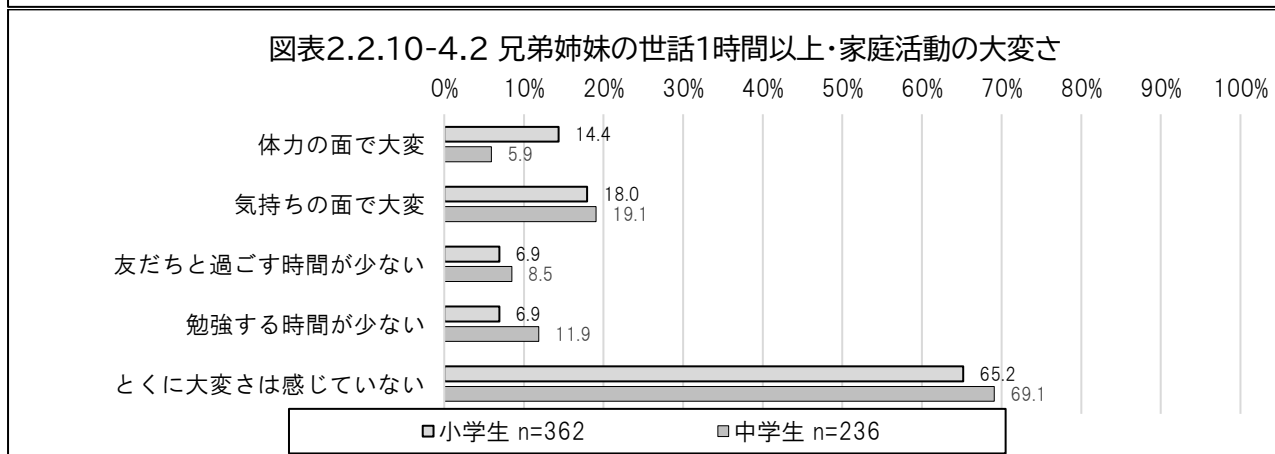
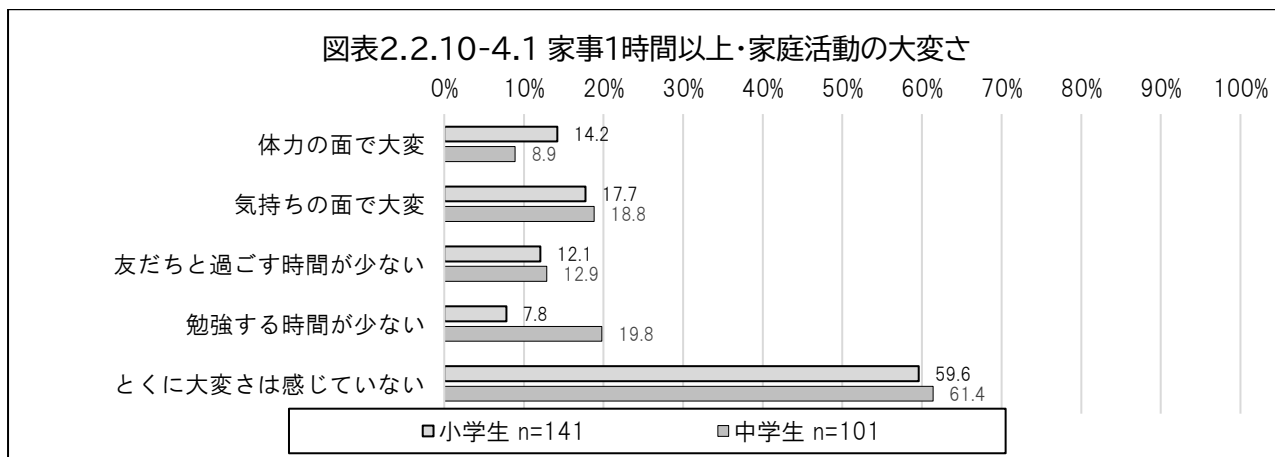
(10-3) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）、兄弟・姉妹の世話、親や祖父母など大人の家族の世話の活動に感じる大変さ（世帯別）

○ひとり親世帯では、「気持ちの面で大変」と回答した割合は小学生が15.4%、中学生が21.8%と、「ふたり親」と比較してやや高くなっています。「体力の面で大変」は小学生が6.4%で、「ふたり親」と比較してやや低くなっている一方、中学生が13.2%で、「ふたり親」と比較してやや高くなっています。



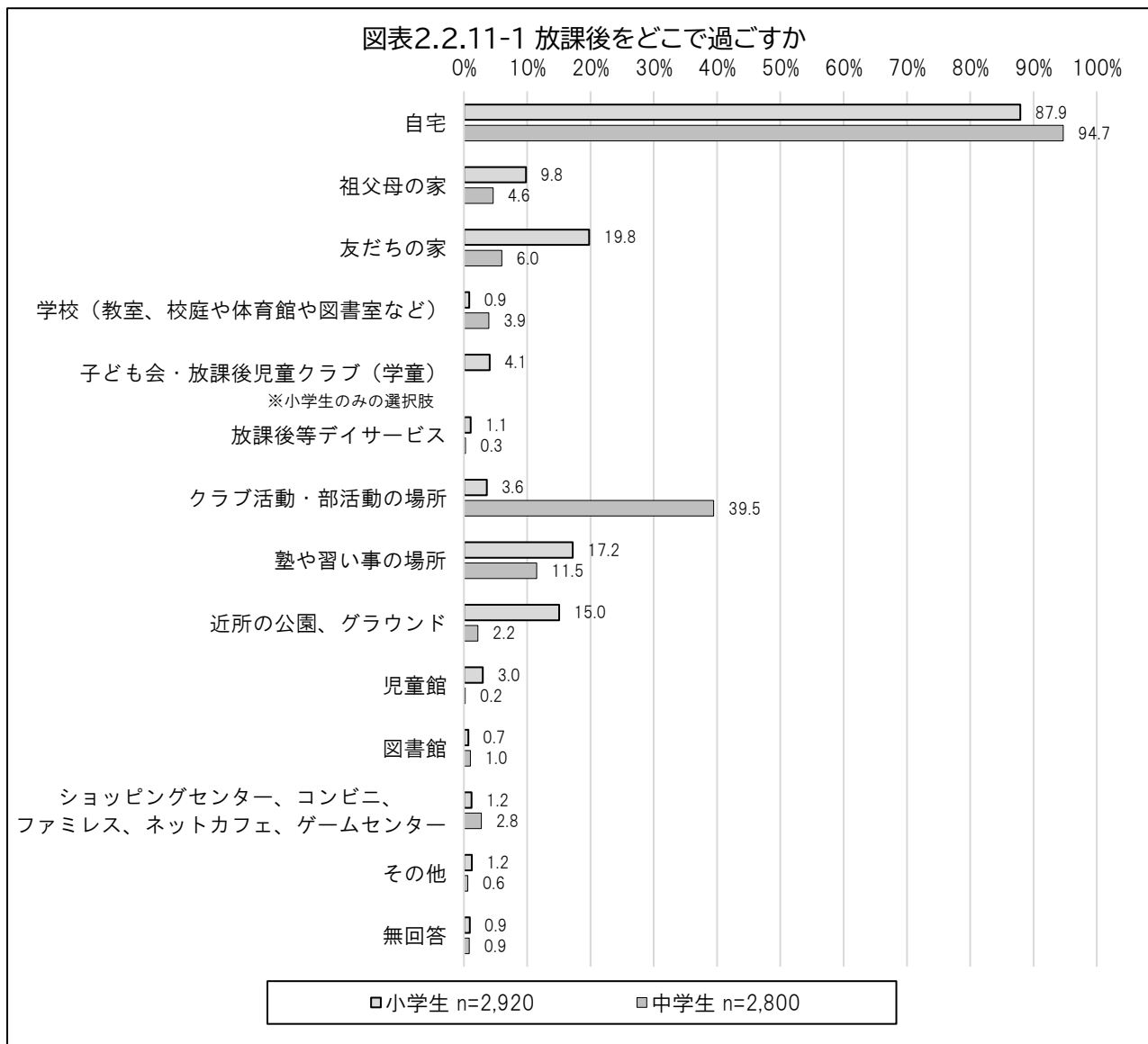
(10-4) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）、兄弟・姉妹の世話、親や祖父母など大人の家族の世話の活動に感じる大変さ（各項目を毎日1時間以上従事している場合）

○いずれの項目でも、小学生では、「気持ちの面で大変」（17.7%、18.0%、23.1%）、「体力の面で大変」（14.2%、14.4%、14.1%）と回答した割合が高くなっています。中学生では、「家事」と「兄弟姉妹の世話」の項目で「気持ちの面で大変」（18.8%、19.1%）、「勉強する時間が少ない」（19.8%、11.9%）と回答した割合が高く、「親祖父母の世話」の項目で「友だちと過ごす時間が少ない」（15.9%）、「勉強する時間が少ない」（15.9%）と回答した割合が高くなっています。



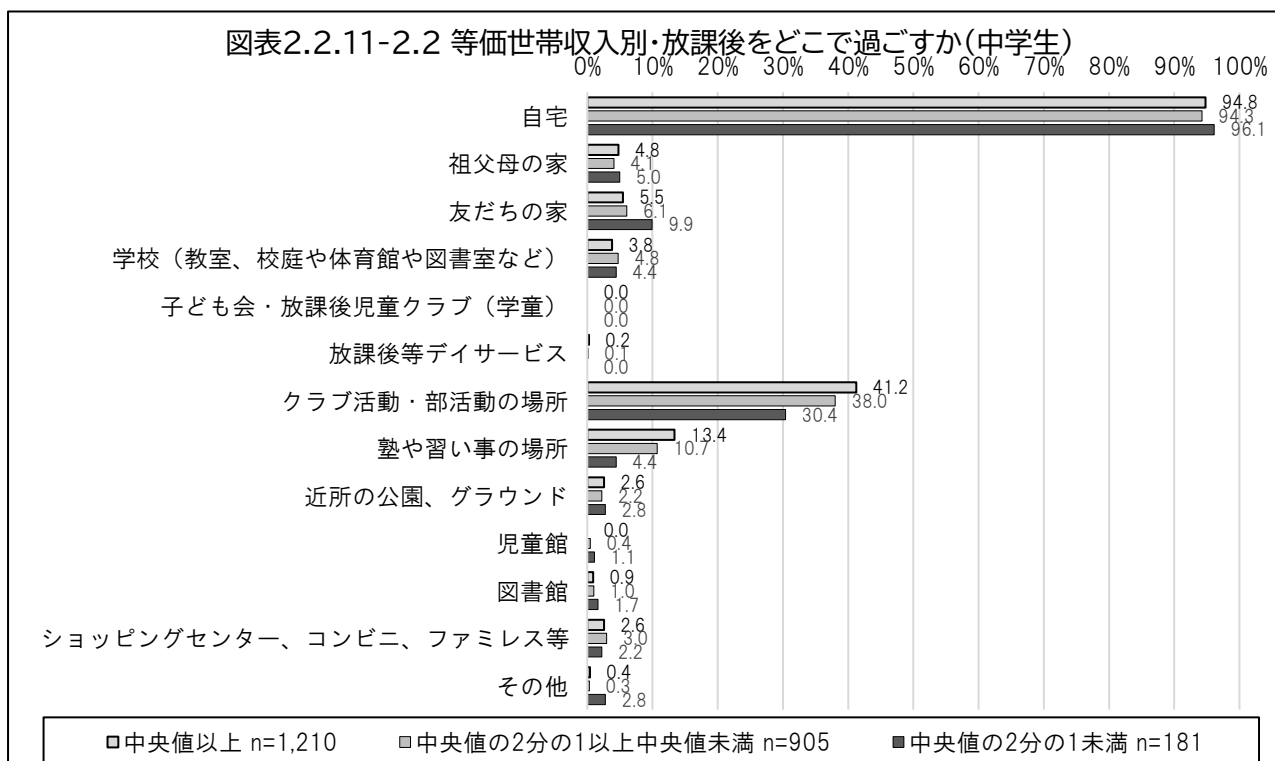
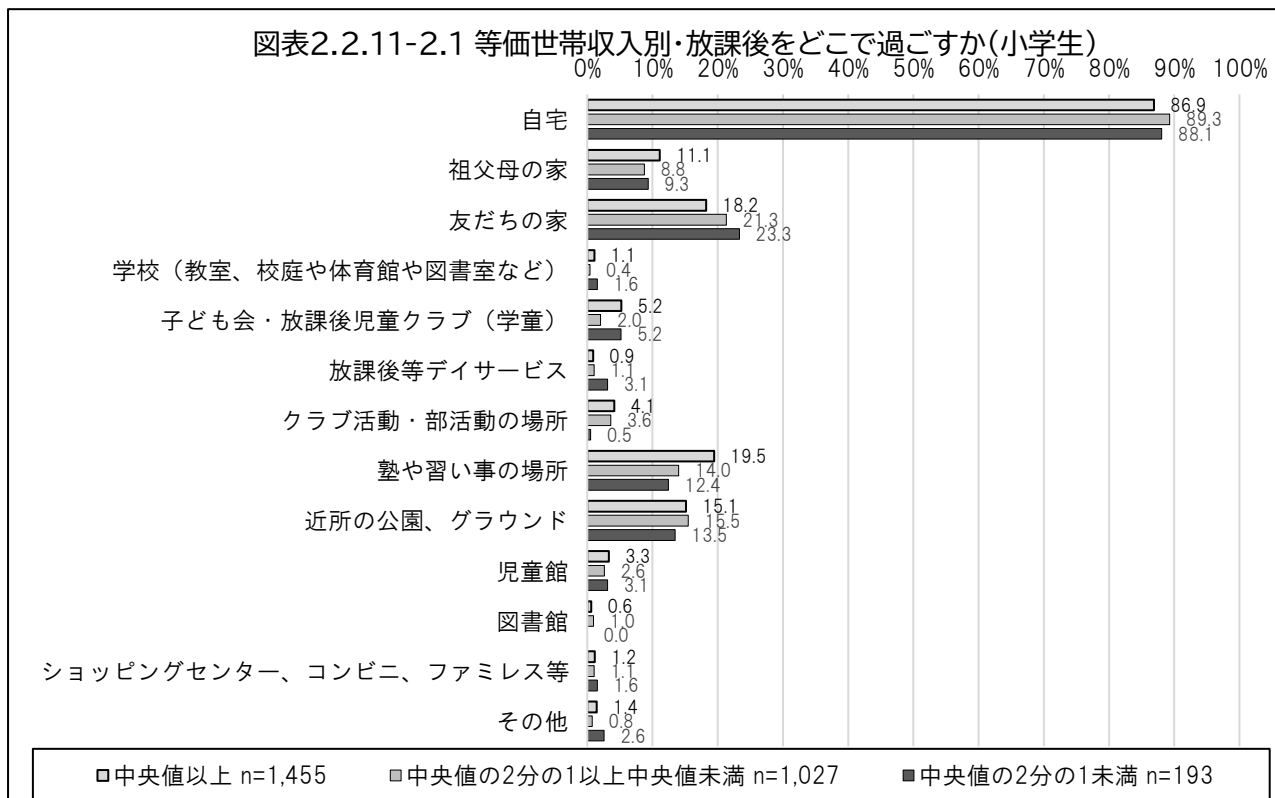
(11-1) あなたは学校が終わってからどこで過ごすことが多いですか。(全体)

○「自宅」と回答した割合が、小学生、中学生ともに最も高く(87.9%、94.7%)なっています。小学生では、次いで「友だちの家」(19.8%)、「塾や習い事の場所」(17.2%)、「近所の公園、グラウンド」(15.0%)となっています。中学生では、次いで「クラブ活動・部活動の場所」(39.5%)となっています。



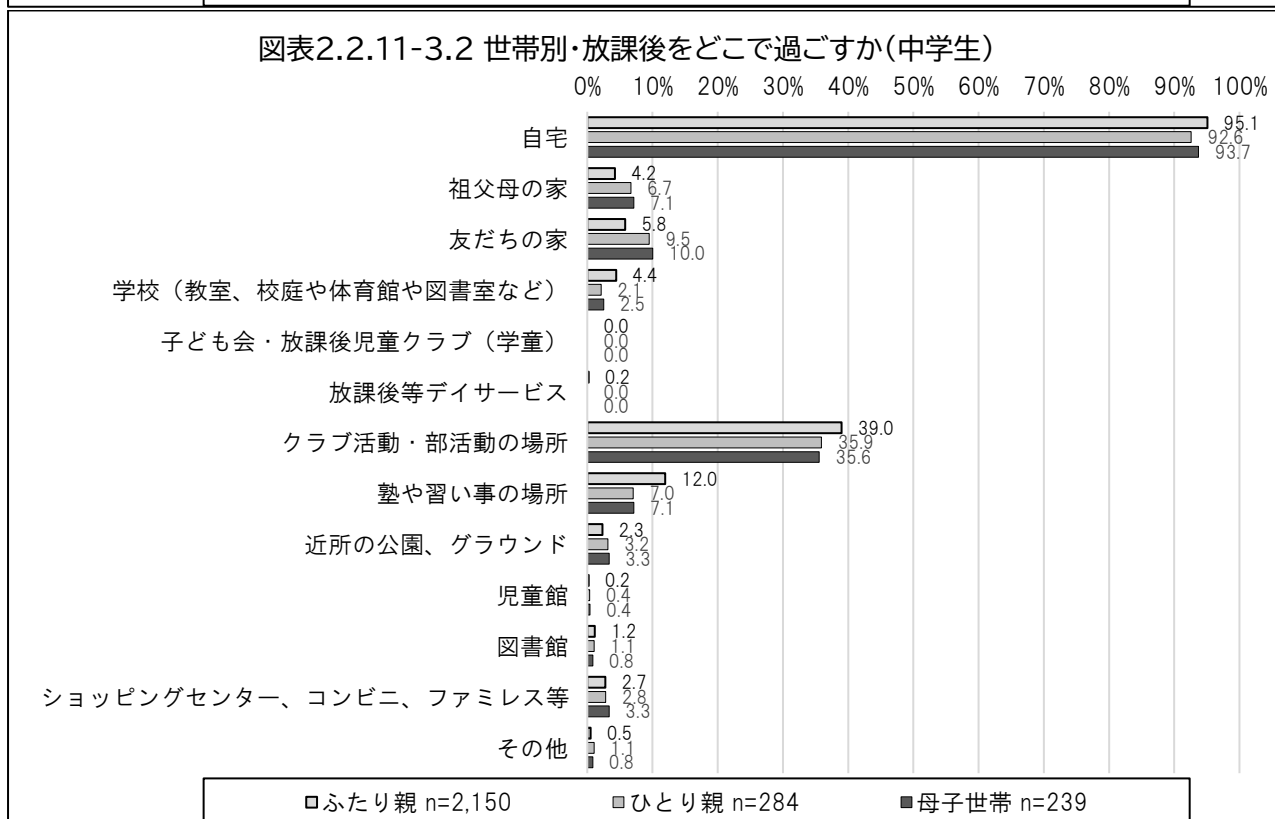
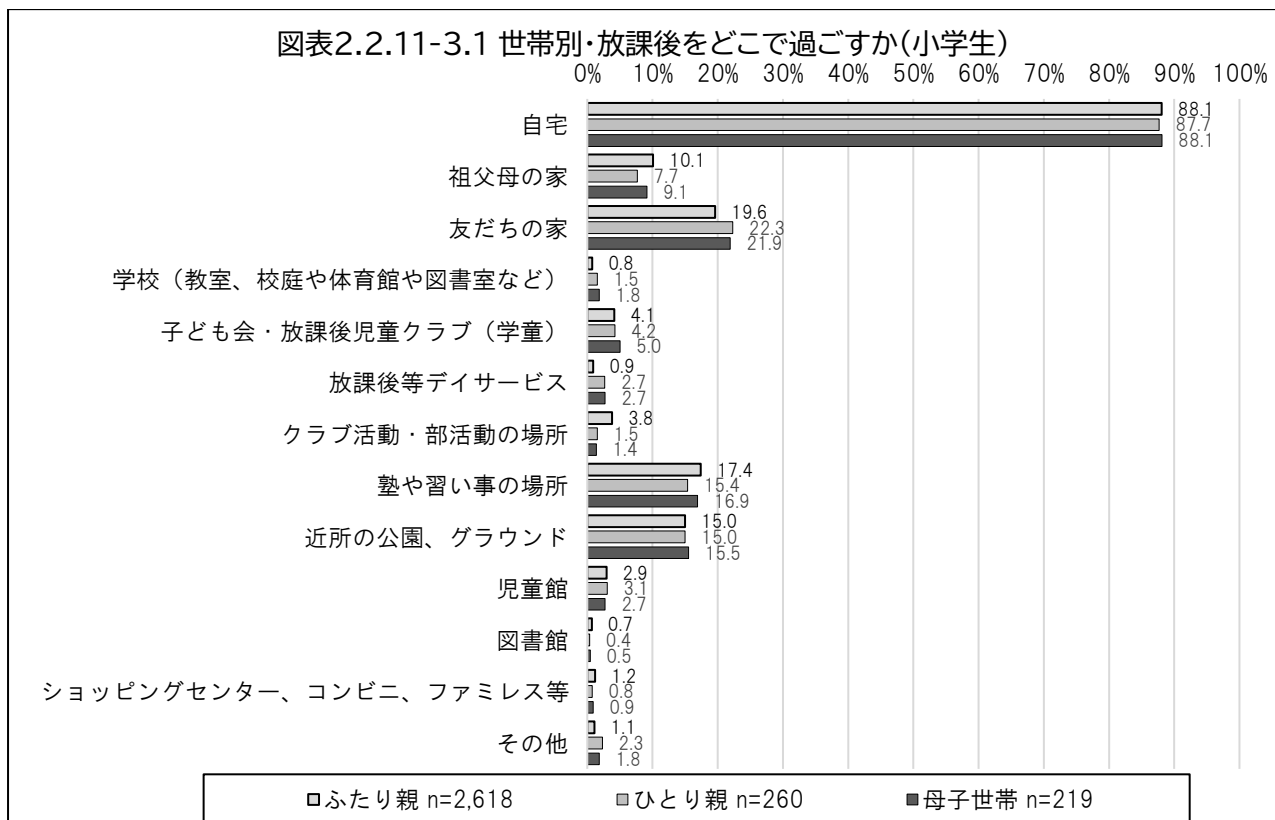
(11-2) あなたは学校が終わってからどこで過ごすことが多いですか。(等価世帯収入別)

○「もっとも収入の水準が低い世帯(中央値の2分の1未満)」では、小学生、中学生ともに「クラブ活動・部活動の場所」(0.5%、30.4%)、「塾や習い事の場所」(12.4%、4.4%)と、「中央値以上」「中央値の2分の1以上中央値未満」と比較してやや低くなっています。



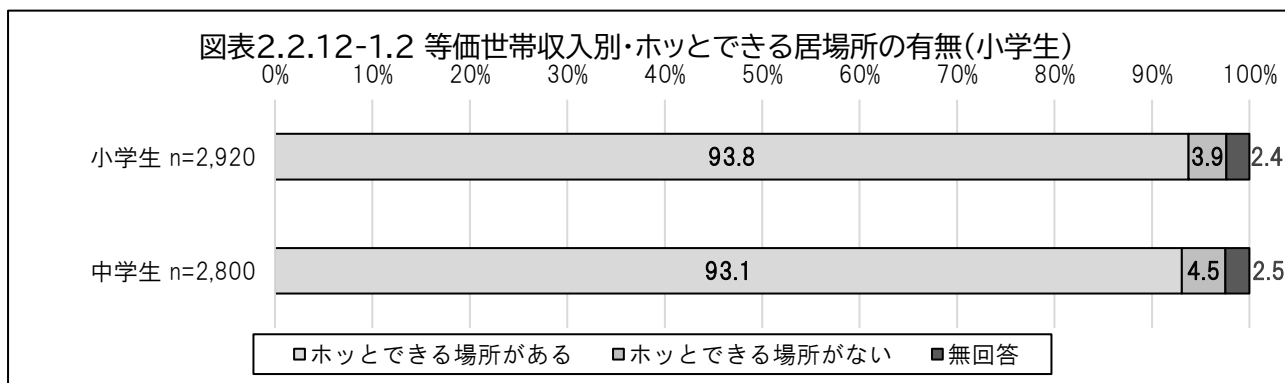
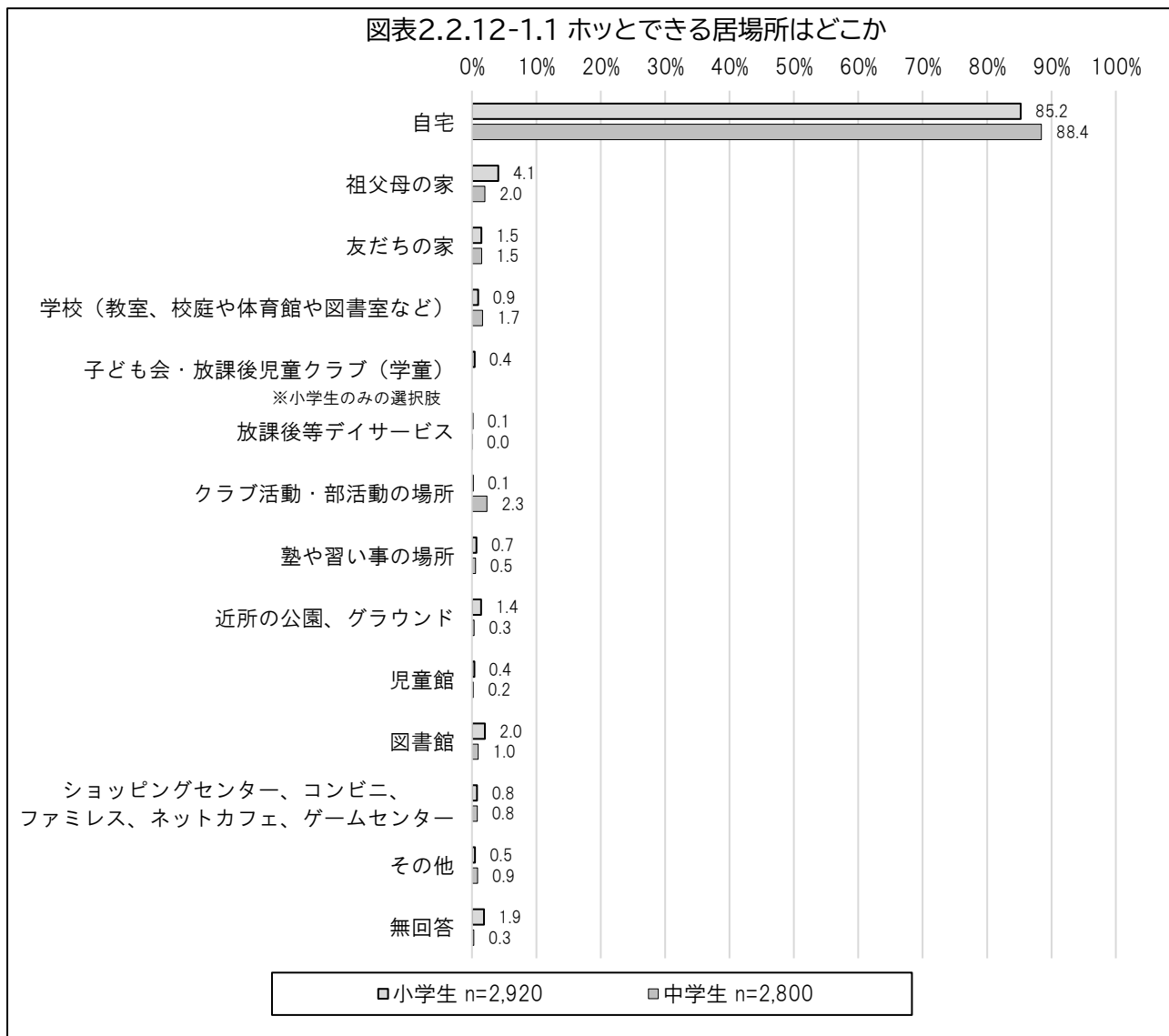
(11-3) あなたは学校が終わってからどこで過ごすことが多いですか。(世帯別)

〇ひとり親世帯では、小学生、中学生ともに「クラブ活動・部活動の場所」(1.5%、35.9%)、「塾や習い事の場所」(15.4%、7.0%)と、「ふたり親」と比較してやや低くなっています。



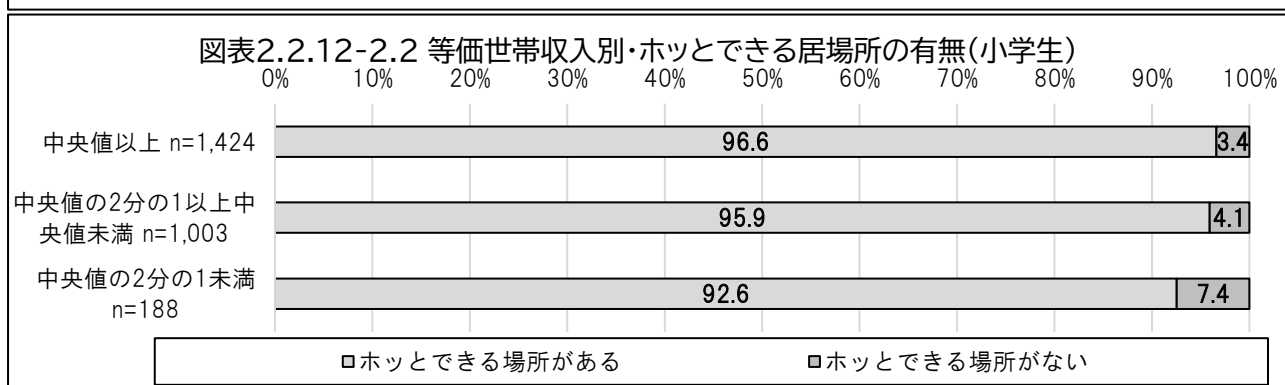
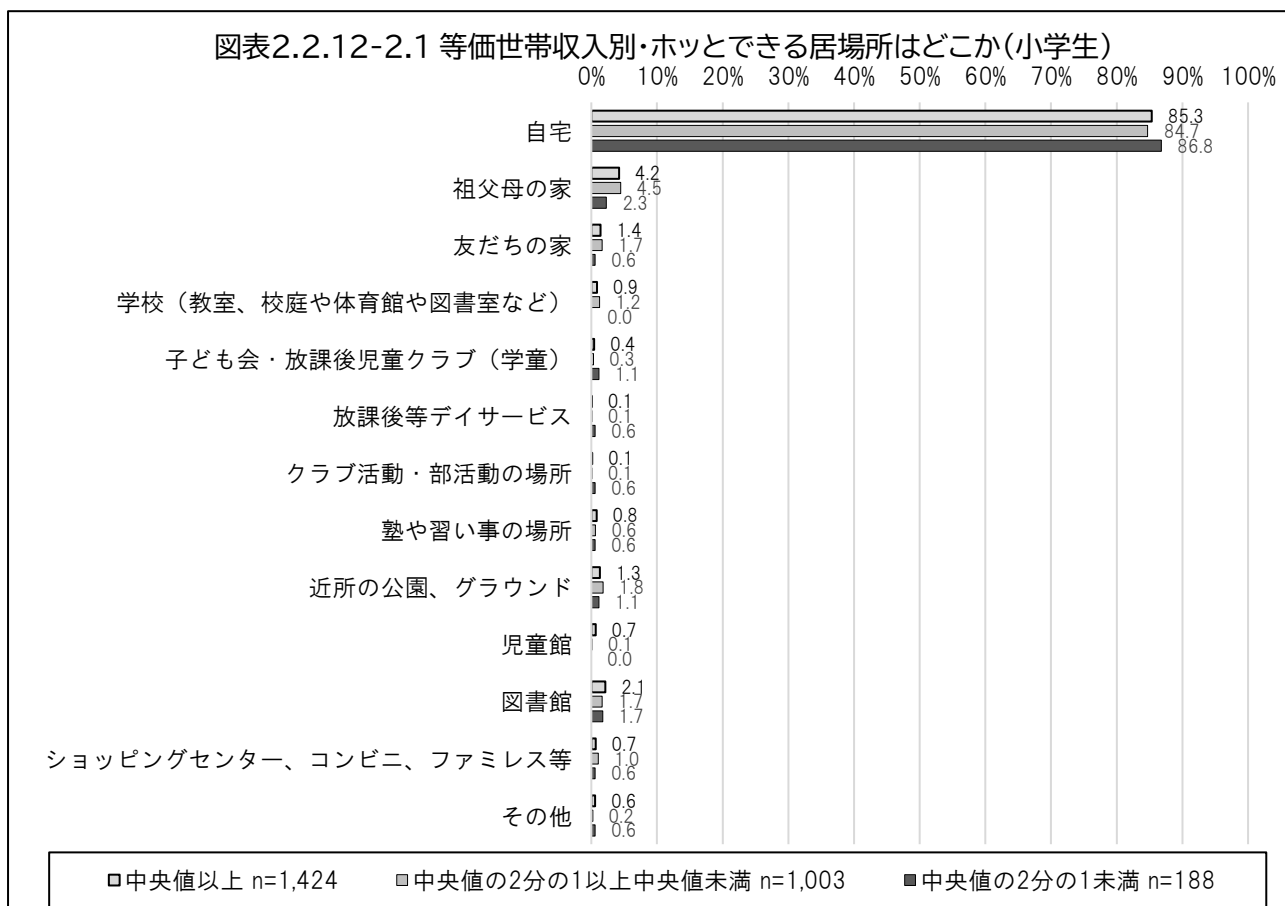
(12-1) あなたがホッとできる居場所はどこですか。(全体)

○ホッとできる居場所について、小学生、中学生ともに「自宅」(85.2%、88.4%)が最も高くなっています。また、「ホッとできる場所がある」と回答した割合は、小学生が93.8%、中学生が93.1%となっています。



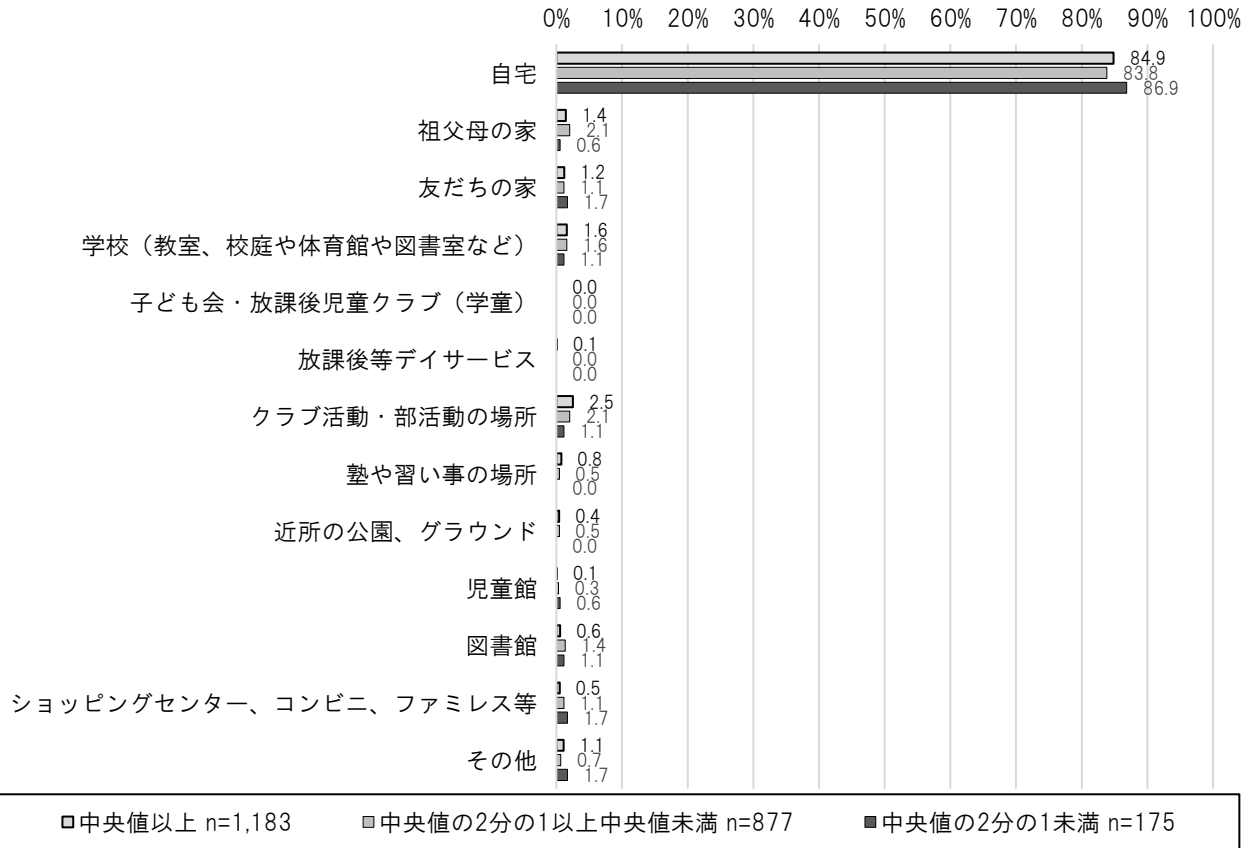
(12-2) あなたがホッとできる居場所はどこですか。(等価世帯収入別)

○ホッとできる場所について、「もっとも収入の水準が低い世帯(中央値の2分の1未満)」では、小学生、中学生ともに「自宅」(86.8%、86.9%)が最も高くなっており、全体と大差はありません。小学生では、「ホッとできる居場所がない」と回答した割合が7.4%となっており、全体(3.9%)と比較してやや高くなっています。

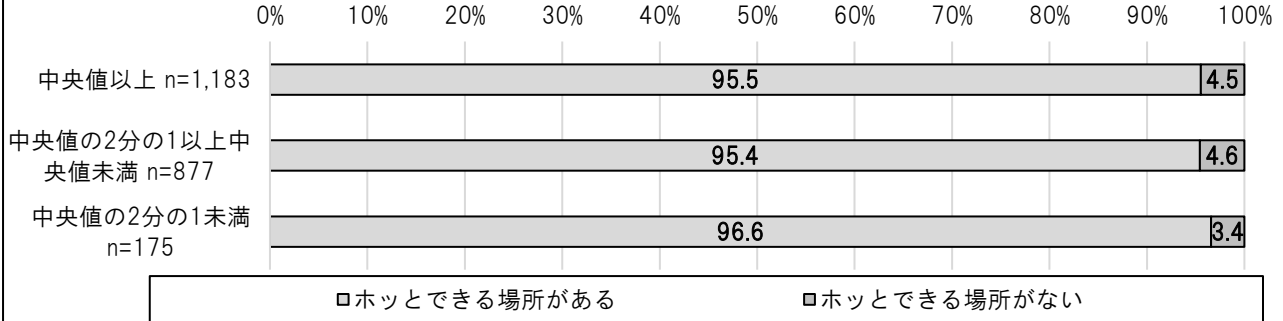




図表2.2.12-2.3 等価世帯収入別・ホッとできる居場所はどこか(中学生)

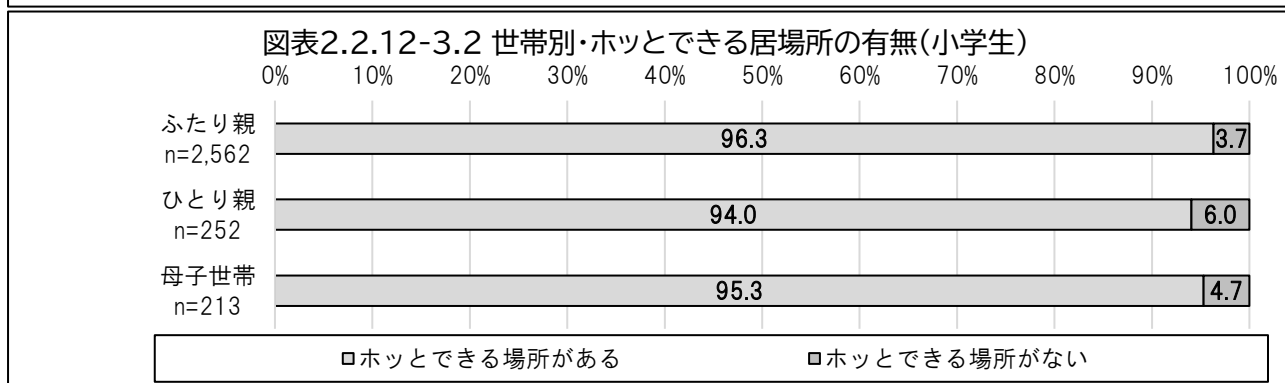
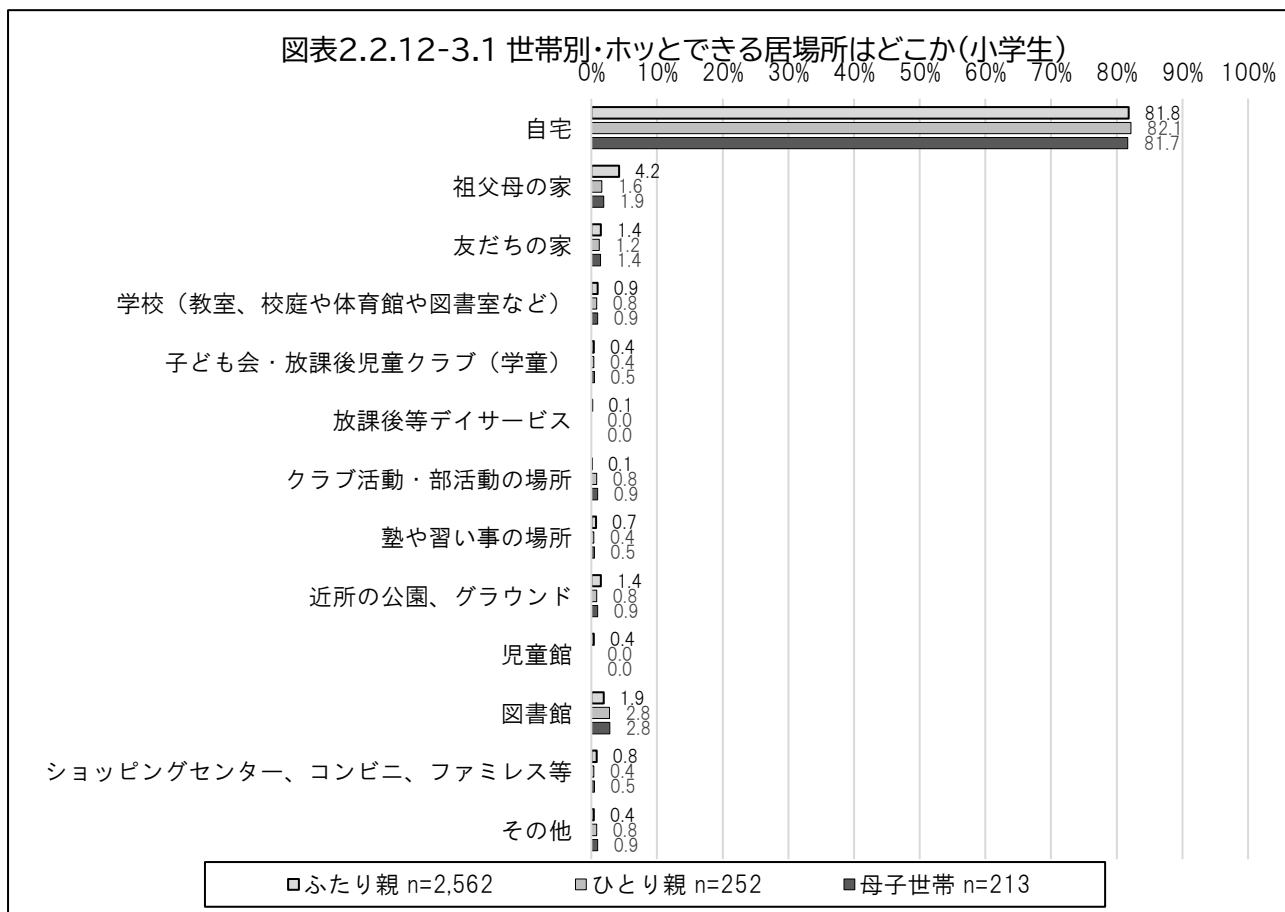


図表2.2.12-2.4 等価世帯収入別・ホッとできる居場所の有無(中学生)

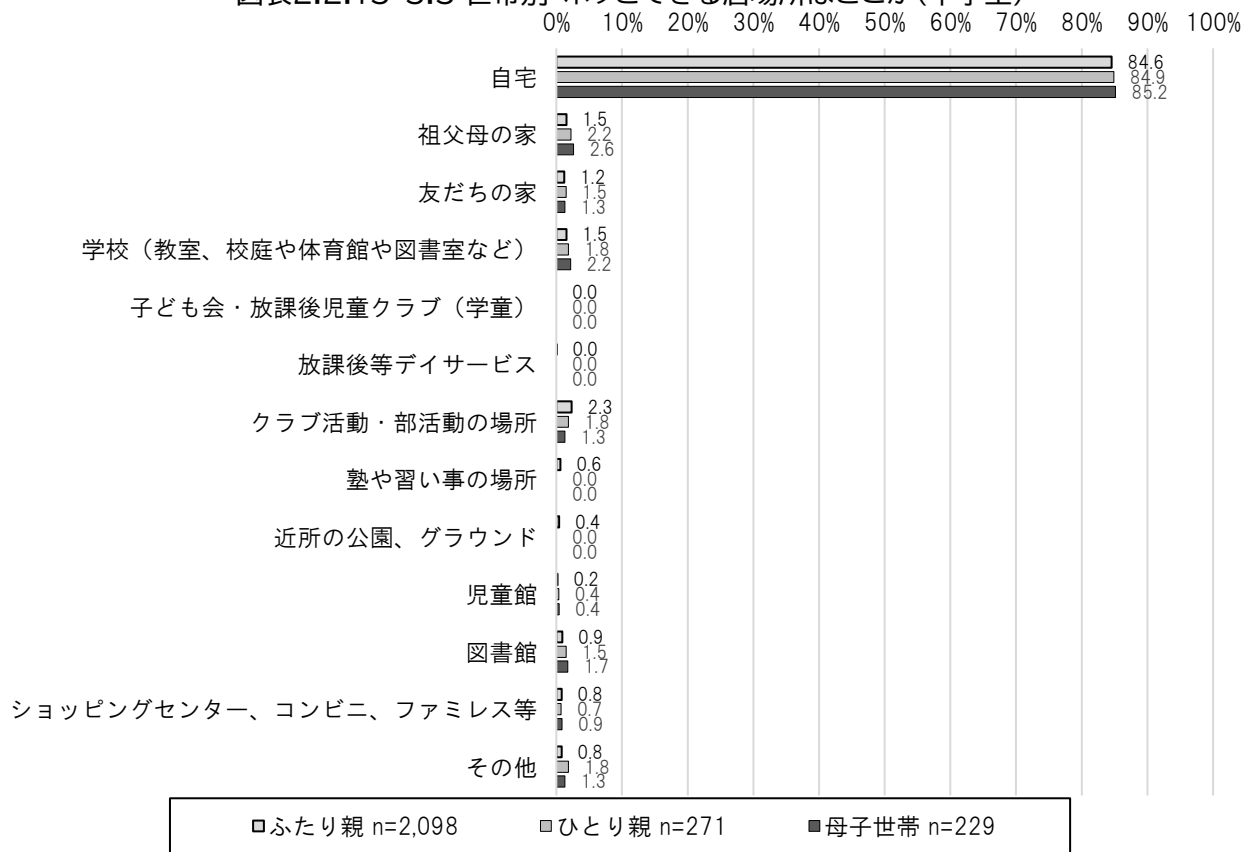


(12-3) あなたがホッとできる居場所はどこですか。(世帯別)

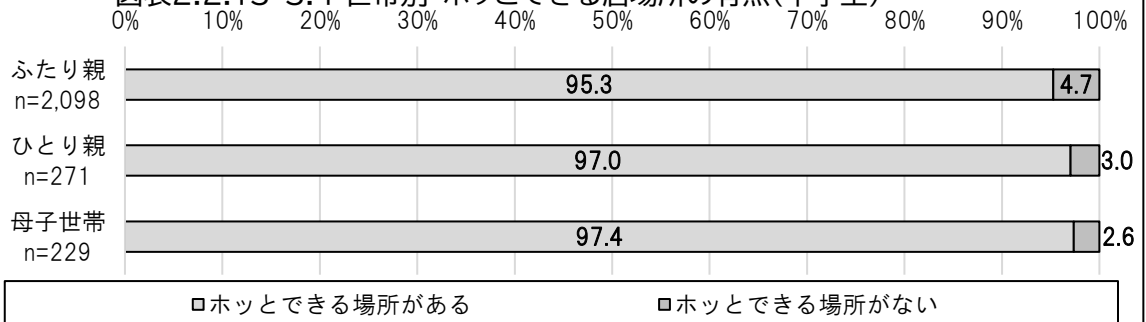
○ホッとできる場所について、ひとり親世帯では、小学生、中学生ともに「自宅」(82.1%、84.9%)が最も高くなっており、全体と大差はありません。小学生では、「ホッとできる居場所がない」と回答した割合が6.0%となっており、全体(3.9%)と比較してやや高くなっています。



図表2.2.13-3.3 世帯別・ホッとできる居場所はどこか(中学生)



図表2.2.13-3.4 世帯別・ホッとできる居場所の有無(中学生)





## 富山市

### 子どもの生活実態調査結果報告書【概要版】

発行日 令和6年3月  
発行者 富山県 富山市役所 こども家庭部 こども支援課  
住 所 〒930-8510 富山県富山市新桜町7番38号  
T E L 076-443-2252  
F A X 076-443-2169  
URL <https://www.city.toyama.lg.jp/>

